



D-Link DBA シリーズ
(DBA-1210P/DBA-2520P/DBA-2620P/
DBA-2720P/DBA-2820P/DBA-3621P)

D-Link Nuclias – Cloud networking solution

..... ユーザマニュアル

D-Link[®]
Building Networks for People




安全にお使いいただくために



ご自身の安全を確保し、システムを破損から守るために、以下に記述する安全のための指針をよくお読みください。

安全上のご注意










必ずお守りください

本製品を安全にお使いいただくために、以下の項目をよくお読みになり必ずお守りください。





 危険	この表示を無視し、間違った使い方をすると、死亡または重傷を負うおそれがあります。
 警告	この表示を無視し、間違った使い方をすると、火災や感電などにより人身事故になるおそれがあります。
 注意	この表示を無視し、間違った使い方をすると、傷害または物損損害が発生するおそれがあります。

記号の意味  してはいけない「**禁止**」内容です。  必ず実行していただく「**指示**」の内容です。










危険

- | | |
|---|---|
| <p> 禁止 分解・改造をしない
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。</p> <p> 禁止 ぬれた手でさわらない
感電の原因となります。</p> <p> 禁止 水をかけたり、ぬらしたりしない
内部に水が入ると、火災、感電、故障の原因となります。</p> <p> 禁止 水などの液体（飲料水、汗、海水、ペットの尿など）でぬれた状態で触ったり、電源を入れたりしない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。</p> <p> 禁止 各種端子やスロットに水などの液体（飲料水、汗、海水、ペットの尿など）をいれない。万が一、入ってしまった場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜く
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。</p> | <p> 禁止 油煙、湯気、湿気、埃の多い場所、高温になる場所や熱のこもりやすい場所（火のそば、暖房器具のそば、こたつや布団の中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内、風呂場など）、振動の激しい場所では、使用、保管、放置しない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。</p> <p> 禁止 内部に金属物や燃えやすいものを入れない
火災、感電、故障の原因となります。</p> <p> 禁止 砂や土、泥をかけたり、直に置いたりしない。また、砂などが付着した手で触れない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。</p> <p> 禁止 電子レンジ、IH 調理器などの加熱調理機、圧力釜など高圧容器に入れたり、近くに置いたりしない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。</p> |
|---|---|













警告

- | | |
|--|---|
| <p> 禁止 落としたり、重いものを乗せたり、強いショックを与えたり、圧力をかけたりしない
故障の原因となります。</p> <p> 禁止 発煙、焦げ臭い匂いの発生などの異常状態のまま使用しない
感電、火災の原因となります。
使用を止めて、ケーブル/コード類を抜いて、煙が出なくなつてから販売店に修理をご依頼ください。</p> <p> 禁止 表示以外の電圧で使用しない
火災、感電、または故障の原因となります。</p> <p> 禁止 たこ足配線禁止
たこ足配線などで定格を超えると火災、感電、または故障の原因となります。</p> <p> 指示 設置、移動のときは電源プラグを抜く
火災、感電、または故障の原因となります。</p> <p> 禁止 雷鳴が聞こえたら、ケーブル/コード類にはさわらない
感電の原因となります。</p> <p> 禁止 ケーブル/コード類や端子を破損させない
無理なねじり、引っ張り、加工、重いもの下敷きなどは、ケーブル/コードや端子の破損の原因となり、火災、感電、または故障の原因となります。</p> <p> 指示 本製品付属の AC アダプタもしくは電源ケーブルを指定のコンセントに正しく接続して使用する
火災、感電、または故障の原因となります。</p> <p> 禁止 各光源をのぞかない
光ファイバケーブルの断面、コネクタおよび本製品のコネクタや LED をのぞきますと強力な光源により目を損傷するおそれがあります。</p> <p> 禁止 各種端子やスロットに導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）を接触させたり、ほこりが内部に入ったりしないようにする
火災、やけど、けが、感電または故障の原因となります。</p> <p> 禁止 使用中に布団で覆ったり、包んだりしない
火災、やけどまたは故障の原因となります。</p> | <p> 指示 ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する可能性のある場所や粉じんが発生する場所に立ち入る場合は、必ず事前に本製品の電源を切る
引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。</p> <p> 禁止 カメラのレンズに直射日光などを長時間あてない
素子の退色、焼付きや、レンズの集光作用により、火災、やけど、けがまたは故障の原因となります。</p> <p> 指示 無線製品は病院内で使用する場合は、各医療機関の指示に従って使用する
電子機器や医療電気機器に悪影響を及ぼすおそれがあります。</p> <p> 禁止 本製品の周辺に放熱を妨げるようなもの（フィルムやシールでの装飾を含む）を置かない
火災、または故障の原因となります。</p> <p> 指示 耳を本体から離してご使用ください
大きな音を長時間連続して聞くと、難聴などの耳の障害の原因となります。</p> <p> 指示 無線製品をご使用の場合、医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカーもしくは、販売業者に、電波による影響について確認の上使用する
医療電気機器に悪影響を及ぼすおそれがあります。</p> <p> 指示 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない
電子機器が誤作動するなど、悪影響を及ぼすおそれがあります。</p> <p> 指示 ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際は、割れたガラスや露出した端末内部に注意する
破損部や露出部に触れると、やけど、けが、感電の原因となります。</p> <p> 指示 ベットなどが本機に噛みつかないように注意する
火災、やけど、けがなどの原因となります。</p> <p> 禁止 コンセントに AC アダプタや電源ケーブルを抜き差しするときは、金属類を接触させない
火災、やけど、感電または故障の原因となります。</p> <p> 禁止 AC アダプタや電源ケーブルに海外旅行用の変圧器等を使用しない
発火、発熱、感電または故障の原因となります。</p> |
|--|---|

警告

-  ACアダプタもしくは電源プラグについたほこりは、拭き取るほこりが付着した状態で使用すると、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  ACアダプタや電源ケーブルをコンセントにさしこむときは、確実に差し込む。確実に差し込まないと、火災、やけど、感電もしくは故障の原因となります。
-  接続端子が曲がるなど変形した場合は、直ちに使用を中止する。また、変形をもとに戻しての使用も行わない。端子のショートにより、火災、やけど、けが、感電または故障の原因となります。
-  各種接続端子を機器本体に接続する場合、斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしない。火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  使用しない場合は、ACアダプタもしくは電源ケーブルをコンセントから抜く。電源プラグを差したまま放置すると、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  お手入れの際は、ACアダプタもしくは電源ケーブルをコンセントから抜く。抜かずに行くと、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  SD や MicroSD カード、USB メモリの使用中は、カードやメモリを取り外したり、本製品の電源を切ったりしない。データの消失、機器本体の故障の原因となります。
-  磁気カードや磁気を帯びたものを本製品に近づけない。磁気カードのデータが消えてしまうおそれもしくは機器本体の誤作動の原因となります。
-  ディーリンクジャパンが販売している無線機器は国内専用のため、海外で使用しない。海外では国によって電波使用制限があるため、本製品を使用した場合、罰せられる場合があります。海外から持ち込んだディーリンク製品や並行輸入品を日本国内で使用する場合も同様に、罰せられる場合があります。

注意

-  乳幼児の手の届く場所では使わない。やけど、ケガまたは感電の原因となります。
-  静電気注意。コネクタや電源プラグの金属端子に触れたり、帯電したものを近づけると故障の原因となります。
-  コードを持って抜かない。コードを無理に曲げたり、引っ張ると、コードや機器本体の破損の原因となります。
-  振動が発生する場所では使用しない。故障の原因となります。
-  付属品の使用は取扱説明書に従う。本製品の付属品は、取扱説明書に従い、他の製品に使用しないでください。機器の破損の原因となります。
-  破損したまま使用しない。火災、やけどまたはけがの原因となります。
-  ぐらついた台の上や傾いた場所などの不安定な場所や高所には置かない。落下して、けがなどの原因となります。
-  子供が使用する場合は、保護者が取扱いの方法を教え、誤った使い方をさせない。けがや故障などの原因となります。
-  本製品を長時間連続使用する場合は、温度が高くなることがあるため、注意する。また、使用中に眠ってしまうなどして、意図せず長時間触れることがないようにする。温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌の赤みやかゆみ、かぶれ、低温やけどの原因となります。
-  コンセントにつないだ状態で、ACアダプタや電源コンセントに長時間触れない。やけど、感電の原因となります。
-  一般の電話機やコードレス電話、テレビ、ラジオなどをお使いになっている近くで使用しない。近くで使用すると、本製品が悪影響を及ぼす原因となる場合があるため、なるべく離れた場所で使用してください。
-  D-Link が指定したオプション品がある場合は、指定オプション品を使用する。不正なオプション品を使用した場合、故障、破損の原因となります。

電波障害自主規制について

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。

この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ご使用上の注意

けがや感電、火災および装置の破損のリスクを減らすために、以下の注意事項を遵守してください。

- マニュアルなどに記載されている以外の方法でのご使用はやめてください。
- 食べ物や飲み物が本製品にかからないようにしてください。また、水気のある場所での運用は避けてください。
- 本製品の開口部に物をさしこまないでください。火事や感電を引き起こすことがあります。
- 付属の AC アダプタもしくは電源ケーブルのみを使用してください。
- 感電を防止するために、本製品と周辺機器の電源ケーブルは、正しく接地された電気コンセントに接続してください。
- やむなく延長コードや電源分岐回路を使用する場合においても、延長コードと電源分岐回路の定格を守ってください。延長コードまたは電源分岐回路に差し込まれているすべての製品の合計定格アンペア数が、その延長コードまたは、電源分岐回路の定格アンペア限界の 8 割を超えないことを確認してください。
- 一時的に急激に起こる電力の変動から本製品を保護するためには、サージサプレッサ、回線調整装置、または無停電電源装置（UPS）を使用してください。
- ケーブルと電源コードは慎重に取り付けてください。踏みつけられたり躓いたりしない位置に、ケーブルと電源コードを配線し、コンセントに差し込んでください。また、ケーブル上に物を置いたりしないようにしてください。
- 電源ケーブルや電源プラグを改造しないでください。
- システムに対応しているホットプラグ可能な電源装置に電源を接続したり、切り離したりする際には、以下の注意を守ってください。
 - 電源装置を取り付ける場合は、電源装置を取り付けてから、電源ケーブルを電源装置に接続してください。
 - 電源装置を取り外す場合は、事前に電源ケーブルを抜いておいてください。
 - システムに複数の電源がある場合、システムから電源を切り離すには、すべての電源ケーブルを電源装置から抜いておいてください。
- 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取り扱い説明書に従ってください。
- 本製品は動作中に高温になる場合があります。本製品の移動や取り外しの際には、ご注意ください。
- 本製品は動作中に高温になる場合がありますが、手で触れることができる温度であれば故障ではありません。ただし長時間触れたまま使用しないでください。低温やけどの原因になります。
- 市販のオプション品や他社製品を使用する場合、当社では動作保証は致しませんので、予めご了承ください。
- 製品に貼られている製品ラベルや認証ラベルをはがさないでください。はがしてしまうとサポートを受けられなくなります。

静電気障害を防止するために

静電気は、本製品内部の精密なコンポーネントを損傷する恐れがあります。静電気による損傷を防ぐため、本製品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。

さらに、静電気放出（ESD）による損傷を防ぐため、以下の手順を実行することをお勧めします。

1. 機器を箱から取り出すときは、機器をシステム等に取り付ける準備が完了するまで、本製品を静電気防止包装から取り出さないでください。静電気防止包装から取り出す直前に、必ず身体の静電気を逃がしてください。
2. 静電気に敏感な部品を運ぶ場合、最初に必ず静電気対策を行ってください。
3. 静電気に敏感な機器の取り扱いは、静電気のない場所で行います。可能であれば、静電気防止床パッド、作業台パッド、および帯電防止接地ストラップを使用してください。

電源の異常

万一停電などの電源異常が発生した場合は、必ず LAN ケーブルまたは PoE スイッチの電源を抜いてください。（別売りの AC アダプタ「PSE-M12V25A-I」使用時は AC アダプタを抜いてください。）

電源が再度供給できる状態になってから電源プラグや LAN ケーブルを再度接続します。

無線 LAN について

業界標準に基づく弊社の無線 LAN 製品は、ご家庭や職場または公共の施設において、使いやすく互換性の高い高速の無線接続を提供します。これらを使用して時間や場所に関わらず必要なデータにアクセスすることができます。

WLAN は家庭やオフィス環境のみならず、空港やコーヒーショップ、または大学など公共の施設においても幅広く利用されるようになってきました。この WLAN 技術を用いることにより、仕事やコミュニケーションがさらに効率的に行えるようになってきています。無線技術により可動性が増し、配線や固定のインフラが減少したことでユーザに大きなメリットが生まれました。

ノート型やデスクトップ型 PC に使用する無線アダプタはイーサネットのアダプタカードと同じプロトコルをサポートしており、無線ユーザは有線ネットワークと同じアプリケーションを利用できるようになりました。

WLAN 技術を利用するさまざまな理由

■ 可動性

WLAN の動作範囲内のどこからでもデータにアクセス可能であり、生産性を向上します。また、リアルタイムな情報に基づく管理により作業効率が向上します。

■ 低い実現コスト

WLAN は設置、管理、変更、移転のすべてが簡単です。このような WLAN の扱いやすさはネットワークの変更が頻繁に要求される環境に適しています。WLAN は有線ネットワークでは困難であった場所へのネットワーク導入を可能にします。

■ 簡単な設置と拡張

煩わしい複雑なケーブル配線作業、特に壁や天井へのケーブル敷設の必要がないため、手早く簡単にシステムの設置を行うことができます。無線技術は、ネットワークを家庭やオフィスを超えて拡張することで、さらなる多用途性を提供します。

■ 低コストのソリューション

無線 LAN デバイスは、従来のイーサネット用機器とほぼ同等の価格設定となっています。本製品は設定可能な複数のモードで多機能性を提供し、コスト削減を行います。

■ 柔軟性

配置する無線 LAN デバイスの数によって、ピアツーピアのネットワークが適している小さなユーザグループから大規模なインフラネットワークまで、自由自在に構築することができます。

■ 世界基準対応の技術

無線機器は、IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n および IEEE 802.11ac に準拠しています。

● IEEE 802.11ac 規格

IEEE 802.11ac 規格の無線通信速度は、IEEE 802.11n 規格よりも高速化されており、5GHz 帯の周波数と「OFDM」技術をサポートしています。

● IEEE 802.11n 規格

IEEE 802.11n 規格は、従来の IEEE 802.11a、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g の機能を拡張した規格です。無線通信速度は、最大 400Mbps までと高速化され、2.4GHz 帯および 5GHz 帯の周波数を利用し、こちらも「OFDM」技術をサポートしています。

これらにより、多くの環境化において、無線サービスエリア内でネットワークによる大容量の送受信や遅延の少ない MPEG 形式の映像の視聴などが可能になります。OFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplexing) という技術により、この大容量のデジタルデータの高速伝送を無線で行うことができます。OFDM では、無線信号を小さいサブ信号に分割し、それらを同時に異なる周波数で送信します。OFDM により、信号伝送時のクロストーク (干渉) の発生を抑えることが可能です。

IEEE 802.11n 規格は、「WPA」を含む現在最も先進的なネットワークセキュリティ機能を提供します。

WPA/WPA2/WPA3 には企業向けの「Enterprise」とホームユーザ向けの「Personal」の 2 種類があります。WPA3 は、無線 LAN の普及促進の業界団体である Wi-Fi Alliance によって 2018 年 6 月に策定された無線 LAN の暗号化技術の規格名称です。WPA2 に代る次世代セキュリティ規格で、よりセキュアな通信を実現します。

「WPA-Personal」「WPA2-Personal」「WPA3-Personal」は、ユーザ認証に必要なサーバ機器を持たないホームユーザを対象としています。その認証方法は、無線ルータやアクセスポイントに「Pre-Shared Key (事前共有鍵)」の定義を行うという点で WEP と似ています。クライアントとアクセスポイントの両方において、事前共有鍵が確認され条件が満たされた時にアクセスが認められます。

「WPA-Enterprise」「WPA2-Enterprise」「WPA3-Enterprise」は、既にセキュリティ用にインフラが整備されている企業を対象としています。ネットワーク内のサーバを中心にネットワーク管理とセキュリティの実施を行うような環境を想定しています。

ネットワーク管理者は、RADIUS サーバ上で 802.1X を使用し、無線 LAN へのアクセスを許可するユーザのリストを定義します。「WPA-Enterprise」「WPA2-Enterprise」「WPA3-Enterprise」を実装した無線 LAN にアクセスする場合、ユーザはユーザ名とパスワードの入力を要求されます。ユーザがネットワーク管理者によってアクセスを許可されており、正しいユーザ名とパスワードを入力すると、ネットワークへのアクセスが可能になります。例えば、ある社員が会社を辞めるといような場合、ネットワーク管理者がアクセス許可者のリストからその社員のデータを削除すれば、ネットワークを危険にさらすことは避けることができます。

EAP (Extensible Authentication Protocol) は Windows OS に実装されています。802.1X の機能を使用する際には、ネットワークにおけるすべてのデバイスの EAP タイプを同一にする必要があります。

重要

最大の無線信号速度は理論値であり、実際のデータスループットは異なります。ネットワーク条件と環境には、ネットワークトラフィック量、建築材料や工事、ネットワークオーバーヘッドが含まれ、実際のデータスループット速度は低くなります。環境条件は無線信号範囲に悪影響を与えます。

無線に関するご注意

電波に関するご注意

本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線製品として、技術基準適合証明を受けています。従って、本製品の使用する上で、無線局の免許は必要ありません。

本製品は、日本国内でのみ使用できます。

以下の注意をよくお読みになりご使用ください。

- 本製品を以下の場所では使用しないでください。
 - ・ 心臓ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器の近くで使用すると電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
 - ・ 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を必要とする無線局）および特定小電力無線局（免許を必要としない無線局）
 - ・ 電子レンジの近くで使用すると、電子レンジによって無線通信に電磁妨害が発生します。
 - ・ 電気製品、AV 機器、OA 機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用すると下記のような影響があります。
 - 時期や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなったりすることがあります。
 - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れたりすることがあります。
 - 近くに複数の無線 LAN アクセスポイントが存在し、同じチャネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- 本製品は技術基準適合証明を受けています。本製品の分解、改造、および裏面の製品ラベルをはがさないでください。

2.4GHz 帯使用の無線機器の電波干渉に関するご注意

本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用している移動体識別用の構内無線局（免許を必要とする無線局）および特定小電力無線局（免許を必要としない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を必要とする無線局）が運用されています。

- 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止してください。
- その他、本製品から移動体通信用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポート窓口へお問い合わせください。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式 / OFDM 方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更可否	全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避可能

5GHz 帯使用に関するご注意

無線 LAN の 5.2/5.3GHz（W52/W53）をご利用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になれません。

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、以下の通信内容を盗み見られる可能性があります。

- ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
- メールの内容

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、以下の行為を行う可能性があります。

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

安全にお使いいただくために

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

本書は、製品を正しくお使いいただくための取扱説明書です。

必要な場合には、いつでもご覧いただけますよう大切に保管してください。

また、必ず本書、設置マニュアル、および弊社 WEB に掲載された製品保証規程をよくお読みいただき、内容をご理解いただいた上で、記載事項に従ってご使用ください。

製品保証規定は以下を参照ください。

<https://www.dlink-jp.com/support/product-assurance-provision>

- 本書の記載内容に逸脱した使用の結果発生した、いかなる障害や損害において、弊社は一切の責任を負いません。あらかじめご了承ください。
- 弊社製品の日本国外でご使用の際のトラブルはサポート対象外になります。

なお、本製品の最新情報やファームウェアなどを弊社ホームページにてご提供させていただく場合がありますので、ご使用前にご確認ください。製品保証、保守サービス、テクニカルサポートご利用について、詳しくは弊社ホームページのサポート情報をご確認ください。

<https://www.dlink-jp.com/support>

目次

安全にお使いいただくために.....	2
ご使用上の注意.....	4
静電気障害を防止するために.....	4
電源の異常.....	4
無線 LAN について.....	5
WLAN 技術を利用するさまざまな理由.....	5
無線に関するご注意.....	6
はじめに	12
本マニュアルの対象者.....	12
本マニュアルの対象製品.....	12
第 1 章 Nuclias の概要	13
Nuclias の概要.....	13
Nuclias の用語とコンセプト.....	14
Nuclias 対応機器.....	15
Nuclias 基本仕様.....	16
第 2 章 Nuclias 用 AP のご利用にあたって	17
DBA-1210P の各部名称.....	17
DBA-1210P 前面パネル.....	17
DBA-1210P 背面パネル.....	18
DBA-2520P の各部名称.....	19
DBA-2520P 前面パネル.....	19
DBA-2520P 背面パネル.....	20
DBA-2520P 側面.....	20
DBA-2620P の各部名称.....	21
DBA-2620P 前面パネル.....	21
DBA-2620P 背面パネル.....	22
DBA-2620P 側面.....	22
DBA-2720P の各部名称.....	23
DBA-2720P 前面パネル.....	23
DBA-2720P 背面パネル.....	24
DBA-2720P 側面.....	24
DBA-2820P の各部名称.....	25
DBA-2820P 前面パネル.....	25
DBA-2820P 背面パネル.....	26
DBA-2820P 側面.....	26
DBA-3621P の各部名称.....	27
DBA-3621P 前面パネル / 背面パネル.....	27
DBA-3621P 底面.....	28
第 3 章 Nuclias 用 AP の設置	29
パッケージの内容.....	29
ネットワーク接続前の準備.....	31
Nuclias 用 AP の設定・設置.....	32
Nuclias 用 AP の接続方法.....	32
DBA-1210P の設置.....	34
DBA-2520P の設置.....	36
DBA-2620P の設置.....	38
DBA-2720P の設置.....	40
DBA-2820P の設置.....	42
DBA-3621P の設置.....	44
イーサネットケーブルの接続.....	47
IP アドレスの設定について.....	47
電源の投入.....	47

第4章 Nuclias APの手動設定	49
Web ベース設定ユーティリティ (Web GUI) の設定	49
DBA-1210P の Web GUI 設定	49
DBA-1210P Web GUI 設定画面へのログイン	49
ステータス (クラウド AP の手動設定)	50
システム > システム	51
システム > リセットとファームウェアアップグレード	52
ネットワーク > 基本設定	53
ネットワーク > 高度な設定	54
ログアウト	54
DBA-2520P の Web GUI 設定	55
Web GUI 設定画面へのログイン	55
ステータス (クラウド AP の手動設定)	56
システム > システム	57
システム > リセットとファームウェアアップグレード	58
ネットワーク > 基本設定	59
ネットワーク > 高度な設定	60
ログアウト	60
DBA-2620P の Web GUI 設定	61
Web GUI 設定画面へのログイン	61
ステータス (クラウド AP の手動設定)	62
システム > システム	63
システム > リセットとファームウェアアップグレード	64
ネットワーク > 基本設定	65
ネットワーク > 高度な設定	66
ログアウト	66
DBA-2720P の Web GUI 設定	67
Web GUI 設定画面へのログイン	67
ステータス (クラウド AP の手動設定)	68
システム > システム	69
システム > リセットとファームウェアアップグレード	70
ネットワーク > 基本設定	71
ネットワーク > 高度な設定	72
ログアウト	72
DBA-2820P の Web GUI 設定	73
Web GUI 設定画面へのログイン	73
ステータス (クラウド AP の手動設定)	74
システム > システム	75
システム > リセットとファームウェアアップグレード	76
ネットワーク > 基本設定	77
ネットワーク > 高度な設定	78
ログアウト	78
DBA-3621P の Web GUI 設定	79
Web GUI 設定画面へのログイン	79
ステータス (クラウド AP の手動設定)	80
システム > システム	81
システム > リセットとファームウェアアップグレード	82
ネットワーク > 基本設定	83
ネットワーク > 高度な設定	84
ログアウト	84
第5章 Nucliasの基本設定	85
初期設定手順について	85
アカウントと組織の作成	86
ログイン	88
Nuclias ユーザーインターフェースについて	88
プロファイルの作成	89
Wi-Fi ポリシーの設定	90
Wi-Fi ポリシーの設定 (SSID プロファイル編集)	91
サイトの作成	93
Nuclias 対応機器の登録	94
Nuclias 対応機器をオンラインにする	95

第6章 ユーザプロフィール	96
ユーザプロフィール	96
マイプロフィール	96
ログイン履歴	97
API アクセス	97
第7章 ダッシュボード	99
ダッシュボード	99
ダッシュボード>アクセスポイント	99
ダッシュボード>地図	100
ダッシュボード>ネットワーク	100
第8章 モニタ	101
アクセスポイント - デバイス	101
アクセスポイント - クライアント	102
アクセスポイント - イベントログ	103
イベントログ - フィルタ	103
アクセスポイント - 近隣の AP	104
地図	105
フロアプラン	106
第9章 デバイス設定	108
アクセスポイント - プロファイル	108
プロファイル - SSID	111
プロファイル - 無線	123
プロファイル - 設定	127
アクセスポイント - デバイス	128
デバイス - 基本	129
デバイス - SSID	130
デバイス - 無線	136
デバイス - ツール	138
デバイス - ライセンス	139
アクセスポイント - IP ACL	140
アクセスポイント - MAC ACL	142
アクセスポイント - ローカル認証 DB	144
アクセスポイント - LDAP サーバ	146
アクセスポイント - RADIUS サーバ	147
アクセスポイント - スプラッシュページ編集	148
アクセスポイント - ウォールドガーデン	151
第10章 レポート	153
変更ログ	153
アクセスポイント	154
アラート	155
ライセンス (レポート)	156
第11章 管理	157
アカウント管理	157
組織管理	159
ライセンス管理	163
インベントリ	164
ファームウェア	167
アラート設定	168
アドバンスト設定 > SAML 設定	169
アドバンスト設定 > SMS 設定	171
デバイスの追加	172
第12章 ヘルプ	173
連絡をする	173
付録	174
付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細	174
付録B Eメール認証時の画面	175
付録C 機器故障の際は	176

はじめに

- 本マニュアルの対象者
- 本マニュアルの対象製品

本マニュアルの対象者

本マニュアルは、本サービスの管理についての情報を記載しています。また、ネットワーク管理の概念や用語に十分な知識を持っているネットワーク管理者を対象としています。

本マニュアルの対象製品

本マニュアルは、「Nuclias」および「Nuclias」に登録して使用する以下の製品について記載しています。

- DBA-1210P
- DBA-2520P
- DBA-2620P
- DBA-2720P
- DBA-2820P
- DBA-3621P※

※ リリース予定

第1章 Nucliasの概要

- Nucliasの概要
- Nucliasの用語とコンセプト
- Nuclias対応機器
- Nuclias基本仕様

Nucliasの概要

Nucliasは、ネットワーク機器を管理・監視することができるクラウド型のサービスです。Nuclias対応ネットワーク機器は、Nucliasサーバとの間で管理用トンネルセッションを維持し、Nuclias経由でのポリシー設定、モニタリング、ファームウェアのアップデートなどを実施することができます。そのためネットワーク管理者は、Nucliasサーバ経由でネットワーク機器のオペレーションをすることができます。

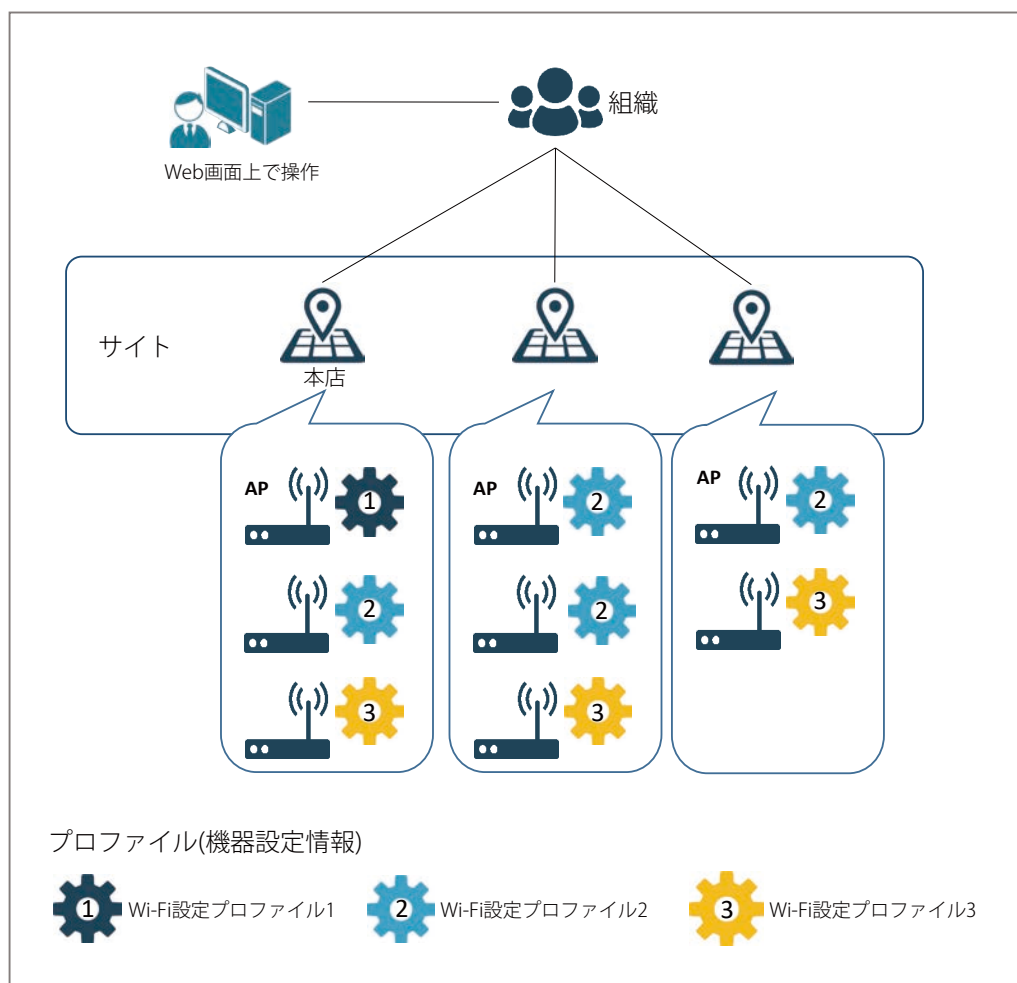


図 1-1 Nuclias 構成概要

Nuclias の用語とコンセプト

Nuclias に関しては下記の用語があります。

項目	説明
組織	Nuclias の利用を開始する際に、お客様は 1 つの組織を作成する必要があります。 この組織の中で、設定やデバイス、ライセンスを管理します。
サイトタグ	「サイトタグ」は、複数のサイトを一つにまとめて管理や閲覧が行えます。 また、組織内の特定のユーザに対して、組織全体ではなく一部のサイトタグにのみアクセスできるように設定することもできます。
サイト	「サイト」はデバイスの物理的な位置を示し、複数のデバイスをグループにし、取り扱いしやすいようにしたものです。 また、組織内の特定のユーザに対して、組織全体ではなく一部のサイトにのみアクセスできるように設定することもできます。
プロファイル	「プロファイル」は Wi-Fi 設定ポリシーをまとめたものです。組織内に複数作成することができます。 各 Nuclias 管理下デバイスには必ず 1 つのプロファイルが紐づけられている必要があります。

各ユーザアカウントが Nuclias にて行える操作に関して、下記の通り 4 種類の権限があります。

項目	説明
管理者	全ての設定並びに情報の閲覧が可能です。
編集者	既に作成されている設定の変更を行うことができます。 ただし、ユーザやデバイス、設定情報などの追加 / 削除の操作はできません。
閲覧者	デバイスの利用状況や無線クライアントの情報を閲覧することができます。設定の追加、変更、削除はできません。 Wi-Fi ポリシーの設定については、追加、変更、削除だけでなく閲覧することもできません。 アラート、ライセンス、インベントリの情報の閲覧は可能です。
モニタ閲覧者	デバイス使用状況や無線クライアントの情報の閲覧のみが可能です。

Nuclias 対応機器

Nuclias では以下の機器をサポートしています。(2020年11月現在)

■ DBA シリーズ



DBA-1210P



DBA-2520P



DBA-2620P



DBA-2720P



DBA-2820P



DBA-3621P ※

※ リリース予定

■ DBS シリーズ



DBS-2000 シリーズ

Nuclias 基本仕様

Nuclias 対応ネットワーク機器は、リンクアップをし IP アドレスを取得すると Nuclias との間で SSL セッションを確立します。この時点でネットワーク機器とクラウドとの間で、「TCP：443 ポート」と名前解決のための DNS が許可されている必要があります。ネットワーク機器がクラウドとの接続を完了すると、Nuclias に設定済みのファームウェア、コンフィギュレーションの同期が自動的に開始されます。この処理が終了すると、ネットワーク機器は Nuclias 用機器として動作を開始します。Nuclias 管理用 SSL セッションは維持され、Nuclias からのモニタリング、設定変更、ファームウェアのバージョンアップなど、Nuclias から各デバイスを管理する用途で利用されます。

プロトコル	用途・備考
TCP 443 (SSL)	Nuclias サーバとの通信用
UDP123 (NTP)	スケジュール機能及びモニタ機能用

以下の 3 つのプロトコルもまた許可されている必要があります。

プロトコル	用途・備考
UDP 67 (DHCP)	Static IP を使った場合は不要
UDP 53 (DNS)	
TCP 53 (DNS)	

また、以下の機能が許可されていない場合、一部の機能がご利用になれません。予めご了承ください。

- Ping (ICMP)
- Traceroute (UDP 33435 から昇順で使用)
- RADIUS

注意 ライセンス切れとなった機器の動作については、動作保証外になります。

第2章 Nuclias 用 AP のご利用にあたって

- DBA-1210P の各部名称
- DBA-2520P の各部名称
- DBA-2620P の各部名称
- DBA-2720P の各部名称
- DBA-2820P の各部名称
- DBA-3621P の各部名称

DBA-1210P の各部名称

DBA-1210P 前面パネル

DBA-1210P の前面パネルには、ステータス LED が配置されています。



図 2-1 前面パネル

ステータス LED は以下の状態を表示します。

LED 状態	DBA-1210P 状態
● 緑点灯	Nuclias と正常に接続されており、管理モードで動作している状態です。
● 緑点滅	Nuclias へ接続を試みている状態です。
● 橙点灯	起動処理中の状態です。
● 橙点滅	初期化中の状態です。
● 赤点灯	Nuclias サーバと正常に接続できていない状態です。 IP アドレスの設定がご利用のネットワーク環境に即していない場合等が考えられます。
● 消灯	電源が入っていません。

第2章 Nuclias用APのご利用にあたって

DBA-1210P 背面パネル

DBA-1210P の背面パネルには、LAN ポート (PoE) (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)、電源コネクタ、リセットボタンおよびロックソケットが配置されています。

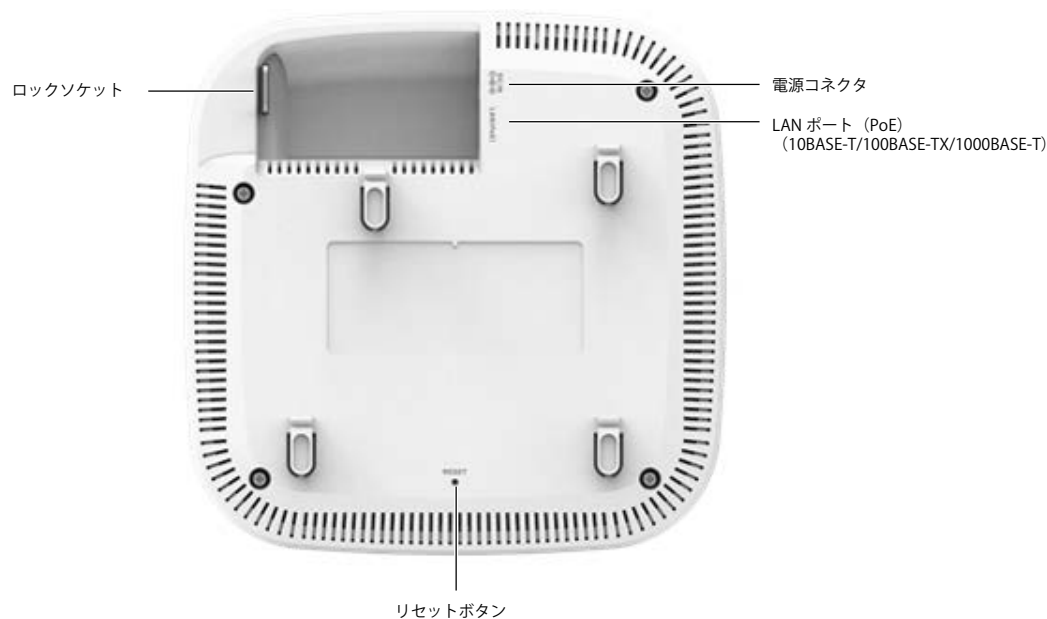


図 2-2 DBA-1210P 背面パネル

部位	機能
LAN ポート (PoE) (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)	RJ-45 コネクタが搭載され、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T イーサネットへの接続が可能です。 また、PoE スイッチを使用して受電します。IEEE802.3af に準拠した PoE (PoE+) での受電が可能です。 10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上、1000BASE-T の場合はエンハンストカテゴリ 5 以上の UTP/STP ケーブルを接続します。PoE により受電する場合はカテゴリ 5 以上の UTP ストレートケーブルを接続します。
電源コネクタ	付属の AC アダプタを接続します。
リセットボタン	機器のリセットボタンです。ボタンを押す時間の長さにより動作は異なります。 <ul style="list-style-type: none">再起動 - 2 ~ 5 秒ボタンを押し続けます。初期化 - 6 ~ 15 秒ボタンを押し続けます。製品の設定が初期化されます。起動ファームウェア変更 - 15 秒以上ボタンを押し続けると、ファームウェアアップデート前に使用していた旧ファームウェアバージョンで再起動します。
ロックソケット	別途、南京錠やワイヤー等をご準備いただくと、DBA-1210P 本体とマウントプレートを物理的にロックすることができます。

DBA-2520P の各部名称

DBA-2520P 前面パネル

DBA-2520P の前面パネルには、ステータス LED が配置されています。

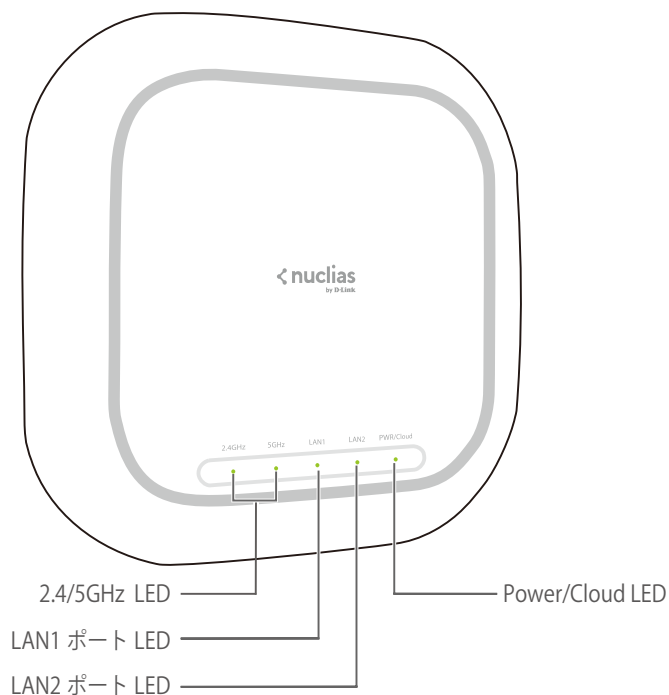


図 2-3 DBA-2520P 前面パネル

ステータス LED は以下の状態を表します。

LED	LED 状態	DBA-2520P 状態
2.4GHz/5GHz LED	● 緑点灯	各帯域において無線 LAN による通信が可能な状態です。
	● 緑点滅	各帯域において無線 LAN によりデータを送受信しています。
	● 消灯	無線 LAN による通信及びデータの送受信を行っていません。
LAN1/LAN2 ポート LED	● 緑点灯	ネットワークにリンクしています。
	● 緑点滅	ネットワーク上でデータを送受信しています。
	● 消灯	リンクが確立していません。
Power/Cloud LED	● 橙点灯	起動中です。
	● 橙点滅	初期設定へのリセット中、またはファームウェアのアップグレード中です。
	● 緑点滅	Nuclias へ接続を試みている状態です。
	● 緑点灯	Nuclias による管理モードで動作しています。
	● 赤点灯	正しく動作していません。
	● 消灯	電源が入っていません。

第2章 Nuclias用APのご利用にあたって

DBA-2520P 背面パネル

DBA-2520P の背面パネルの各部名称について説明します。

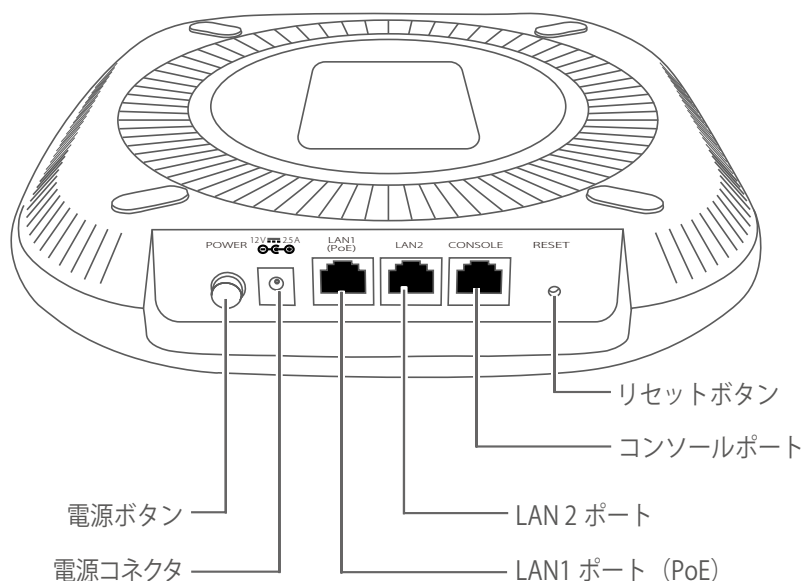


図 2-4 DBA-2520P 背面パネル

部位	機能
電源ボタン	電源の ON/OFF を行います。
電源コネクタ	AC アダプタ※ ¹ を接続します。
LAN1 ポート (PoE) / LAN2 ポート (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)	RJ-45 コネクタが搭載され、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T イーサネットへの接続が可能です。 また、LAN1 ポートは PoE スイッチを使用して受電します。IEEE802.3at に準拠した PoE (PoE+) での受電が可能です。 LAN2 ポートは PoE 受電には対応していません。 LAN1 ポートと LAN2 ポートでリンクアグリゲーションを設定、使用することもできます。 10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上、1000BASE-T の場合はエンハンストカテゴリ 5 以上の UTP/STP ケーブルを接続します。PoE により受電する場合はカテゴリ 5 以上の UTP ストレートケーブルを接続します。
コンソールポート	付属のコンソールケーブルを接続します。
リセットボタン	機器のリセットボタンです。ボタンを押す時間の長さにより動作は異なります。 <ul style="list-style-type: none">再起動 - 2 ~ 5 秒ボタンを押し続けます。初期化 - 6 ~ 15 秒ボタンを押し続けます。製品の設定が初期化されます。起動ファームウェア変更 - 15 秒以上ボタンを押し続けると、ファームウェアアップデート前に使用していた旧ファームウェアバージョンで再起動します。

※ 1: AC アダプタは同梱されていません。本製品を PoE で使用しない場合は、別売りの AC アダプタ「PSE-M12V25A-1」をご使用ください。

DBA-2520P 側面

DBA-2520P 下部の側面には、セキュリティスロットが搭載されています。市販のセキュリティロックを使用して機器に鍵をかけることが可能です。

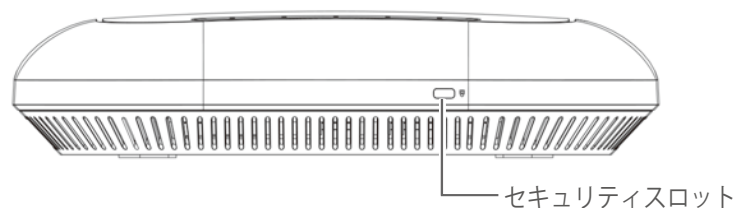


図 2-5 DBA-2520P 側面

DBA-2620P の各部名称

DBA-2620P 前面パネル

DBA-2620P の前面パネルには、ステータス LED が配置されています。

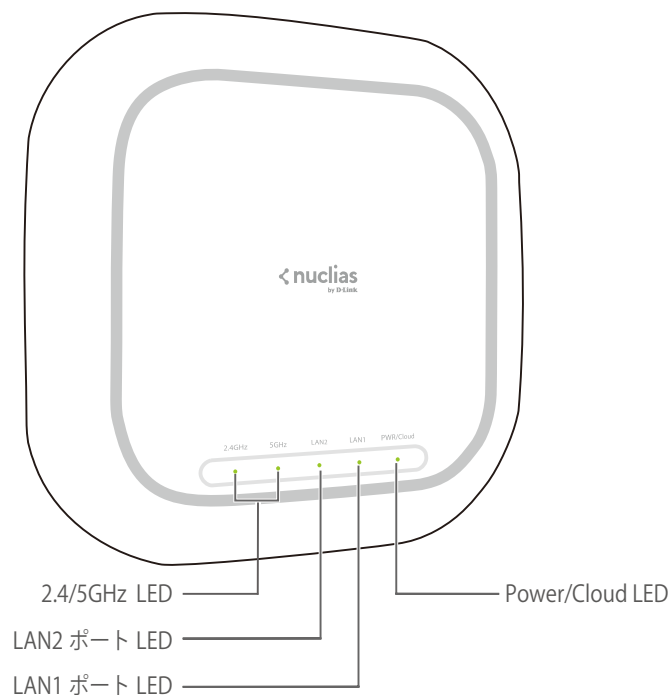


図 2-6 DBA-2620P 前面パネル

ステータス LED は以下の状態を表します。

LED	LED 状態	DBA-2620P 状態
2.4GHz/5GHz LED	● 緑点灯	各帯域において無線 LAN による通信が可能な状態です。
	● 緑点滅	各帯域において無線 LAN によりデータを送受信しています。
	● 消灯	無線 LAN による通信及びデータを送受信を行っていません。
LAN1/LAN2 ポート LED	● 緑点灯	ネットワークにリンクしています。
	● 緑点滅	ネットワーク上でデータを送受信しています。
	● 消灯	リンクが確立していません。
Power/Cloud LED	● 橙点灯	起動中です。
	● 橙点滅	初期設定へのリセット中、またはファームウェアのアップグレード中です。
	● 緑点滅	Nuclias へ接続を試みている状態です。
	● 緑点灯	Nuclias による管理モードで動作しています。
	● 赤点灯	正しく動作していません。
	● 消灯	電源が入っていません。

第2章 Nuclias用APのご利用にあたって

DBA-2620P 背面パネル

DBA-2620P の背面パネルの各部名称について説明します。

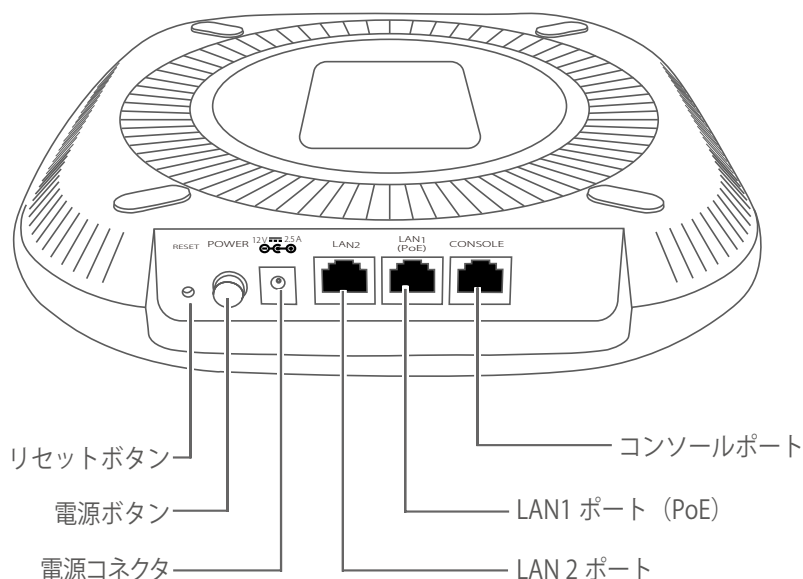


図 2-7 DBA-2620P 背面パネル

部位	機能
リセットボタン	機器のリセットボタンです。ボタンを押す時間の長さにより動作は異なります。 <ul style="list-style-type: none">再起動 - 2～5秒ボタンを押し続けます。初期化 - 6～15秒ボタンを押し続けます。製品の設定が初期化されます。起動ファームウェア変更 - 15秒以上ボタンを押し続けると、ファームウェアアップデート前に使用していた旧ファームウェアバージョンで再起動します。
電源ボタン	電源のON/OFFを行います。
電源コネクタ	ACアダプタ ^{※1} を接続します。
LAN1ポート (PoE) / LAN2ポート (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)	RJ-45コネクタが搭載され、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tイーサネットへの接続が可能です。また、LAN1ポートはPoEスイッチを使用して受電します。IEEE802.3atに準拠したPoE (PoE+)での受電が可能です。LAN2ポートはPoE受電には対応していません。LAN1ポートとLAN2ポートでリンクアグリゲーションを設定、使用することもできます。 10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンストカテゴリ5以上のUTP/STPケーブルを接続します。PoEにより受電する場合はカテゴリ5以上のUTPストレートケーブルを接続します。
コンソールポート	付属のコンソールケーブルを接続します。

※1：ACアダプタは同梱されていません。本製品をPoEで使わない場合は、別売りのACアダプタ「PSE-M12V25A-I」をご使用ください。

DBA-2620P 側面

DBA-2620P 下部の側面には、セキュリティスロットが搭載されています。市販のセキュリティロックを使用して機器に鍵をかけることが可能です。

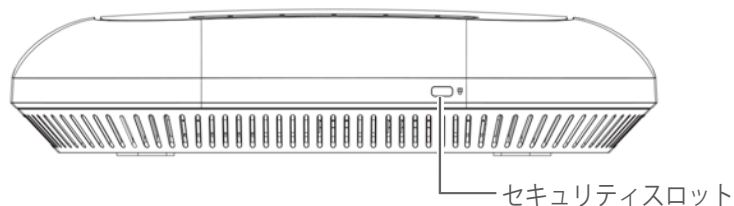


図 2-8 DBA-2620P 側面

DBA-2720P の各部名称

DBA-2720P 前面パネル

DBA-2720P の前面パネルには、ステータス LED が配置されています。

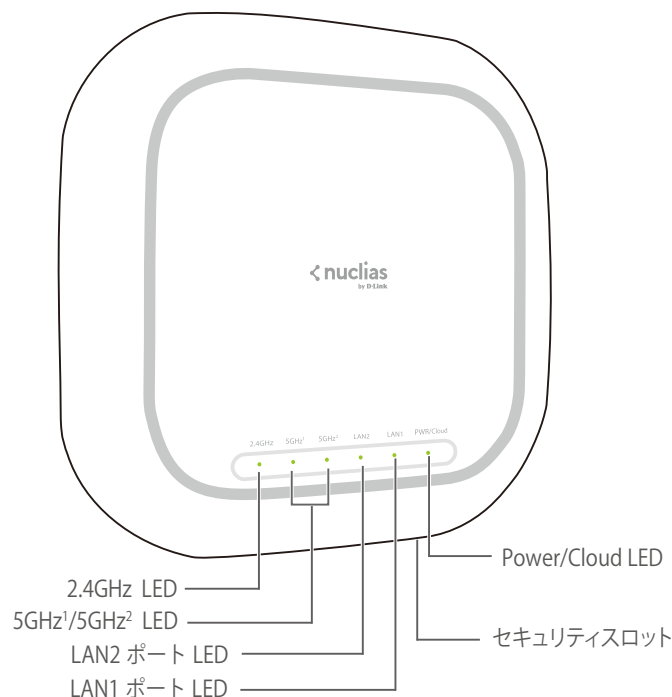


図 2-9 DBA-2720P 前面パネル

ステータス LED は以下の状態を表します。

LED	LED 状態	DBA-2720P 状態
2.4GHz/ 5GHz¹/5GHz² LED	● 緑点灯	各帯域において無線 LAN による通信が可能な状態です。
	● 緑点滅	各帯域において無線 LAN によりデータを送受信しています。
	● 消灯	無線 LAN による通信及びデータの送受信を行っていません。
LAN1/LAN2 ポート LED	● 緑点灯	ネットワークにリンクしています。
	● 緑点滅	ネットワーク上でデータを送受信しています。
	● 消灯	リンクが確立していません。
Power/Cloud LED	● 橙点灯	起動中です。
	● 橙点滅	初期設定へのリセット中、またはファームウェアのアップグレード中です。
	● 緑点滅	Nuclias へ接続を試みている状態です。
	● 緑点灯	Nuclias による管理モードで動作しています。
	● 赤点灯	正しく動作していません。
	● 消灯	電源が入っていません。

第2章 Nuclias用APのご利用にあたって

DBA-2720P 背面パネル

DBA-2720P の背面パネルの各部名称について説明します。

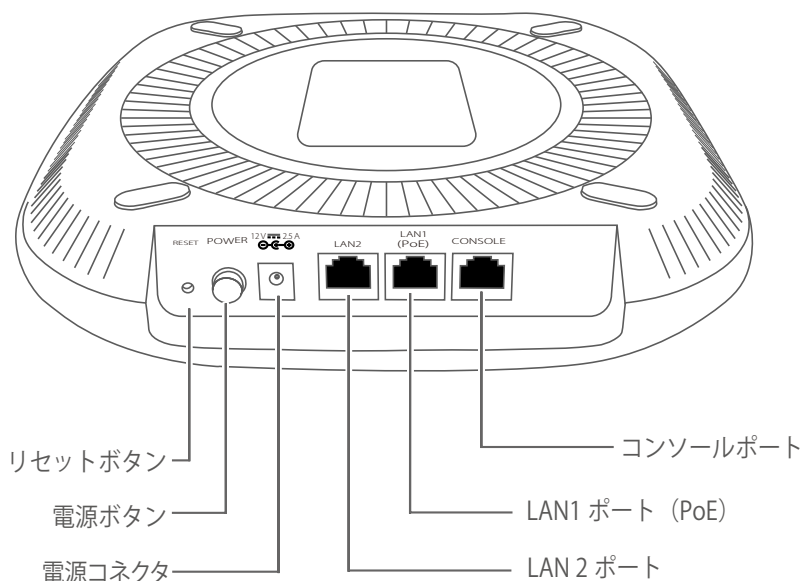


図 2-10 DBA-2720P 背面パネル

部位	機能
リセットボタン	機器のリセットボタンです。ボタンを押す時間の長さにより動作は異なります。 <ul style="list-style-type: none">再起動 - 2 ~ 5 秒ボタンを押し続けます。初期化 - 6 ~ 15 秒ボタンを押し続けます。製品の設定が初期化されます。起動ファームウェア変更 - 15 秒以上ボタンを押し続けると、ファームウェアアップデート前に使用していた旧ファームウェアバージョンで再起動します。
電源ボタン	電源の ON/OFF を行います。
電源コネクタ	AC アダプタ※1 を接続します。
LAN1 ポート (PoE) / LAN2 ポート (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)	RJ-45 コネクタが搭載され、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T イーサネットへの接続が可能です。また、LAN1 ポートは PoE スイッチを使用して受電します。IEEE802.3at に準拠した PoE (PoE+) での受電が可能です。LAN2 ポートは PoE 受電には対応していません。LAN1 ポートと LAN2 ポートでリンクアグリゲーションを設定、使用することもできます。 10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上、1000BASE-T の場合はエンハンストカテゴリ 5 以上の UTP/STP ケーブルを接続します。PoE により受電する場合はカテゴリ 5 以上の UTP ストレートケーブルを接続します。
コンソールポート	付属のコンソールケーブルを接続します。

※1：ACアダプタは同梱されていません。本製品を PoE で使用しない場合は、別売りの AC アダプタ「PSE-M12V25A-I」をご使用ください。

DBA-2720P 側面

DBA-2720P 下部の側面には、セキュリティスロットが搭載されています。市販のセキュリティロックを使用して機器に鍵をかけることが可能です。

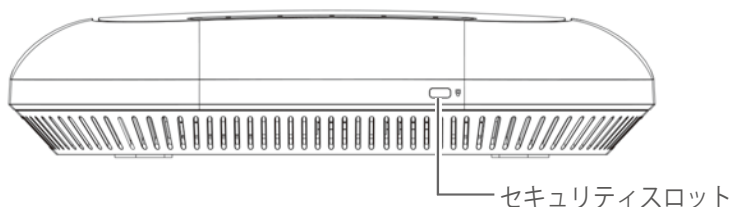


図 2-11 DBA-2720P 側面

DBA-2820P の各部名称

DBA-2820P 前面パネル

DBA-2820P の前面パネルには、ステータス LED が配置されています。

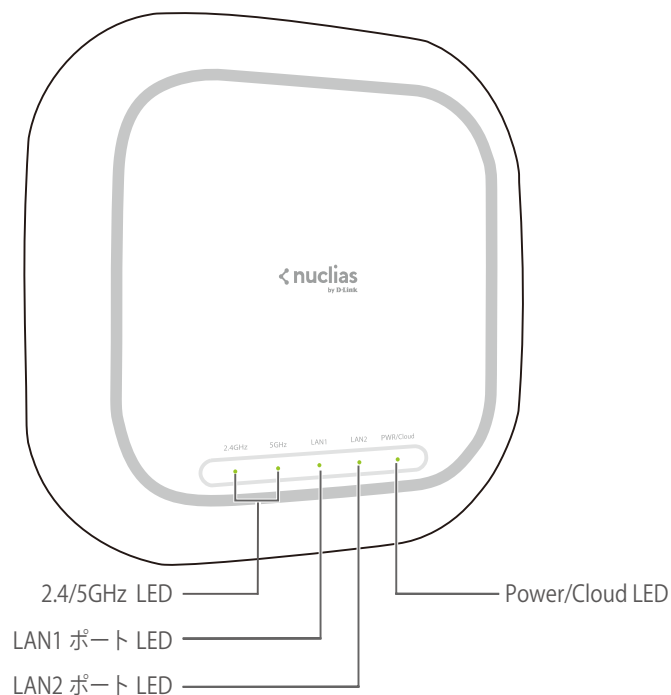


図 2-12 DBA-2820P 前面パネル

ステータス LED は以下の状態を表します。

LED	LED 状態	DBA-2820P 状態
2.4GHz/5GHz LED	● 緑点灯	各帯域において無線 LAN による通信が可能な状態です。
	● 緑点滅	各帯域において無線 LAN によりデータを送受信しています。
	● 消灯	無線 LAN による通信及びデータを送受信を行っていません。
LAN1/LAN2 ポート LED	● 緑点灯	ネットワークにリンクしています。
	● 緑点滅	ネットワーク上でデータを送受信しています。
	● 消灯	リンクが確立していません。
Power/Cloud LED	● 橙点灯	起動中です。
	● 橙点滅	初期設定へのリセット中、またはファームウェアのアップグレード中です。
	● 緑点滅	Nuclias へ接続を試みている状態です。
	● 緑点灯	Nuclias による管理モードで動作しています。
	● 赤点灯	正しく動作していません。
	● 消灯	電源が入っていません。

第2章 Nuclias用APのご利用にあたって

DBA-2820P 背面パネル

DBA-2820P の背面パネルの各部名称について説明します。

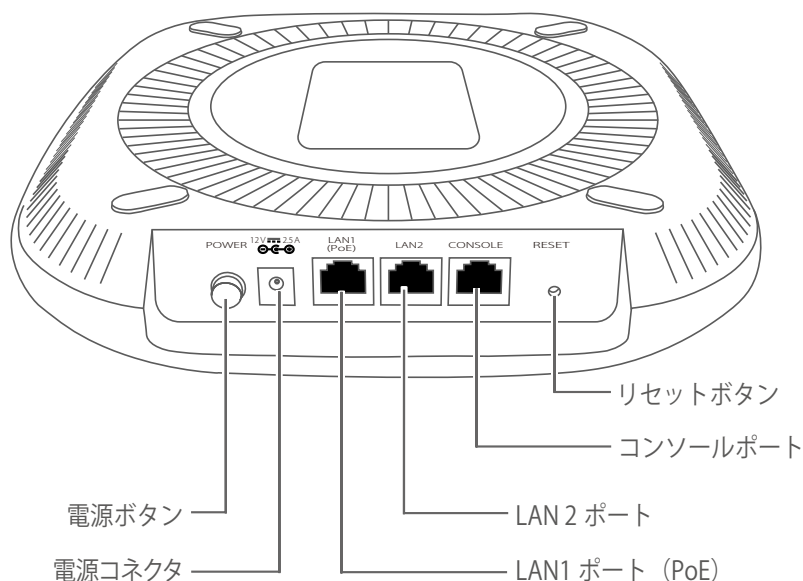


図 2-13 DBA-2820P 背面パネル

部位	機能
電源ボタン	電源の ON/OFF を行います。
電源コネクタ	AC アダプタ※ ¹ を接続します。
LAN1 ポート (PoE) / LAN2 ポート (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)	RJ-45 コネクタが搭載され、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T イーサネットへの接続が可能です。 また、LAN1 ポートは PoE スイッチを使用して受電します。IEEE802.3at に準拠した PoE (PoE+) での受電が可能です。 LAN2 ポートは PoE 受電には対応していません。 LAN1 ポートと LAN2 ポートでリンクアグリゲーションを設定、使用することもできます。 10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上、1000BASE-T の場合はエンハンストカテゴリ 5 以上の UTP/STP ケーブルを接続します。PoE により受電する場合はカテゴリ 5 以上の UTP ストレートケーブルを接続します。
コンソールポート	付属のコンソールケーブルを接続します。
リセットボタン	機器のリセットボタンです。ボタンを押す時間の長さにより動作は異なります。 <ul style="list-style-type: none">再起動 - 2 ~ 5 秒ボタンを押し続けます。初期化 - 6 ~ 15 秒ボタンを押し続けます。製品の設定が初期化されます。起動ファームウェア変更 - 15 秒以上ボタンを押し続けると、ファームウェアアップデート前に使用していた旧ファームウェアバージョンで再起動します。

※ 1: AC アダプタは同梱されていません。本製品を PoE で使用しない場合は、別売りの AC アダプタ「PSE-M12V25A-I」をご使用ください。

DBA-2820P 側面

DBA-2820P 下部の側面には、セキュリティスロットが搭載されています。市販のセキュリティロックを使用して機器に鍵をかけることが可能です。

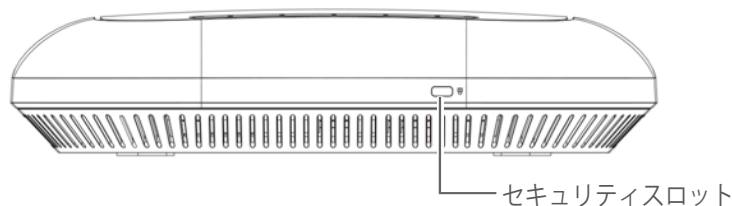


図 2-14 DBA-2820P 側面

DBA-3621P の各部名称

DBA-3621P 前面パネル / 背面パネル

DBA-3621P の前面パネルと背面パネルについて説明します。

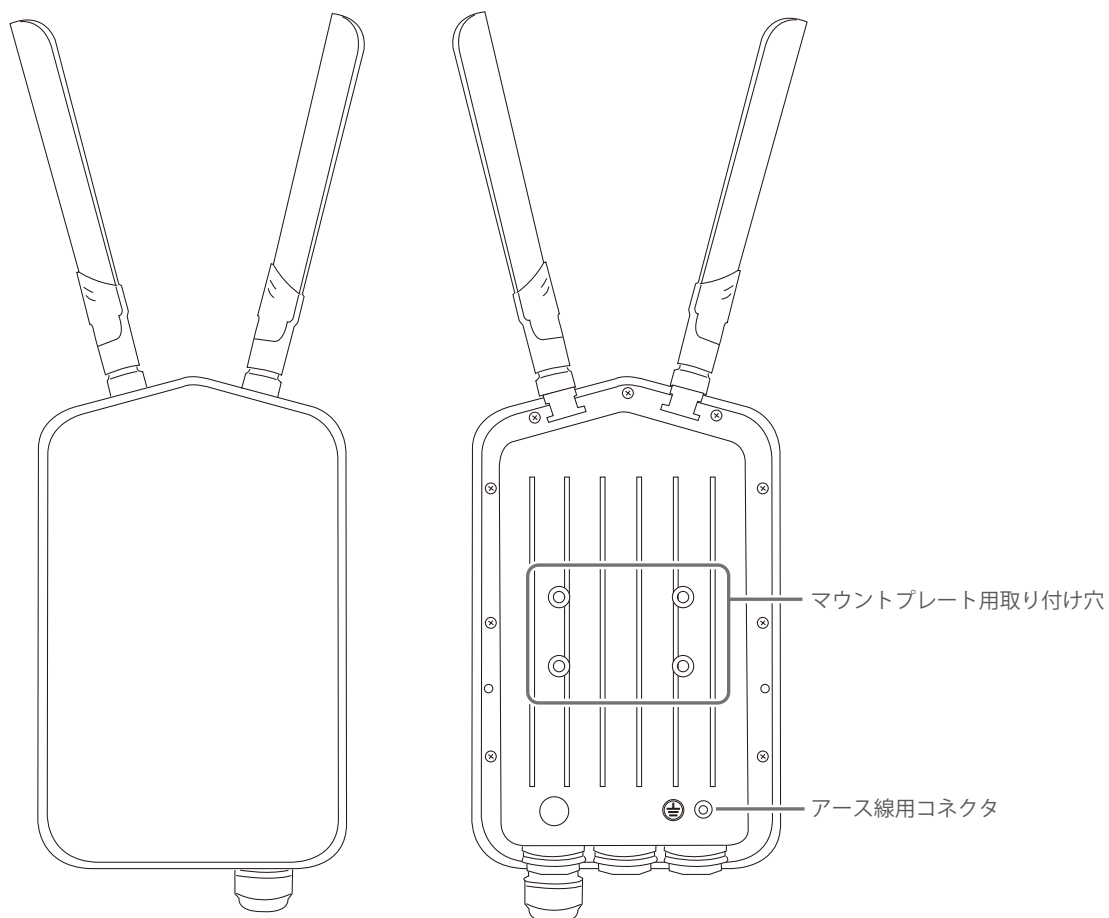


図 2-15 DBA-3621P 前面/パネル / 背面パネル

部位	機能
マウントプレート用取り付け穴	付属のマウントプレートを取り付ける際に使用します。
アース線用コネクタ	アース線を接続します。

第2章 Nuclias用APのご利用にあたって

DBA-3621P 底面

DBA-3621P の底面の部位について説明します。

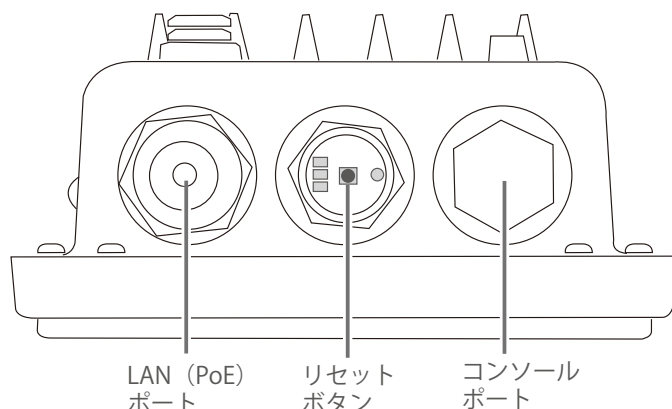


図 2-16 DBA-3621P 底面

部位	機能
LAN (PoE) ポート	RJ-45 コネクタが搭載され、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tイーサネットへの接続が可能です。また、PoE スイッチを使用して受電します。IEEE802.3at に準拠した PoE (PoE+) での受電が可能です。
リセットボタン	機器のリセットボタンです。10 秒押し続けると、製品の設定が初期化されます。
コンソールポート	付属のコンソールケーブルを接続します。

DBA-3621P LED 表示

DBA-3621P の LED は本体底面にあります。

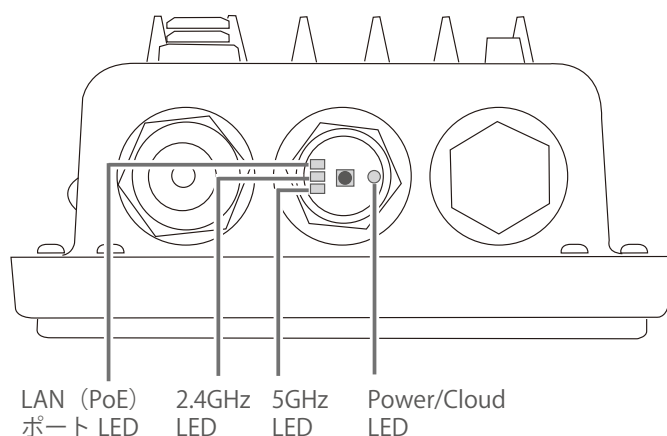


図 2-17 DBA-3621P LED 表示

LED	LED 状態	DBA-3621P 状態
LAN (PoE) ポート LED	● 緑点灯	ネットワークにリンクしています。
	● 緑点滅	ネットワーク上でデータを送受信しています。
	● 消灯	リンクが確立していません。
2.4GHz/5GHz LED	● 緑点灯	各帯域において無線 LAN による通信が可能な状態です。
	● 緑点滅	各帯域において無線 LAN によりデータを送受信しています。
	● 消灯	無線 LAN による通信及びデータの送受信を行っていません。
Power/Cloud LED	● 橙点灯	起動中です。
	● 橙点滅	設定のリセット中です。
	● 緑点滅	Nuclias へ接続を試みている状態です。
	● 緑点灯	Nuclias による管理モードで動作しています。
	● 赤点灯	正しく動作していません。
	● 消灯	電源が入っていません。

第3章 Nuclias 用 AP の設置

- パッケージの内容
- ネットワーク接続前の準備
- Nuclias 用 AP の設定・設置

パッケージの内容

ご購入いただいた製品の梱包箱を開け、同梱物を注意して取り出してください。以下のものが同梱されています。万一、不足しているものや損傷を受けているものがありましたら、ご購入いただいた販売代理店までご連絡ください。

DBA-1210P の同梱物

- 本体 x 1
- ゴム足 x 4
- AC アダプタ x 1
- イーサネットケーブル x 1
- クイックインストールガイド x 1
- PL シート x 1
- GPL Code Statement x 1
- シリアルラベル x 4
- マウントキット
 - マウントプレート x 1
 - セキュリティ金具 x 1
 - セキュリティ金具カバー x 1
 - セキュリティ金具取り付け用ネジ x 2
 - 壁または天井取り付け用ネジ x 2
 - 壁または天井取り付け用アンカー x 2

DBA-2520P の同梱物

- 本体 x 1
- コンソールケーブル (RJ-45/RS-232) x 1
- クイックスタートガイド x 1
- PL シート x 1
- GPL Code Statement x 1
- マウントキット
 - マウントプレート x 1
 - 壁または天井取り付け用ネジ x 2
 - 壁または天井取り付け用アンカー x 2
 - 天井クロスバー取り付け用ブラケット x 6 (大中小サイズ各2個ずつ)
 - 天井クロスバー取り付け用ネジ x 2

AC アダプタは同梱されていません。本製品を PoE で使用しない場合は、別売りの AC アダプタ「PSE-M12V25A-I」をご使用ください。

DBA-2620P の同梱物

- 本体 x 1
- コンソールケーブル (RJ-45/RS-232) x 1
- クイックスタートガイド x 1
- PL シート x 1
- GPL Code Statement x 1
- マウントキット
 - マウントプレート x 1
 - 壁または天井取り付け用ネジ x 2
 - 壁または天井取り付け用アンカー x 2
 - 天井クロスバー取り付け用ブラケット x 6 (大中小サイズ各2個ずつ)
 - 天井クロスバー取り付け用ネジ x 2

AC アダプタは同梱されていません。本製品を PoE で使用しない場合は、別売りの AC アダプタ「PSE-M12V25A-I」をご使用ください。

DBA-2720P の同梱物

- 本体 x 1
- コンソールケーブル (RJ-45/RS-232) x 1
- クイックスタートガイド x 1
- PLシート x 1
- GPL Code Statement x 1
- マウントキット
 - マウントプレート x 1
 - 壁または天井取り付け用ネジ x 2
 - 壁または天井取り付け用アンカー x 2
 - 天井クロスバー取り付け用ブラケット x 6 (大中小サイズ各2個ずつ)
 - 天井クロスバー取り付け用ネジ x 2

ACアダプタは同梱されていません。本製品を PoE で使用しない場合は、別売りの AC アダプタ「PSE-M12V25A-I」をご使用ください。

DBA-2820P の同梱物

- 本体 x 1
- コンソールケーブル (RJ-45/RS-232) x 1
- クイックスタートガイド x 1
- PLシート x 1
- GPL Code Statement x 1
- マウントキット
 - マウントプレート x 1
 - 壁または天井取り付け用ネジ x 2
 - 壁または天井取り付け用アンカー x 2
 - 天井クロスバー取り付け用ブラケット x 6 (大中小サイズ各2個ずつ)
 - 天井クロスバー取り付け用ネジ x 2

ACアダプタは同梱されていません。本製品を PoE で使用しない場合は、別売りの AC アダプタ「PSE-M12V25A-I」をご使用ください。

ネットワーク接続前の準備

アクセスポイントの設置場所が性能に大きな影響を与えます。以下のガイドラインに従って本製品を設置してください。

設置にあたっての注意

本製品の使用により、動作範囲内にて無線でネットワークアクセスが可能になりますが、壁や天井など無線信号が通過する物体の数や厚さ、材質、場所などにより、動作範囲が制約を受ける場合があります。一般的には、構造物の材質や設置場所での無線周波数のノイズが動作範囲に影響を与えます。

1. 本製品と他のネットワークデバイスとの間に入る壁や天井の数をできるだけ少なくしてください。一枚の壁や天井の影響により、一般的な動作範囲は1～30メートルの範囲となります。間に入る障害物の数を減らすようデバイスの位置を工夫してください。
2. ネットワークデバイス間の直線距離にご注意ください。厚さ50センチの壁を45度の角度で無線信号が通過する時、通り抜ける壁の厚みは約1メートルになります。2度の角度で通過すると、通り抜ける厚みは14メートルになります。信号が障害物をなるべく直角に通過するような位置にデバイスを設置し、電波を受信しやすくしてください。
3. 無線信号の通過性能は建築材料により異なります。金属製のドアやアルミの金具などは動作範囲を小さくする可能性があります。無線LANデバイスや無線LANアダプタ使用のコンピュータの設置は、信号がなるべく乾式壁か開放された戸口などを通るような位置に設置してください。
4. 周波数ノイズを発生する電気機器や家電製品からは、最低でも1、2メートル離してデバイスを設置してください。
5. 2.4GHzのコードレス電話またはX-10（シーリングファン、ライト、およびホームセキュリティシステムなどの無線製品）を使っている場合、ご使用の無線接続は著しく性能が低下するか、または完全に切断される可能性があります。2.4GHz電話の親機は可能な限りご使用の無線機器から離れていることを確認してください。電話を使用していない場合でも、親機は信号を送信します。
6. ACアダプタは必ず付属のACアダプタ*をご使用ください。

* DBA-2520P/DBA-2620P/DBA-2720P/DBA-2820PにはACアダプタが付属していません。
PoEでご使用いただくか、別売りのACアダプタ「PSE-M12V25A-I」をご使用ください。

* DBA-3621PにはACアダプタが付属していません。PoEでご使用ください。

Nuclias 用 AP の設定・設置

Nuclias 用 AP の接続方法

Nuclias 用 AP の設定や管理は、インターネットに接続することで Nuclias 側から自動的に行われます。

管理する PC をインターネットに接続しクラウドでの Wi-Fi ポリシーの設定を行うことで、登録した複数の Nuclias 用 AP を一度に設定、管理することができます。インターネット環境にある Nuclias 用 AP はクラウドに自動的に接続、設定をダウンロードして適合するネットワークに参加します。

注意 Nuclias 用 AP は自動的に LAN 内の DHCP サーバから IP アドレスを取得しクラウドへ接続しますが、LAN 内で固定 IP アドレスを割り振らなければならない場合や、VLAN を設定する必要がある場合、インターネットを介してクラウドに接続することができない場合には、Nuclias 用 AP に直接アクセスする事で手動で IP アドレスや VLAN などを設定する事ができます。

Nuclias 経由で接続（Nuclias 用 AP の全ての設定が可能）

Nuclias 経由で Nuclias 用 AP とコンピュータを接続します。複数の Nuclias 用 AP を一度に設定、管理することができます。

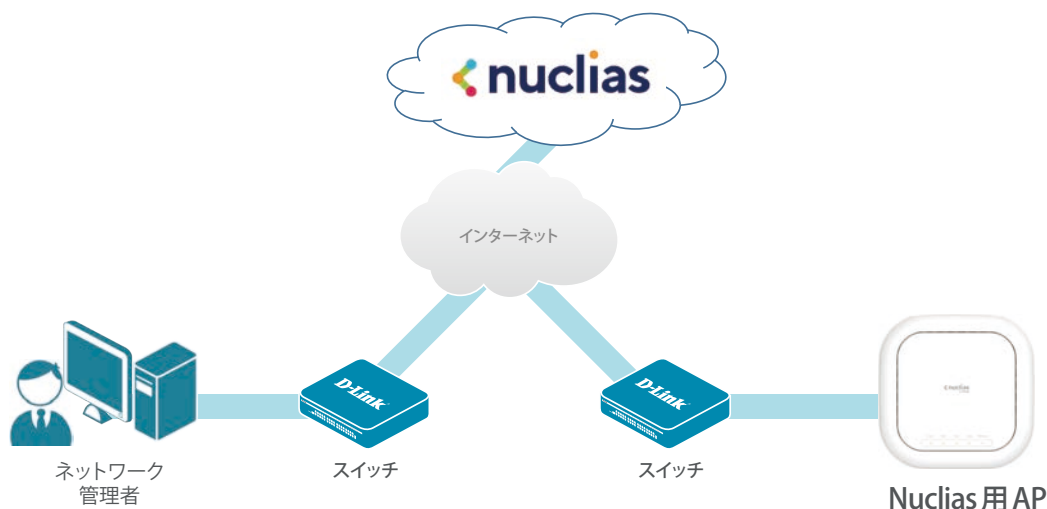


図 3-1 接続方法（クラウド）

イーサネットケーブルを使って直接接続（Nuclias 用 AP の IP アドレス、VLAN 等の基本設定のみ可能）

イーサネットケーブルを使って Nuclias 用 AP とコンピュータを直接接続します。

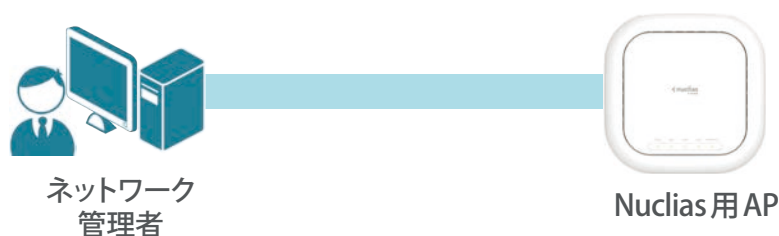


図 3-2 接続方法（直接接続）

ブラウザのアドレス欄に Nuclias 用 AP のホスト名を入力し、Enter を押下します。

- ・ ホスト名の初期値: 「DBA-XXXX-YYYY」
 - 「XXXX」は、Nuclias 用 AP の製品名です。
お使いの機種を確認し「1210P」「2520P」「2620P」「2720P」「2820P」「3621P」のいずれかを入力してください。
 - 「YYYY」は、Nuclias 用 AP 本体の底面にあるデバイスラベルに記載されている、MAC アドレスの最後の 4 ケタです。
DBA-2820P の例: <http://DBA-2820P-YYYY>

ローカルネットワークで接続 (Nuclias 用 AP の IP アドレス、VLAN 等の基本設定のみ可能)

Nuclias 用 AP とコンピュータを同じスイッチもしくはルータに接続します。

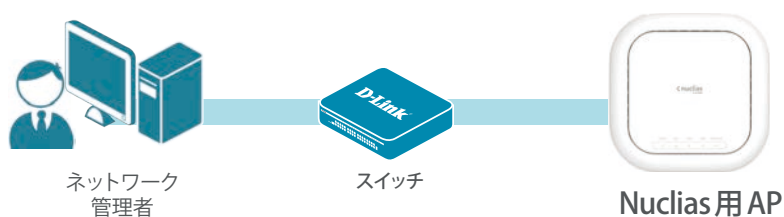


図 3-3 接続方法 (ローカルネットワーク接続)

ブラウザのアドレス欄に Nuclias 用 AP のホスト名を入力し、Enter を押下します。

- ホスト名の初期値: 「DBA-XXXX-YYYY」
 - 「XXXX」は、Nuclias 用 AP の製品名です。
お使いの機種を確認し「1210P」「2520P」「2620P」「2720P」「2820P」「3621P」のいずれかを入力してください。
 - 「YYYY」は、Nuclias 用 AP 本体の底面にあるデバイスラベルに記載されている、MAC アドレスの最後の 4 ケタです。
DBA-2820P の例: <http://DBA-2820P-YYYY>

SSID 「DBA-XXXX-YYYY」から無線で接続 (Nuclias 用 AP の IP アドレス、VLAN 等の基本設定のみ可能)



図 3-4 接続方法 (無線接続 (SSID))

ブラウザのアドレス欄に Nuclias 用 AP のホスト名を入力し、Enter を押下します。

- ホスト名の初期値: 「DBA-XXXX-YYYY」
 - 「XXXX」は、Nuclias 用 AP の製品名です。
お使いの機種を確認し「1210P」「2520P」「2620P」「2720P」「2820P」「3621P」のいずれかを入力してください。
 - 「YYYY」は、Nuclias 用 AP 本体の底面にあるデバイスラベルに記載されている、MAC アドレスの最後の 4 ケタです。
DBA-2820P の例: <http://DBA-2820P-YYYY>

第3章 Nuclias用APの設置

DBA-1210P の設置

DBA-1210P 本体の設置方法について説明します。

DBA-1210P 壁面への設置

本製品を壁面に設置するために以下のものをご用意ください。

- ・ マウントプレート (付属)
- ・ セキュリティ金具と取り付け用ネジ (付属)
- ・ 天井または壁面取り付け用のネジとアンカー (付属)
- ・ ドリル (※壁面に穴をあけるために使用します)
- ・ ドライバー

1. セキュリティ金具を利用する場合、同梱されているネジを使用し、マウントプレートにセキュリティ金具を取り付けます。

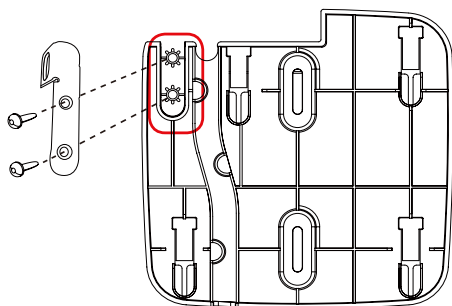


図 3-5 DBA-1210P セキュリティ金具の取り付け

2. 設置する場所 (壁もしくは天井) にマウントプレートを合わせ、ネジを差し込む場所にしるしを付けます。

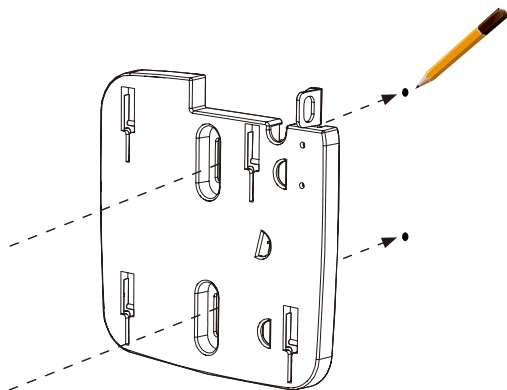


図 3-6 DBA-1210P 位置確認 (壁面設置)

3. マークした箇所にドリルで穴をあけ、アンカーを挿入します。

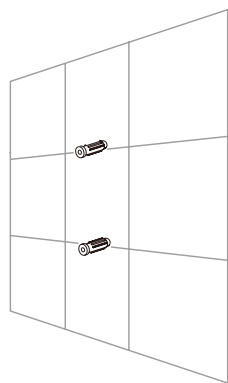


図 3-7 DBA-1210P アンカー挿入

4. アンカーの位置にマウントプレートを合わせ、同梱のネジを使って壁に取り付けます。

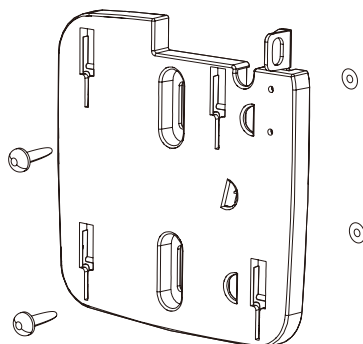


図 3-8 DBA-1210P マウントプレートネジ止め

5. DBA-1210P の LAN ポートにイーサネットケーブルを接続します。
6. DBA-1210P と一緒に PoE 給電スイッチもしくはルータを使わない場合は、DBA-1210P の電源コネクタに AC アダプタを接続します。
7. マウントプレートに DBA-1210P を取り付けます。

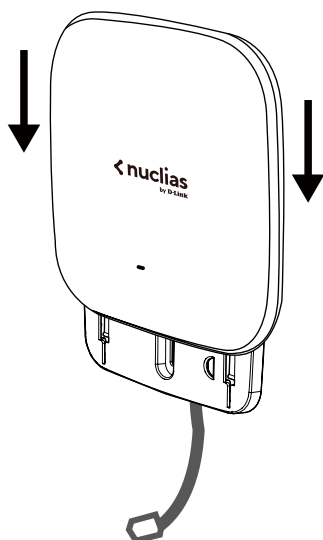


図 3-9 DBA-1210P 機器の設置

DBA-1210P デスクトップでの使用

本製品をデスクトップで使用する場合、背面に同梱のゴム足を取り付けてください。

DBA-1210P のロック

マウントプレートにセキュリティ金具が取り付けられている場合、本体のロックスロットを使用して安全に固定することができます。

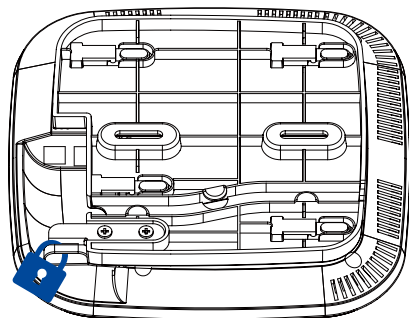


図 3-10 DBA-1210P のロック

第3章 Nuclias用APの設置

DBA-2520P の設置

DBA-2520P 本体の設置方法について説明します。

本製品を設置するために以下のものをご用意ください。

- ・ マウントプレート (付属)
- ・ 天井または壁面取り付け用のネジとアンカー (付属)
- ・ 天井クロスバー取り付け用のブラケットとネジ (付属)
- ・ ドリル (※壁面に穴をあけるために使用します)
- ・ ドライバー

DBA-2520P 天井または壁面への設置

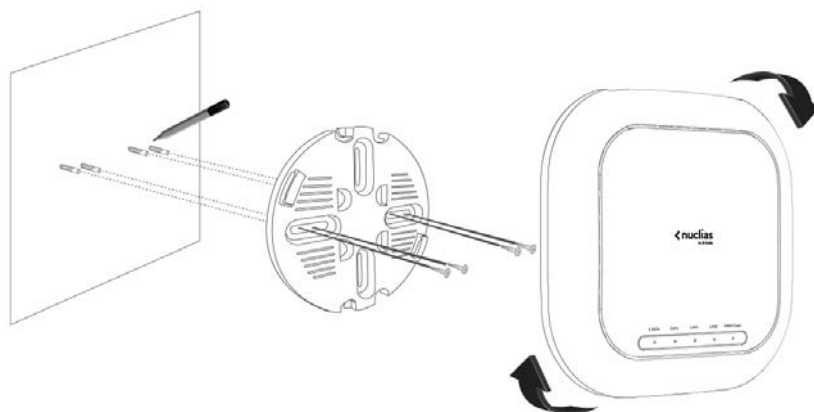


図 3-11 DBA-2520P 天井または壁面への設置

1. マウントプレートを使用し、壁または天井のドリルで穴をあける位置にマークを付けます。
2. マークにドリルで穴を開け、付属のアンカーを穴に配置します。
3. マウントプレートをアンカーの上に配置し、付属のネジを使用してマウントプレートを表面に固定します。
4. イーサネットケーブルを本製品に接続します。
本製品を PoE で使用する場合は「LAN1 (PoE) ポート」を選択してください。
5. 本製品をマウントプレートに取り付け、本製品が所定の位置にロックされるまで時計回りに回します。

DBA-2520P 天井クロスバーへの設置

1. 同梱されている天井ブラケットのうち2つを天井クロスバーに取り付けます。2つのブラケットが互いに直列に配置されていることを確認します。

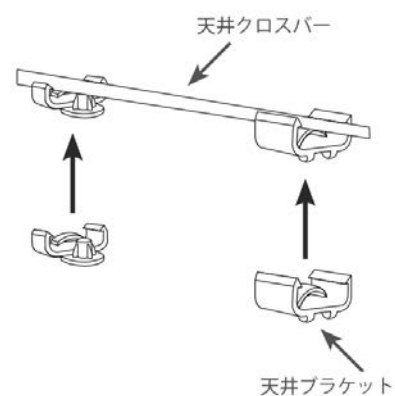


図 3-12 DBA-2520P 天井ブラケットの取り付け

2. 天井クロスバー取り付け用のネジを使用し、マウントプレート天井ブラケットに固定します。
3. イーサネットケーブルを本製品に接続します。
本製品を PoE で使用する場合は「LAN1 (PoE) ポート」を選択してください。
4. 本製品をマウントプレートに取り付け、本製品が所定の位置にロックされるまで時計回りに回します。



図 3-13 DBA-2520P 天井クロスバーへの設置

DBA-2520P のロック

DBA-2520P 下部の側面には、セキュリティスロットが搭載されています。市販のセキュリティロックを使用して機器に鍵をかけることが可能です。

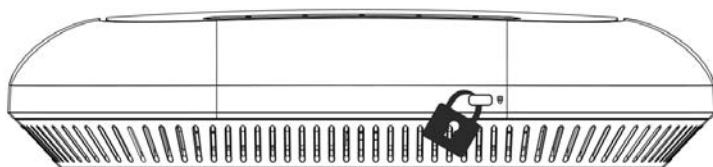


図 3-14 DBA-2520P のロック

第3章 Nuclias用APの設置

DBA-2620P の設置

DBA-2620P 本体の設置方法について説明します。

本製品を設置するために以下のものをご用意ください。

- ・ マウントプレート (付属)
- ・ 天井または壁面取り付け用のネジとアンカー (付属)
- ・ 天井クロスバー取り付け用のブラケットとネジ (付属)
- ・ ドリル (※壁面に穴をあけるために使用します)
- ・ ドライバー

DBA-2620P 天井または壁面への設置

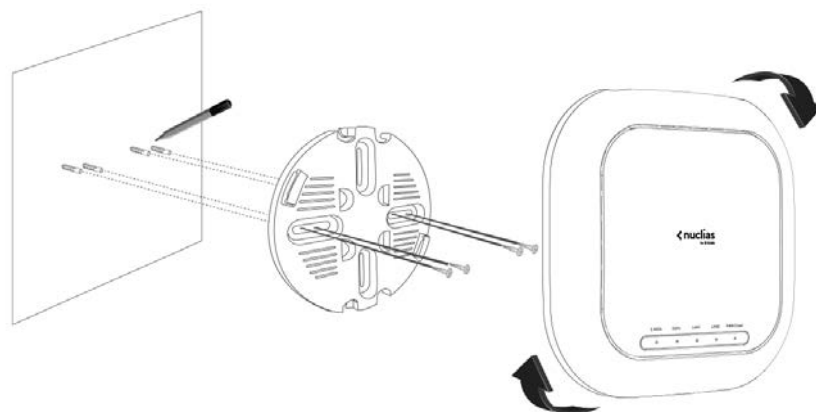


図 3-15 DBA-2620P 天井または壁面への設置

1. マウントプレートを使用し、壁または天井のドリルで穴をあける位置にマークを付けます。
2. マークにドリルで穴を開け、付属のアンカーを穴に配置します。
3. マウントプレートをアンカーの上に配置し、付属のネジを使用してマウントプレートを表面に固定します。
4. イーサネットケーブルを本製品に接続します。
本製品を PoE で使用する場合は「LAN1 (PoE) ポート」を選択してください。
5. 本製品をマウントプレートに取り付け、本製品が所定の位置にロックされるまで時計回りに回します。

DBA-2620P 天井クロスバーへの設置

1. 同梱されている天井ブラケットのうち2つを天井クロスバーに取り付けます。2つのブラケットが互いに直列に配置されていることを確認します。

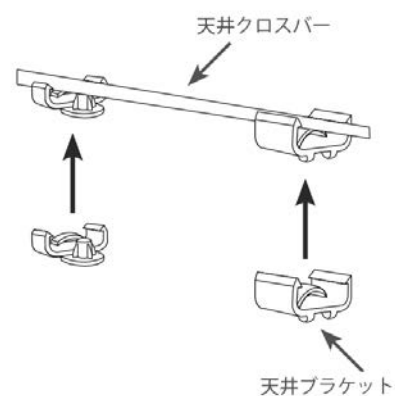


図 3-16 DBA-2620P 天井ブラケットの取り付け

2. 天井クロスバー取り付け用のネジを使用し、マウントプレートを実機に固定します。
3. イーサネットケーブルを実機に接続します。
本製品を PoE で使用する場合は「LAN1 (PoE) ポート」を選択してください。
4. 本製品をマウントプレートに取り付け、本製品が所定の位置にロックされるまで時計回りに回します。



図 3-17 DBA-2620P 天井クロスバーへの設置

DBA-2620P のロック

DBA-2620P 下部の側面には、セキュリティスロットが搭載されています。市販のセキュリティロックを使用して機器に鍵をかけることが可能です。

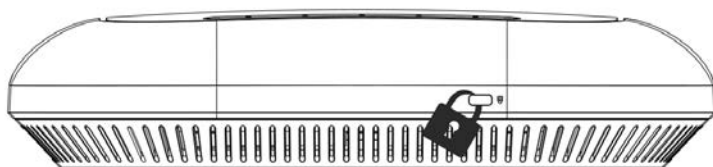


図 3-18 DBA-2620P のロック

第3章 Nuclias用APの設置

DBA-2720P の設置

DBA-2720P 本体の設置方法について説明します。

本製品を設置するために以下のものをご用意ください。

- ・ マウントプレート (付属)
- ・ 天井または壁面取り付け用のネジとアンカー (付属)
- ・ 天井クロスバー取り付け用のブラケットとネジ (付属)
- ・ ドリル (※壁面に穴をあけるために使用します)
- ・ ドライバー

DBA-2720P 天井または壁面への設置

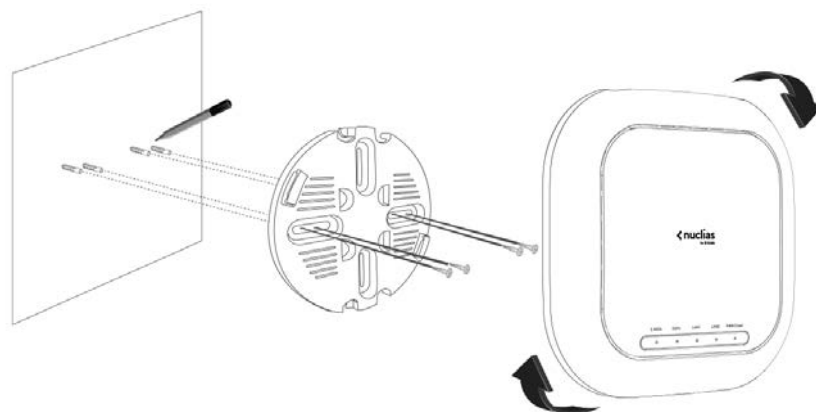


図 3-19 DBA-2720P 天井または壁面への設置

1. マウントプレートを使用し、壁または天井のドリルで穴をあける位置にマークを付けます。
2. マークにドリルで穴を開け、付属のアンカーを穴に配置します。
3. マウントプレートをアンカーの上に配置し、付属のネジを使用してマウントプレートを表面に固定します。
4. イーサネットケーブルを本製品に接続します。
本製品を PoE で使用する場合は「LAN1 (PoE) ポート」を選択してください。
5. 本製品をマウントプレートに取り付け、本製品が所定の位置にロックされるまで時計回りに回します。

DBA-2720P 天井クロスバーへの設置

1. 同梱されている天井ブラケットのうち2つを天井クロスバーに取り付けます。2つのブラケットが互いに直列に配置されていることを確認します。

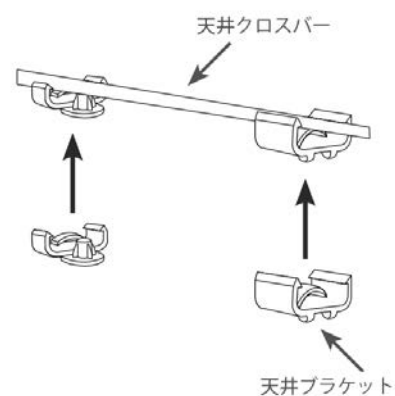


図 3-20 DBA-2720P 天井ブラケットの取り付け

2. 天井クロスバー取り付け用のネジを使用し、マウントプレートを実機に固定します。
3. イーサネットケーブルを実機に接続します。
本製品を PoE で使用する場合は「LAN1 (PoE) ポート」を選択してください。
4. 本製品をマウントプレートに取り付け、本製品が所定の位置にロックされるまで時計回りに回します。

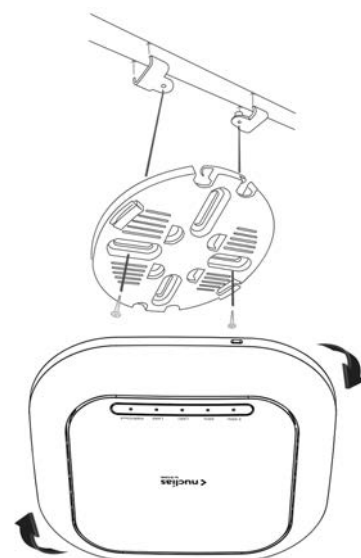


図 3-21 DBA-2720P 天井クロスバーへの設置

DBA-2720P のロック

DBA-2720P 下部の側面には、セキュリティスロットが搭載されています。市販のセキュリティロックを使用して機器に鍵をかけることが可能です。

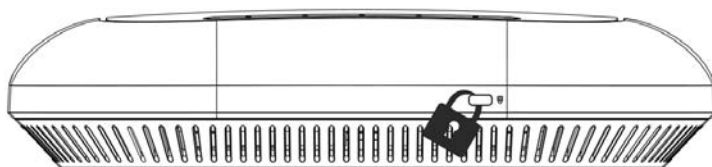


図 3-22 DBA-2720P のロック

第3章 Nuclias用APの設置

DBA-2820P の設置

DBA-2820P 本体の設置方法について説明します。

本製品を設置するために以下のものをご用意ください。

- ・ マウントプレート (付属)
- ・ 天井または壁面取り付け用のネジとアンカー (付属)
- ・ 天井クロスバー取り付け用のブラケットとネジ (付属)
- ・ ドリル (※壁面に穴をあけるために使用します)
- ・ ドライバー

DBA-2820P 天井または壁面への設置

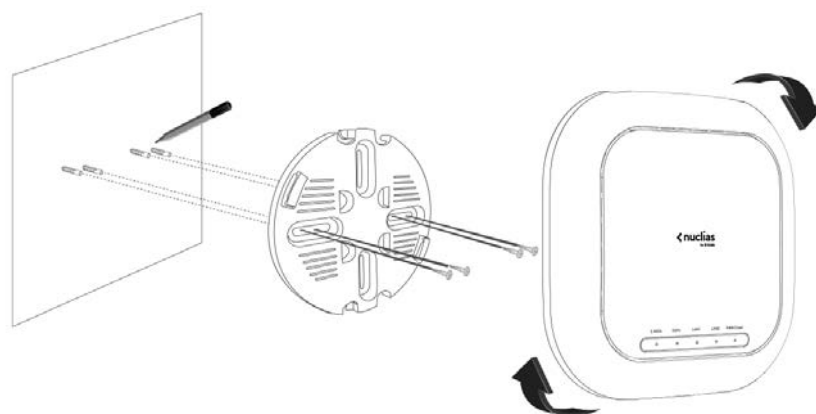


図 3-23 DBA-2820P 天井または壁面への設置

1. マウントプレートを使用し、壁または天井のドリルで穴をあける位置にマークを付けます。
2. マークにドリルで穴を開け、付属のアンカーを穴に配置します。
3. マウントプレートをアンカーの上に配置し、付属のネジを使用してマウントプレートを表面に固定します。
4. イーサネットケーブルを本製品に接続します。
本製品を PoE で使用する場合は「LAN1 (PoE) ポート」を選択してください。
5. 本製品をマウントプレートに取り付け、本製品が所定の位置にロックされるまで時計回りに回します。

DBA-2820P 天井クロスバーへの設置

1. 同梱されている天井ブラケットのうち2つを天井クロスバーに取り付けます。2つのブラケットが互いに直列に配置されていることを確認します。

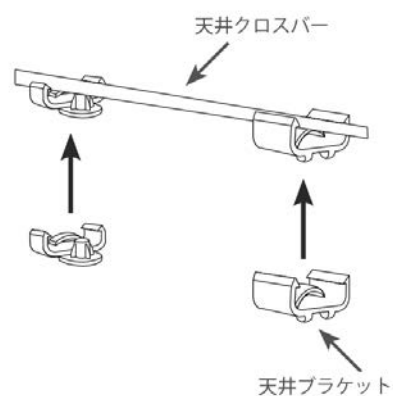


図 3-24 DBA-2820P 天井ブラケットの取り付け

2. 天井クロスバー取り付け用のネジを使用し、マウントプレートを実機に固定します。
3. イーサネットケーブルを実機に接続します。
本製品を PoE で使用する場合は「LAN1 (PoE) ポート」を選択してください。
4. 本製品をマウントプレートに取り付け、本製品が所定の位置にロックされるまで時計回りに回します。

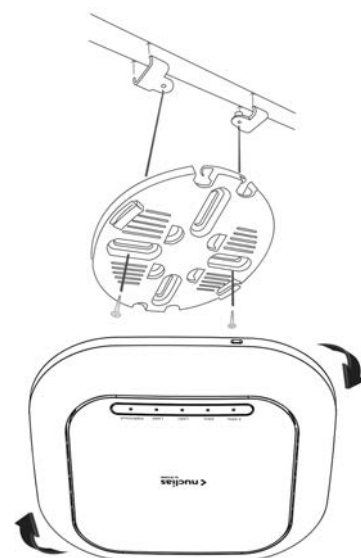


図 3-25 DBA-2820P 天井クロスバーへの設置

DBA-2820P のロック

DBA-2820P 下部の側面には、セキュリティスロットが搭載されています。市販のセキュリティロックを使用して機器に鍵をかけることが可能です。

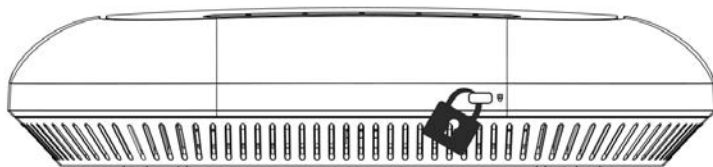


図 3-26 DBA-2820P のロック

第3章 Nuclias用APの設置

DBA-3621P の設置

DBA-3621P 本体の設置方法について説明します。

本製品を設置するために以下のものをご用意ください。

- ・ 柱用マウントキット (付属)
- ・ 壁用マウントキット (付属)
- ・ アース線 (付属) とアース線用ネジ (付属)
- ・ ドリル (※壁面に穴をあけるために使用します)
- ・ ドライバー

防水コネクタの装着

1. イーサネットケーブルに防水コネクタを装着し、DBA-3621P の LAN (PoE) ポートに接続します。
防水コネクタは以下のように装着してください。

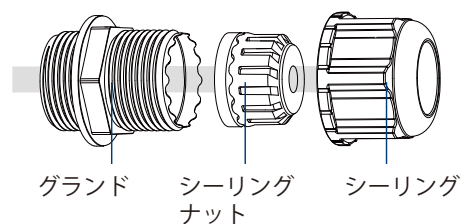


図 3-27 DBA-3621P 防水コネクタ

柱への設置

DBA-3621P を柱へ設置する場合は、以下の手順を参照してください。

1. 付属の U ボルトとナットを使用し、柱用マウントプレートに柱に固定します。

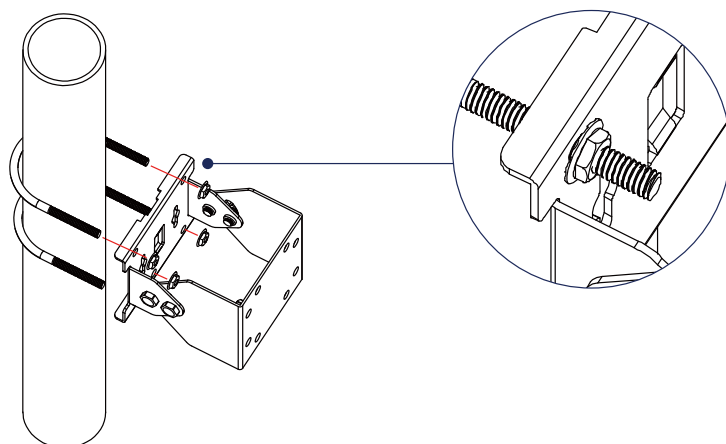


図 3-28 DBA-3621P 柱への設置

2. 付属のネジとワッシャーを使用し、DBA-3621P を柱用マウントプレートに固定します。

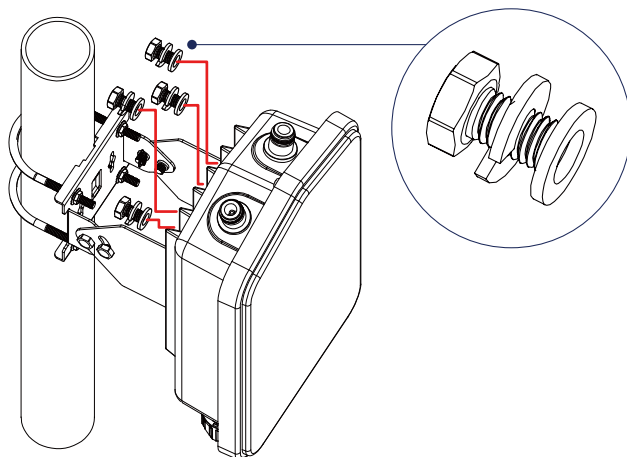


図 3-29 DBA-3621P 柱用マウントプレートへの取り付け

壁への設置

DBA-3621P を壁へ設置する場合は、以下の手順を参照してください。

1. 付属のネジとワッシャーを使用し、DBA-3621P を壁用マウントプレートに固定します。

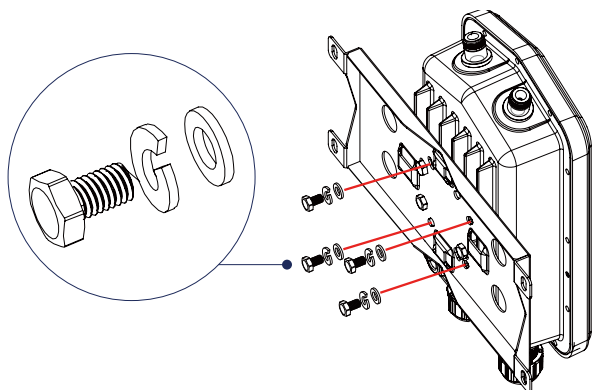


図 3-30 DBA-3621P マウントプレートの取り付け

2. 壁用マウントプレートを取り付ける位置に合わせて、ドリルで穴をあける箇所に印をつけます。
3. 印をつけた位置にドリルで穴をあけ、付属のアンカーを挿入します。
4. 壁用マウントプレートをアンカーの位置に合わせて置き、付属のネジを使用して壁に固定します。

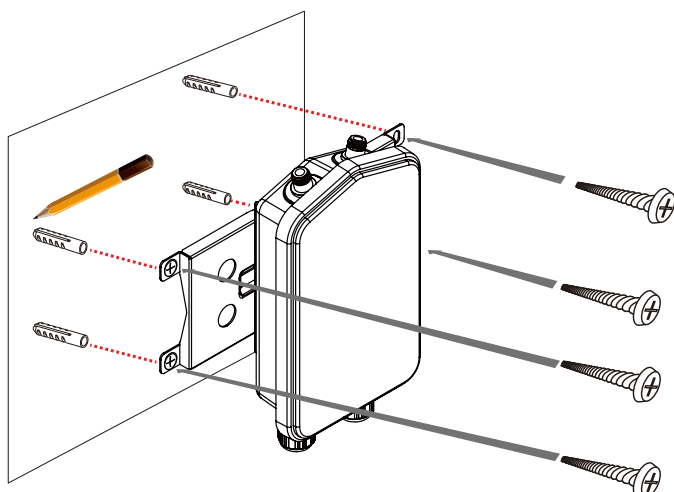


図 3-31 DBA-3621P 壁への取り付け

アース線の接続

DBA-3621P を落雷や静電気から保護するために、アース線を接続します。

1. 付属のネジを使用し、アース線を DBA-3621P に接続します。

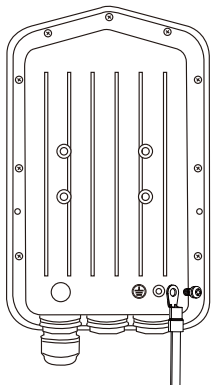


図 3-32 DBA-3621P アース線の接続

2. ドライバーを使用し、アース線がしっかり固定されるようにネジを締めてください。

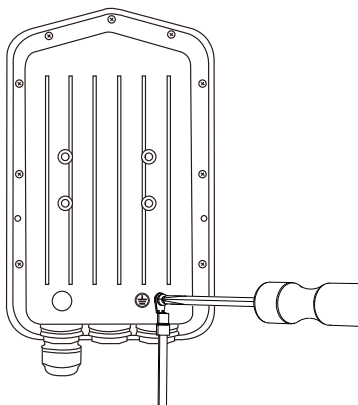


図 3-33 DBA-3621P アース線の固定

3. アース線のもう片方を柱または壁に取り付けます。

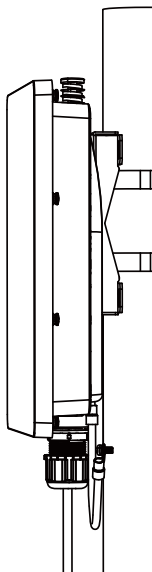


図 3-34 DBA-3621P アース線の取り付け

イーサネットケーブルの接続

イーサネットケーブルの一端を本製品の背面にある RJ-45 コネクタに接続し、もう一端をルータ、スイッチ等のネットワーク機器に接続します。

IP アドレスの設定について

Nuclias 用 AP の電源を入れると、機器に内蔵の DHCP クライアントが IP アドレス取得のためのネットワーク内の DHCP サーバを検索します。IP アドレスを自動的に取得できない場合は、Web ベースユーティリティ (Web GUI) を使用して手動で IP アドレスを割り振るなど、必要なネットワーク設定を行う事ができます。

Web GUI の設定方法については「[Web ベース設定ユーティリティ \(Web GUI\) の設定](#)」を参照してください。

電源の投入

DBA-1210P 電源の投入

AC アダプタを使用する場合：

1. 付属の AC アダプタを接続し、AC アダプタのプラグを電源コンセントに接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power LED が点灯します。

PoE 給電機器を使用する場合：

1. イーサネットケーブルの一端を本製品の背面にある RJ-45 コネクタに接続し、もう一端を PoE スイッチ等の PoE 給電機能のあるネットワーク機器に接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、ステータス LED が点灯します。

DBA-2520P 電源の投入

AC アダプタ (PSE-M12V25A-I) を使用する場合：

1. 別売りの AC アダプタ (PSE-M12V25A-I) を接続し、AC アダプタのプラグを電源コンセントに接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

情報 Power/Cloud LED が点灯しない場合は、POWER ボタンを押下してください。

PoE 給電機器を使用する場合：

1. イーサネットケーブルの一端を本製品の背面にある「LAN1 (PoE) ポート」に接続し、もう一端を PoE スイッチ等の PoE 給電機能のあるネットワーク機器に接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

DBA-2620P 電源の投入

AC アダプタ (PSE-M12V25A-I) を使用する場合：

1. 別売りの AC アダプタ (PSE-M12V25A-I) を接続し、AC アダプタのプラグを電源コンセントに接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

情報 Power/Cloud LED が点灯しない場合は、POWER ボタンを押下してください。

PoE 給電機器を使用する場合：

1. イーサネットケーブルの一端を本製品の背面にある「LAN1 (PoE) ポート」に接続し、もう一端を PoE スイッチ等の PoE 給電機能のあるネットワーク機器に接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

第3章 Nuclias用APの設置

DBA-2720P 電源の投入

AC アダプタ (PSE-M12V25A-I) を使用する場合：

1. 別売りの AC アダプタ (PSE-M12V25A-I) を接続し、AC アダプタのプラグを電源コンセントに接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

情報 Power/Cloud LED が点灯しない場合は、POWER ボタンを押下してください。

PoE 給電機器を使用する場合：

1. イーサネットケーブルの一端を本製品の背面にある「LAN1 (PoE) ポート」に接続し、もう一端を PoE スイッチ等の PoE 給電機能のあるネットワーク機器に接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

DBA-2820P 電源の投入

AC アダプタ (PSE-M12V25A-I) を使用する場合：

1. 別売りの AC アダプタ (PSE-M12V25A-I) を接続し、AC アダプタのプラグを電源コンセントに接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

情報 Power/Cloud LED が点灯しない場合は、POWER ボタンを押下してください。

PoE 給電機器を使用する場合：

1. イーサネットケーブルの一端を本製品の背面にある「LAN1 (PoE) ポート」に接続し、もう一端を PoE スイッチ等の PoE 給電機能のあるネットワーク機器に接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

DBA-3621P 電源の投入

情報 AC アダプタは同梱されていません。PoE でお使いください。

1. イーサネットケーブルの一端を本製品の底面にある「LAN (PoE) ポート」に接続し、もう一端を PoE スイッチ等の PoE 給電機能のあるネットワーク機器に接続します。
2. 本製品に電源が供給されると、Power/Cloud LED が点灯します。

第4章 Nuclias APの手動設定

- Web ベース設定ユーティリティ (Web GUI) の設定
- DBA-1210P の Web GUI 設定
- DBA-2520P の Web GUI 設定
- DBA-2620P の Web GUI 設定
- DBA-2720P の Web GUI 設定
- DBA-2820P の Web GUI 設定
- DBA-3621P の Web GUI 設定

ここでは、Nuclias を使用せずに Nuclias 用 AP へ直接接続し、手動設定を行う Web GUI ついて説明します。

注意 Nuclias 用 AP が LAN 内の DHCP サーバから IP アドレスを取得できる場合は、この設定は不要です。

Web ベース設定ユーティリティ (Web GUI) の設定

Nuclias 用 AP の設定や管理は、基本的に「Nuclias」を使用して行いますが、一部の設定は機器に実装されている Web ベース (HTML) インタフェース経由で手動設定することができます。

標準的なブラウザを使用してネットワーク上のリモートステーションから本製品を管理できます。ブラウザが普遍的なアクセスツールの役割をし、HTTP プロトコルを使用して直接通信することが可能です。

Web ベースの管理モジュールは、異なるインタフェースを経由して同じスイッチ内部のソフトウェアにアクセスし、その設定を行います。

DBA-1210P の Web GUI 設定

DBA-1210P Web GUI 設定画面へのログイン

ここでの DBA-1210P の設定は AP に直接アクセスした PC から行います。ここでは、Windows OS で動作する画面で説明します。

手順と画面は、他の Windows OS についても同じです。

1. Web ブラウザを開きます。
2. Web ブラウザのアドレス欄に DBA-1210P のホスト名を入力し、「Enter」キーを押下します。
「DBA-1210P のホスト名」は “DBA-1210P-YYYY” です。「YYYY」には機器背面に貼付されている MAC アドレスの下 4 ケタの英数字を入力します。
(例) : http://DBA-1210P-YYYY

既に DBA-1210P の IP アドレスが判明している場合は、IP アドレスを直接 URL 欄に入力します。

3. 接続に成功すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

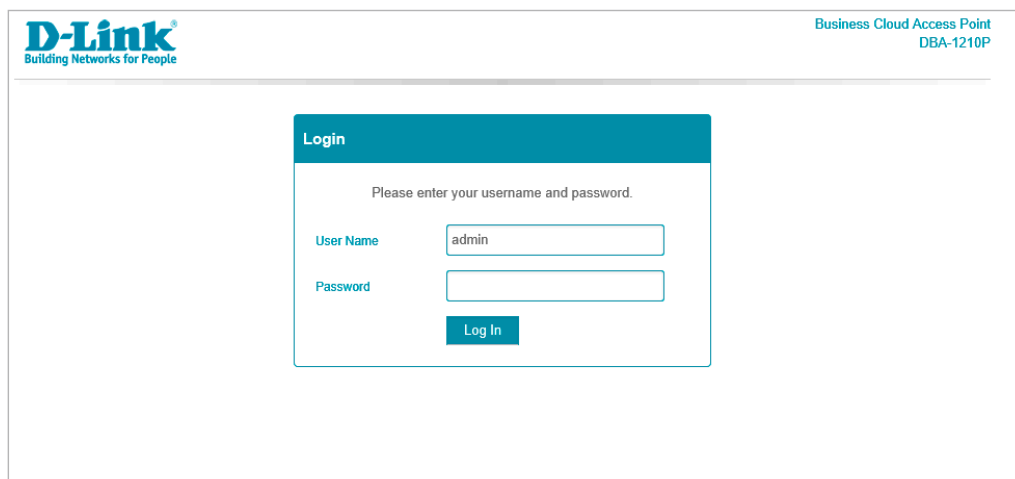


図 4-35 DBA-1210P ログイン

4. 「User Name」と「Password」にユーザ名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。
ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。

DBA-1210P を Nuclias に登録後は、パスワードが変更されます。

変更済みのパスワードは、Nuclias の画面で確認できます。

- (1) モニタ > アクセスポイント > デバイス 画面でデバイス名をクリックします。
- (2) 「基本」タブの「ローカル資格情報」を確認します。

ステータス (クラウド AP の手動設定)

ログインすると、下記の通りデバイスのステータス画面が表示されます。

ステータス画面では「ネットワーク状態」「クラウド接続状況」「機器についての情報」など DBA-1210P についての様々な情報を参照できます。

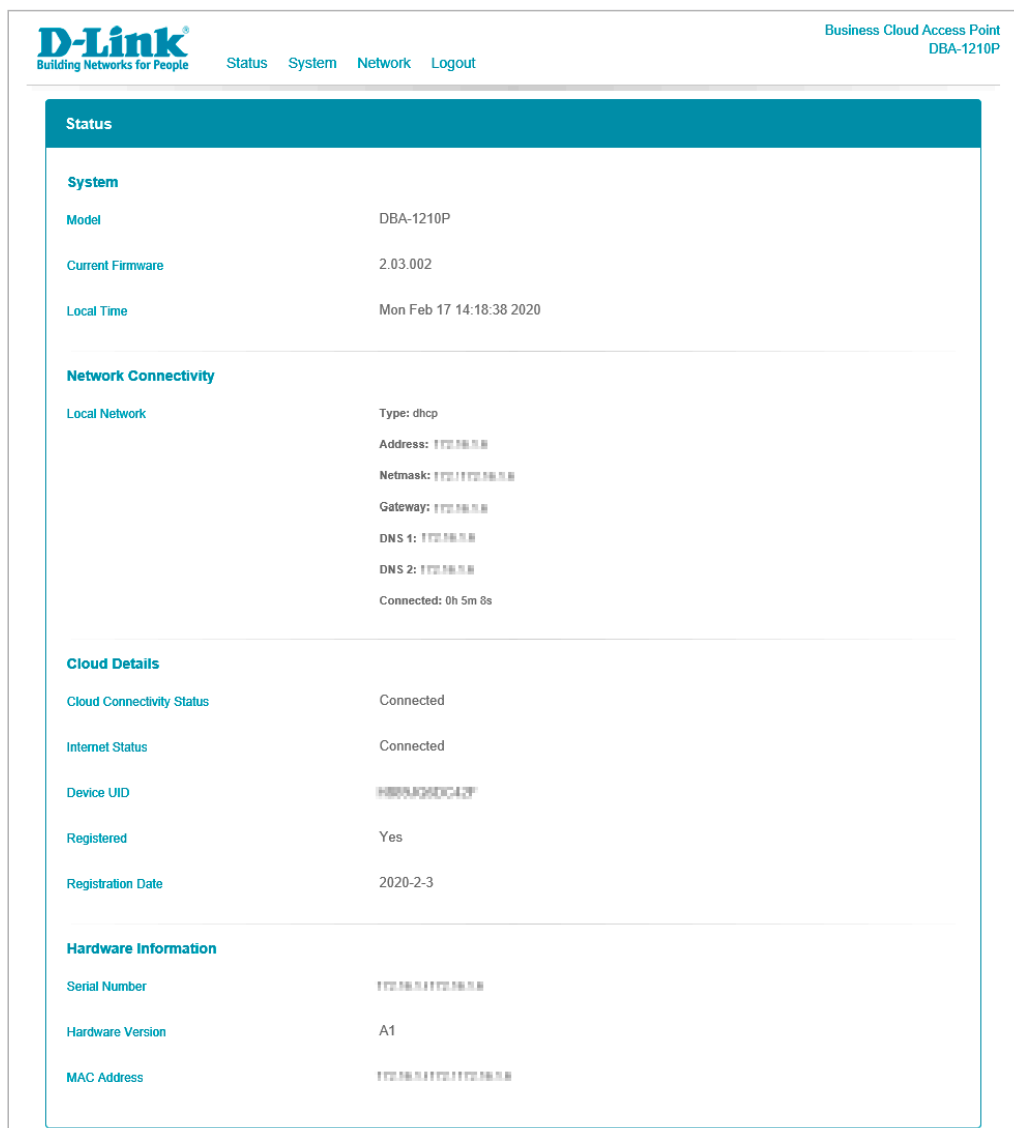


図 4-36 DBA-1210P ステータス

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
モデル	デバイスのモデル名 (型番) を表示します。
現在のファームウェア	現在のファームウェアバージョンを表示します。
現地時刻	現地の時刻を表示します。
ローカルネットワーク	ネットワーク設定を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> タイプ: DHCP、スタティック IP アドレスかを表示します。 アドレス: IP アドレス (IPv4) を表示します。 ネットマスク: サブネットマスクを表示します。 ゲートウェイ: ゲートウェイの IP アドレスを表示します。 DNS1 DNS2: DNS サーバの IP アドレスを表示します。 接続時間: ローカルネットワーク接続後どのぐらい時間が経過したかを表示します。
クラウド接続ステータス	クラウドサーバ (Nuclias サーバ) に接続されているかを表示します。
インターネットステータス	デバイスがインターネット環境に接続されているかを表示します。
デバイス UID	本体のデバイス UID を表示します。
登録状況	UID が Nuclias に登録されている場合は「Yes」を表示します。Nuclias へ登録されていない場合は「No」です。
登録日	Nuclias に UID が登録され、デバイスがオンラインになった日を表示します。
シリアル番号	製品のシリアル番号を表示します。
ハードウェアバージョン	製品のハードウェアバージョンを表示します。
MAC アドレス	製品の LAN ポートの MAC アドレスを表示します。

システム > システム

システムでは、ホストネームの確認や NTP サーバの設定を行う事ができます。

The screenshot shows the D-Link web interface for a DBA-1210P device. The top navigation bar includes 'Status', 'System', 'Network', and 'Logout'. The main content area is titled 'System' and contains two sections: 'System Properties' and 'Time Synchronization'. In 'System Properties', the 'Hostname' is set to 'DBA-1210P-1172'. In 'Time Synchronization', there are three input fields for 'NTP server candidates', with the first field containing 'ntp.nuclias.com'. At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons.

図 4-37 DBA-1210P システム

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
ホスト名	本体のホスト名が記載されています。 命名規則は「DBA-1210P- (MAC アドレス下 4 桁)」です。
NTP サーバ	NTP サーバの情報を入力します。本製品には、初期状態で 3 つの NTP サーバが登録されています。 注意 NTP サーバで正常に時刻同期ができていない場合、Nuclias 上でデバイスに関するログが正常に収集されない場合があります。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

システム > リセットとファームウェアアップグレード

本画面では、初期設定へのリセットとファームウェアアップグレードを行うことができます。

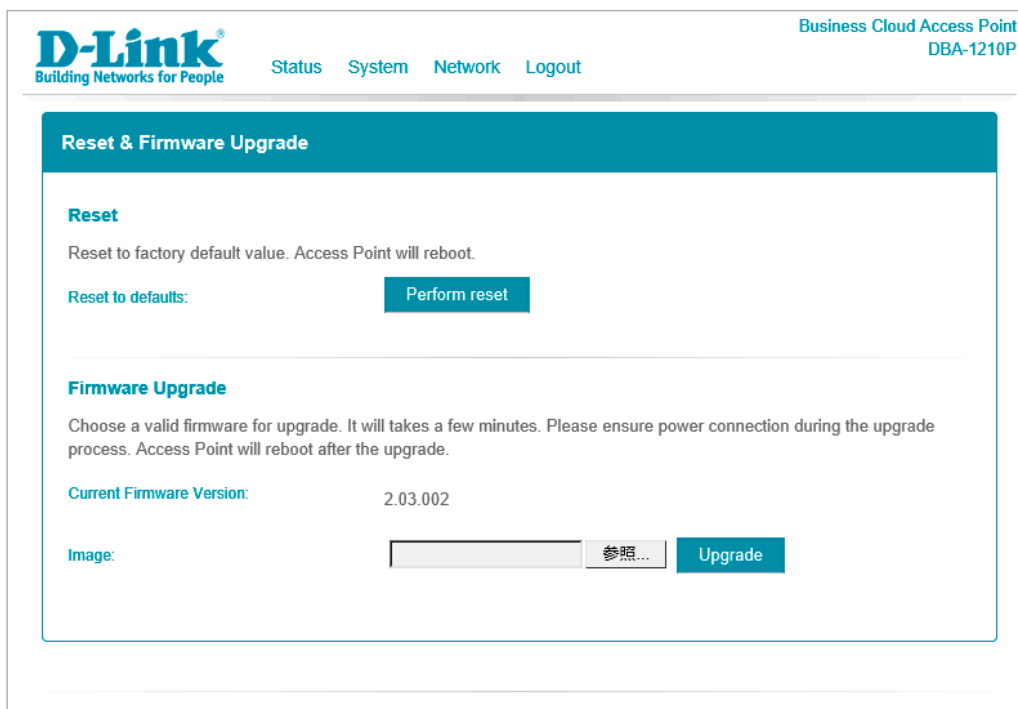


図 4-38 DBA-1210P リセットとファームウェアアップグレード

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
初期設定へのリセット	「リセットを実行する」をクリックし、本製品の設定を初期状態にリセットします。
現在のファームウェア	現在のファームウェアバージョンが表示されます。
イメージ	アップグレードするファームウェアを選択し、「アップグレード」をクリックします。

ネットワーク > 基本設定

ネットワークの設定を行います。

初期設定は「DHCP クライアント」です。スタティック IP を設定する場合は「接続タイプ」を「スタティック IP」に変更します。

The screenshot shows the D-Link web interface for the 'Network' section. The 'Common Configuration' area includes the following fields:

- Connection Type:** A dropdown menu set to 'Static IP'.
- IPv4 address:** A text input field containing '192.168.1.100'.
- IPv4 netmask:** A text input field containing '255.255.255.0'.
- IPv4 gateway:** A text input field containing '192.168.1.1'.
- Custom DNS servers:** Three empty text input fields.

At the bottom right of the configuration area, there are two buttons: 'Apply' and 'Cancel'.

図 4-39 DBA-1210P ネットワーク - 基本設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
接続タイプ	DHCP クライアント、またはスタティック IP から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「DHCP client」: アクセスポイントは自動的に DHCP サーバから IP アドレス、サブネットマスク、DNS そしてゲートウェイを取得します。 「Static IP」: IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの情報を手動で設定する必要があります。
DHCP が提供する DNS を使用	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 DHCP サーバが提供する DNS を使用する場合はチェックを入れます。DNS サーバの IP アドレスを指定する場合はチェックを外します。
カスタム DNS サーバ	DNS サーバの IP アドレスを入力します。接続タイプで「DHCP client」を選択した場合は、「DHCP が提供する DNS を使用」のチェックを外すと本項目が表示されます。
DHCP リクエスト時のホストネーム	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 ダイナミック DNS サーバを使用する際の、DHCP リクエスト時のホストネームを表示します。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

第4章 Nuclias APの手動設定

ネットワーク > 高度な設定

IPv6、プロキシ、VLAN の設定を行います。

The screenshot shows the 'Network' configuration page for a D-Link Business Cloud Access Point DBA-1210P. The page is divided into three main sections:

- IPv6 Configuration:** 'Enable IPv6' is checked.
- Proxy Configuration:** 'Enable Proxy' is unchecked. 'Host' and 'Port' fields are empty, with 'Port' showing '0'.
- VLAN Configuration:** 'Enable VLAN' is unchecked. 'Management VLAN ID' is '0'. 'VLAN Mode' is set to 'untagged'.

At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons.

図 4-40 ネットワーク - 高度な設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
IPv6 を有効にする	IPv6 経由で DBA-1210P の設定を行う機能を有効にします。
プロキシを有効にする	DBA-1210P をプロキシ経由で Nuclias サーバに接続する機能を有効にします。
ホスト	プロキシサーバのホストを入力します。
ポート	プロキシサーバのポート番号を入力します。
VLAN を有効にする	VLAN 機能を有効にします。
マネジメント VLAN ID	マネジメント VLAN の ID を入力します。
VLAN モード	VLAN モードをタグ有 / タグ無から選択します。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

ログアウト

Web GUI 上部の「Logout」をクリックすると Web GUI からログアウトし、ログイン画面が表示されます。

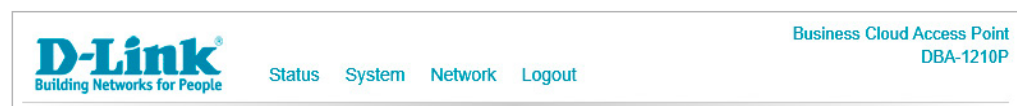


図 4-41 ログアウト

DBA-2520P の Web GUI 設定

Web GUI 設定画面へのログイン

ここでの DBA-2520P の設定は AP に直接アクセスした PC から行います。ここでは、Windows OS で動作する画面で説明します。手順と画面は、他の Windows OS についても同じです。

1. Web ブラウザを開きます。
2. Web ブラウザのアドレス欄に DBA-2520P のホスト名を入力し、「Enter」キーを押下します。「DBA-2520P のホスト名」は "DBA-2520P-YYYY" です。「YYYY」には機器背面に貼付されている MAC アドレスの下 4 ケタの英数字を入力します。(例) : http://DBA-2520P-YYYY

既に DBA-2520P の IP アドレスが判明している場合は、IP アドレスを直接 URL 欄に入力します。

3. 接続に成功すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

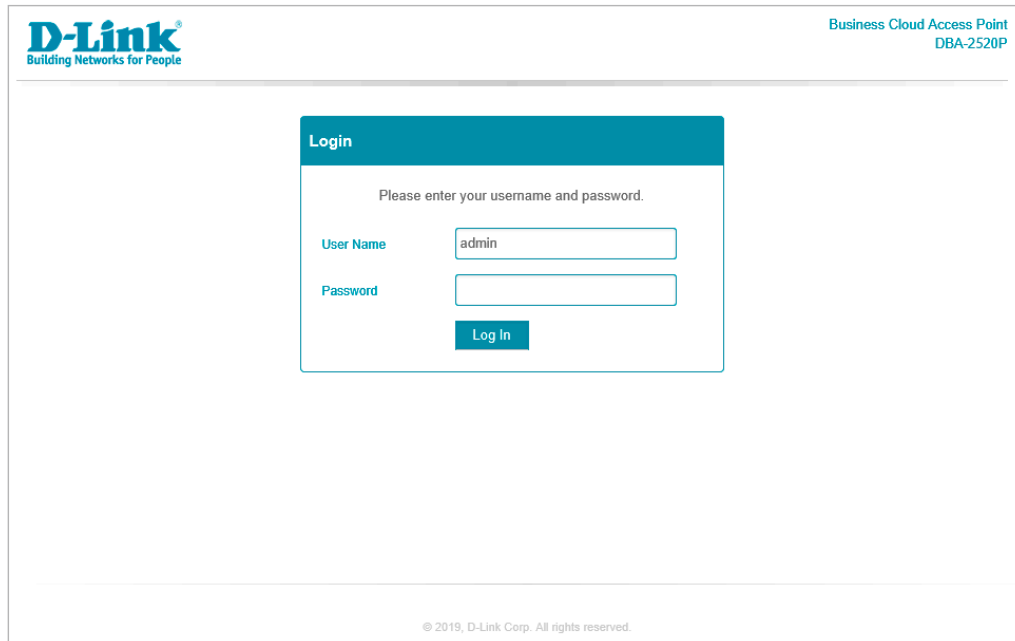


図 4-42 DBA-2520P ログイン

4. 「User Name」と「Password」にユーザ名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。

ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。Nuclias に登録後は、パスワードが変更されます。

変更済みのパスワードは、Nuclias の画面で確認できます。

- (1) モニタ > アクセスポイント > デバイス 画面でデバイス名をクリックします。
- (2) 「基本」タブの「ローカル資格情報」を確認します。

ステータス (クラウド AP の手動設定)

ログインすると、下記の通りデバイスのステータス画面が表示されます。

ステータス画面では「ネットワーク状態」「クラウド接続状況」「機器についての情報」など DBA-2520P についての様々な情報を参照できます。

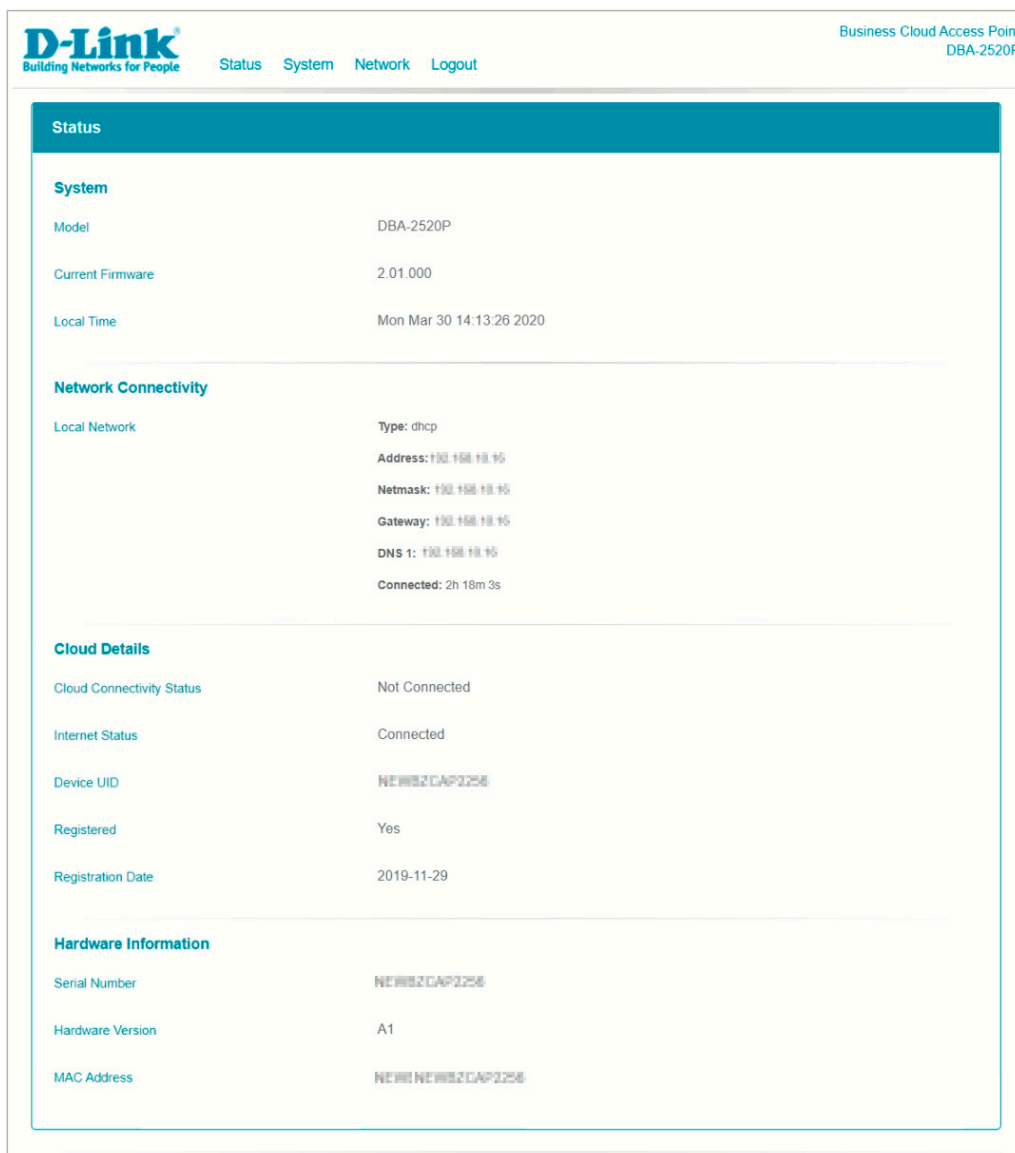


図 4-43 DBA-2520P ステータス

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
モデル	デバイスのモデル名 (型番) を表示します。
現在のファームウェア	現在のファームウェアバージョンを表示します。
現地時刻	現地の時刻を表示します。
ローカルネットワーク	ネットワーク設定を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> タイプ: DHCP、スタティック IP アドレスかを表示します。 アドレス: IP アドレス (IPv4) を表示します。 ネットマスク: サブネットマスクを表示します。 ゲートウェイ: ゲートウェイの IP アドレスを表示します。 DNS1: DNS サーバの IP アドレスを表示します。 接続時間: ローカルネットワーク接続後どのぐらい時間が経過したかを表示します。
クラウド接続ステータス	クラウドサーバ (Nuclias サーバ) に接続されているかを表示します。
インターネットステータス	デバイスがインターネット環境に接続されているかを表示します。
デバイス UID	本体のデバイス UID を表示します。
登録状況	UID が Nuclias に登録されている場合は「Yes」を表示します。Nuclias へ登録されていない場合は「No」です。
登録日	Nuclias に UID が登録され、デバイスがオンラインになった日を表示します。
シリアル番号	製品のシリアル番号を表示します。
ハードウェアバージョン	製品のハードウェアバージョンを表示します。
MAC アドレス	製品の LAN ポートの MAC アドレスを表示します。

システム > システム

システムでは、ホストネームの確認や NTP サーバの設定を行う事ができます。

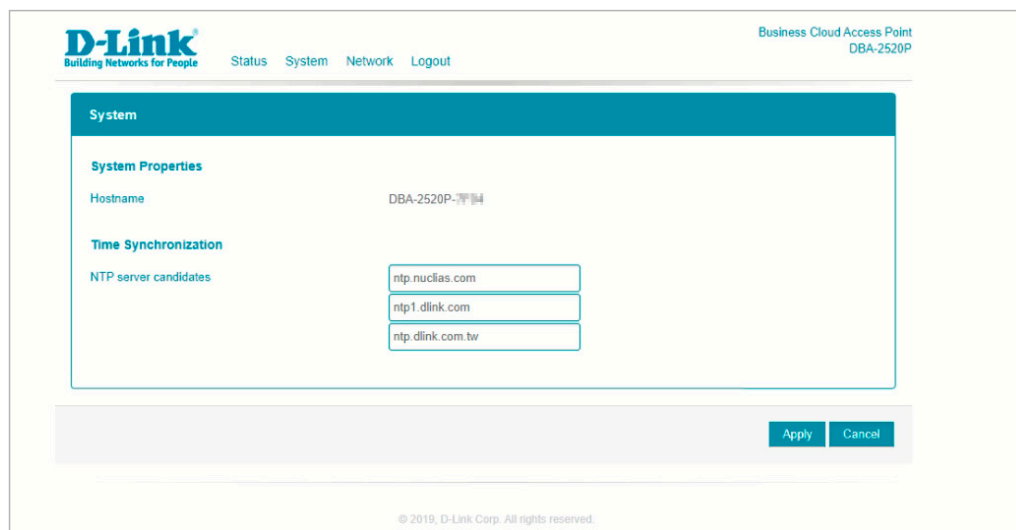


図 4-44 DBA-2520P システム

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
ホスト名	本体のホスト名が記載されています。 命名規則は「DBA-2520P- (MAC アドレス下 4 桁)」です。
NTP サーバ	NTP サーバの情報を入力します。本製品には、初期状態で 3 つの NTP サーバが登録されています。 注意 NTP サーバで正常に時刻同期ができていない場合、Nuclias 上でデバイスに関するログが正常に収集されない場合があります。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

システム > リセットとファームウェアアップグレード

本画面では、初期設定へのリセットとファームウェアアップグレードを行うことができます。

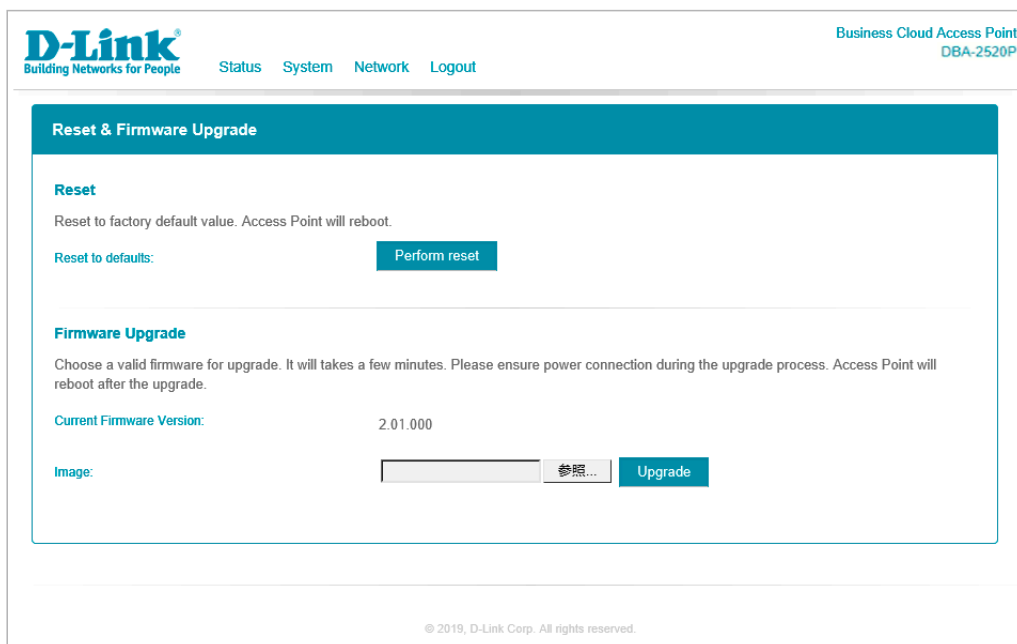


図 4-45 DBA-2520P リセットとファームウェアアップグレード

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
初期設定へのリセット	「リセットを実行する」をクリックし、本製品の設定を初期状態にリセットします。
現在のファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンが表示されます。
イメージ	アップグレードするファームウェアを選択し、「Upgrade」をクリックします。

ネットワーク > 基本設定

ネットワークの設定を行います。

初期設定は「DHCP クライアント」です。スタティック IP を設定する場合は「接続タイプ」を「スタティック IP」に変更します。

図 4-46 DBA-2520P ネットワーク - 基本設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
接続タイプ	DHCP クライアント、またはスタティック IP から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「DHCP client」：アクセスポイントは自動的に DHCP サーバから IP アドレス、サブネットマスク、DNS そしてゲートウェイを取得します。 「Static IP」：IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの情報を手動で設定する必要があります。
DHCP が提供する DNS を使用	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 DHCP サーバが提供する DNS を使用する場合はチェックを入れます。DNS サーバの IP アドレスを指定する場合はチェックを外します。
カスタム DNS サーバ	DNS サーバの IP アドレスを入力します。接続タイプで「DHCP client」を選択した場合は、「DHCP が提供する DNS を使用」のチェックを外すと本項目が表示されます。
DHCP リクエスト時のホストネーム	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 ダイナミック DNS サーバを使用する際の、DHCP リクエスト時のホストネームを表示します。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

第4章 Nuclias APの手動設定

ネットワーク > 高度な設定

IPv6、プロキシ、VLAN の設定を行います。

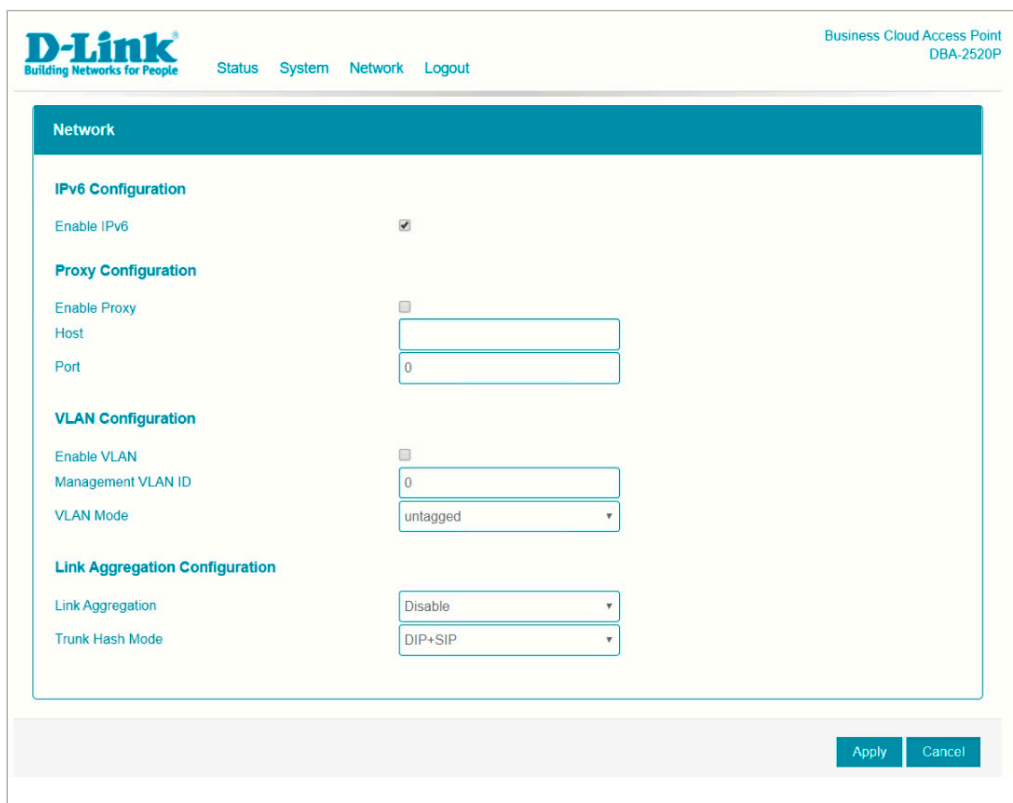


図 4-47 DBA-2520P ネットワーク - 高度な設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
IPv6 を有効にする	IPv6 経由で DBA-2520P の設定を行う機能を有効にします。
プロキシを有効にする	DBA-2520P をプロキシ経由で Nuclias サーバに接続する機能を有効にします。
ホスト	プロキシサーバのホストを入力します。
ポート	プロキシサーバのポート番号を入力します。
VLAN を有効にする	VLAN 機能を有効にします。
マネジメント VLAN ID	マネジメント VLAN の ID を入力します。
VLAN モード	VLAN モードをタグ有 / タグ無から選択します。
リンクアグリゲーション	リンクアグリゲーションの設定を LACP、スタティック、無効から選択します。
トランクハッシュモード	トランクハッシュモードを選択して変更しても動作しません。変更せずにお使いください。

注意 トランクハッシュモードは UI に項目がありますが、変更はサポートされていません。選択せず、そのままお使いください。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

ログアウト

Web GUI 上部の「Logout」をクリックすると Web GUI からログアウトし、ログイン画面が表示されます。



図 4-48 DBA-2520P ログアウト

DBA-2620P の Web GUI 設定

Web GUI 設定画面へのログイン

ここでの DBA-2620P の設定は AP に直接アクセスした PC から行います。ここでは、Windows OS で動作する画面で説明します。手順と画面は、他の Windows OS についても同じです。

1. Web ブラウザを開きます。
2. Web ブラウザのアドレス欄に DBA-2620P のホスト名を入力し、「Enter」キーを押下します。「DBA-2620P のホスト名」は "DBA-2620P-YYYY" です。「YYYY」には機器背面に貼付されている MAC アドレスの下 4 ケタの英数字を入力します。
(例) : http://DBA-2620P-YYYY

既に DBA-2620P の IP アドレスが判明している場合は、IP アドレスを直接 URL 欄に入力します。

3. 接続に成功すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

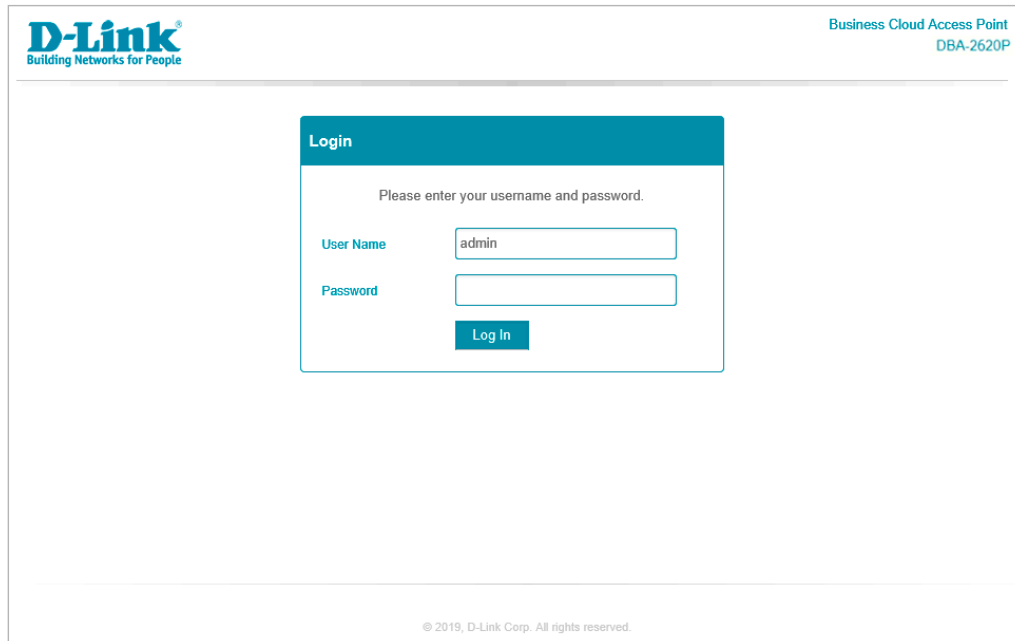


図 4-49 DBA-2620P ログイン

4. 「User Name」と「Password」にユーザ名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。

ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。Nuclias に登録後は、パスワードが変更されます。

変更済みのパスワードは、Nuclias の画面で確認できます。

- (1) モニタ > アクセスポイント > デバイス 画面でデバイス名をクリックします。
- (2) 「基本」タブの「ローカル資格情報」を確認します。

ステータス (クラウド AP の手動設定)

ログインすると、下記の通りデバイスのステータス画面が表示されます。

ステータス画面では「ネットワーク状態」「クラウド接続状況」「機器についての情報」など DBA-2620P についての様々な情報を参照できます。

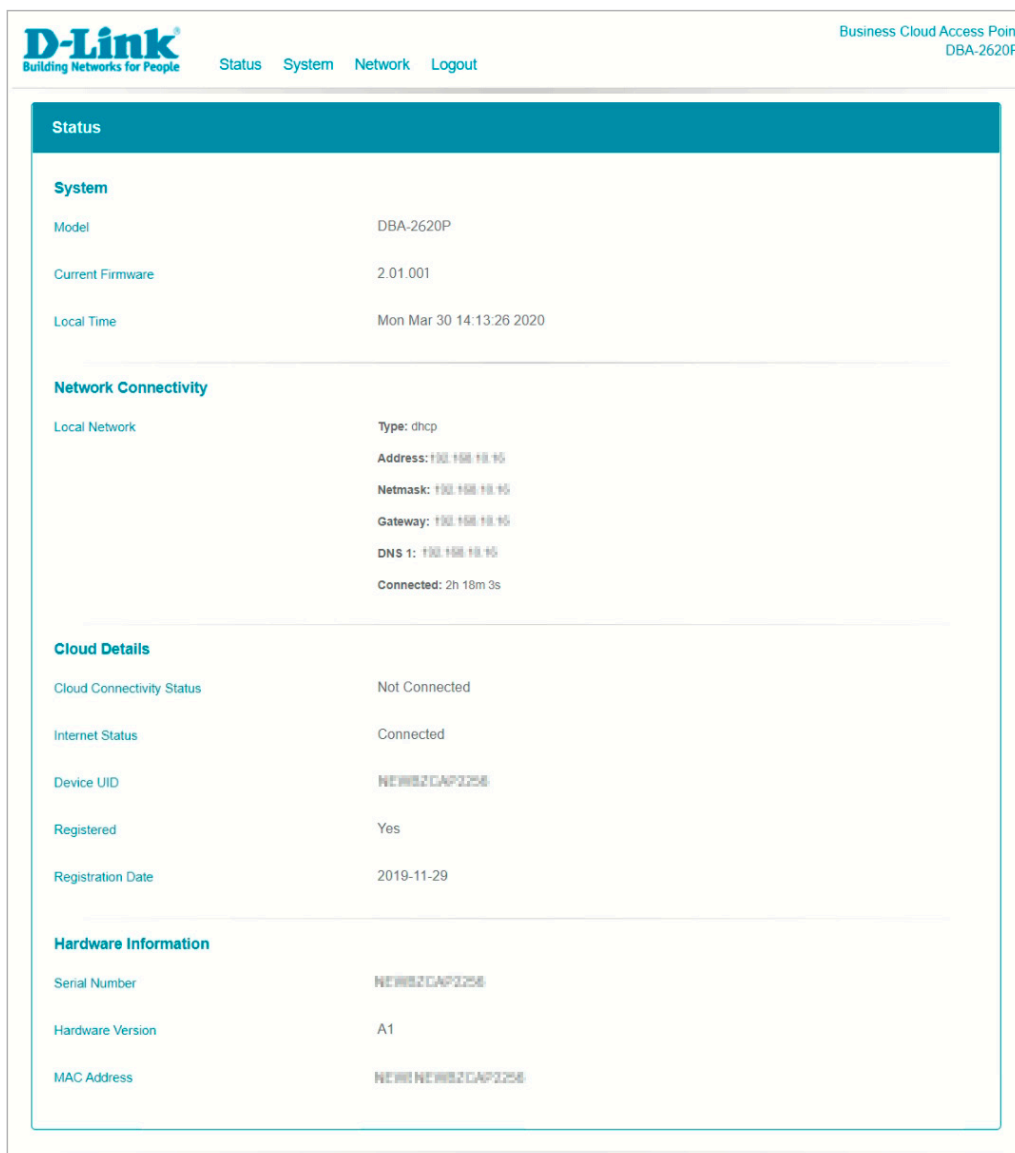


図 4-50 DBA-2620P ステータス

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
モデル	デバイスのモデル名 (型番) を表示します。
現在のファームウェア	現在のファームウェアバージョンを表示します。
現地時刻	現地の時刻を表示します。
ローカルネットワーク	ネットワーク設定を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> タイプ: DHCP、スタティック IP アドレスかを表示します。 アドレス: IP アドレス (IPv4) を表示します。 ネットマスク: サブネットマスクを表示します。 ゲートウェイ: ゲートウェイの IP アドレスを表示します。 DNS1: DNS サーバの IP アドレスを表示します。 接続時間: ローカルネットワーク接続後どのぐらい時間が経過したかを表示します。
クラウド接続ステータス	クラウドサーバ (Nuclias サーバ) に接続されているかを表示します。
インターネットステータス	デバイスがインターネット環境に接続されているかを表示します。
デバイス UID	本体のデバイス UID を表示します。
登録状況	UID が Nuclias に登録されている場合は「Yes」を表示します。Nuclias へ登録されていない場合は「No」です。
登録日	Nuclias に UID が登録され、デバイスがオンラインになった日を表示します。
シリアル番号	製品のシリアル番号を表示します。
ハードウェアバージョン	製品のハードウェアバージョンを表示します。
MAC アドレス	製品の LAN ポートの MAC アドレスを表示します。

システム > システム

システムでは、ホストネームの確認や NTP サーバの設定を行う事ができます。

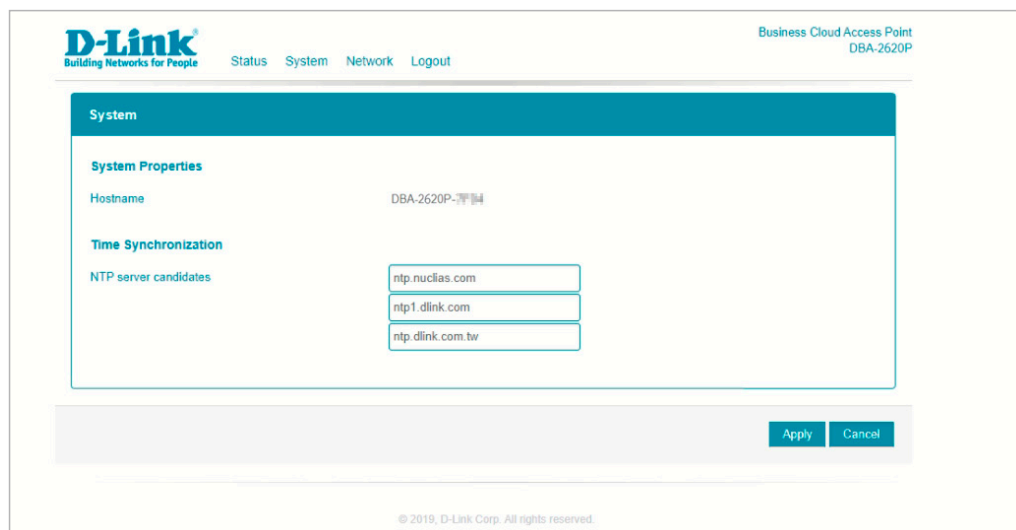


図 4-51 DBA-2620P システム

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
ホスト名	本体のホスト名が記載されています。 命名規則は「DBA-2620P- (MAC アドレス下 4 桁)」です。
NTP サーバ	NTP サーバの情報を入力します。本製品には、初期状態で 3 つの NTP サーバが登録されています。 注意 NTP サーバで正常に時刻同期ができていない場合、Nuclias 上でデバイスに関するログが正常に収集されない場合があります。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

システム > リセットとファームウェアアップグレード

本画面では、初期設定へのリセットとファームウェアアップグレードを行うことができます。

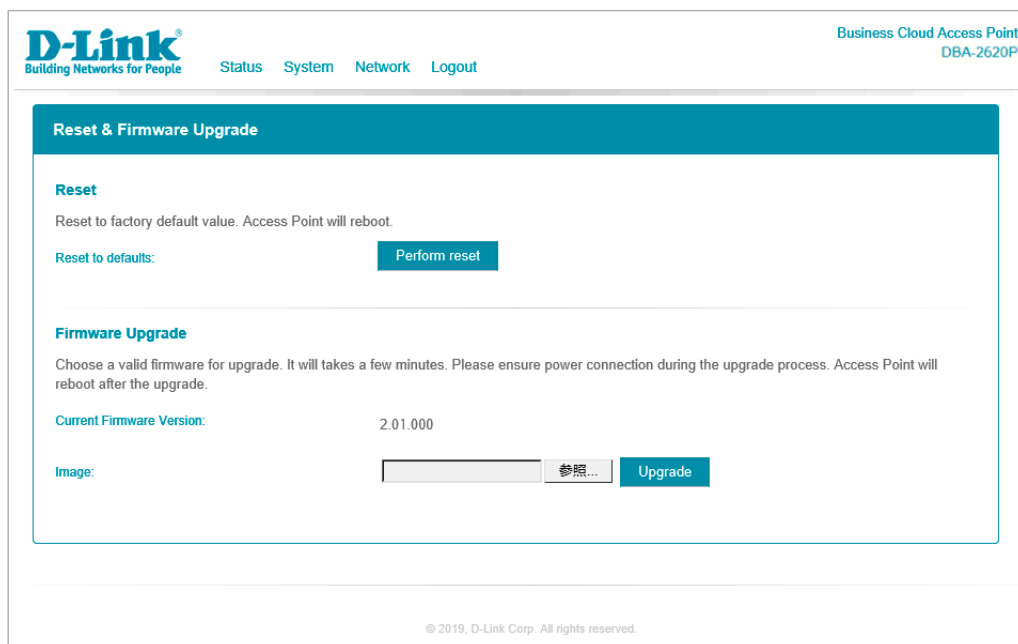


図 4-52 DBA-2620P リセットとファームウェアアップグレード

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
初期設定へのリセット	「リセットを実行する」をクリックし、本製品の設定を初期状態にリセットします。
現在のファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンが表示されます。
イメージ	アップグレードするファームウェアを選択し、「Upgrade」をクリックします。

ネットワーク > 基本設定

ネットワークの設定を行います。

初期設定は「DHCP クライアント」です。スタティック IP を設定する場合は「接続タイプ」を「スタティック IP」に変更します。

図 4-53 DBA-2620P ネットワーク - 基本設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
接続タイプ	DHCP クライアント、またはスタティック IP から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「DHCP client」：アクセスポイントは自動的に DHCP サーバから IP アドレス、サブネットマスク、DNS そしてゲートウェイを取得します。 「Static IP」：IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの情報を手動で設定する必要があります。
DHCP が提供する DNS を使用	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 DHCP サーバが提供する DNS を使用する場合はチェックを入れます。DNS サーバの IP アドレスを指定する場合はチェックを外します。
カスタム DNS サーバ	DNS サーバの IP アドレスを入力します。接続タイプで「DHCP client」を選択した場合は、「DHCP が提供する DNS を使用」のチェックを外すと本項目が表示されます。
DHCP リクエスト時のホストネーム	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 ダイナミック DNS サーバを使用する際の、DHCP リクエスト時のホストネームを表示します。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

第4章 Nuclias APの手動設定

ネットワーク > 高度な設定

IPv6、プロキシ、VLAN の設定を行います。

The screenshot shows the 'Network' configuration page for a D-Link Business Cloud Access Point (DBA-2620P). The page is divided into several sections:

- IPv6 Configuration:** 'Enable IPv6' is checked.
- Proxy Configuration:** 'Enable Proxy' is unchecked. 'Host' and 'Port' are input fields.
- VLAN Configuration:** 'Enable VLAN' is unchecked. 'Management VLAN ID' is set to 0. 'VLAN Mode' is set to 'untagged'.
- Link Aggregation Configuration:** 'Link Aggregation' is set to 'Disable'. 'Trunk Hash Mode' is set to 'DIP+SIP'.

At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons.

図 4-54 DBA-2620P ネットワーク - 高度な設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
IPv6 を有効にする	IPv6 経由で DBA-2620P の設定を行う機能を有効にします。
プロキシを有効にする	DBA-2620P をプロキシ経由で Nuclias サーバに接続する機能を有効にします。
ホスト	プロキシサーバのホストを入力します。
ポート	プロキシサーバのポート番号を入力します。
VLAN を有効にする	VLAN 機能を有効にします。
マネジメント VLAN ID	マネジメント VLAN の ID を入力します。
VLAN モード	VLAN モードをタグ有 / タグ無から選択します。
リンクアグリゲーション	リンクアグリゲーションの設定を LACP、スタティック、無効から選択します。
トランクハッシュモード	トランクハッシュモードを選択して変更しても動作しません。変更せずにお使いください。

注意 トランクハッシュモードは UI に項目がありますが、変更はサポートされていません。選択せず、そのままお使いください。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

ログアウト

Web GUI 上部の「Logout」をクリックすると Web GUI からログアウトし、ログイン画面が表示されます。

The screenshot shows the top navigation bar of the D-Link Web GUI. The 'Logout' link is highlighted in the navigation menu. The page title is 'Business Cloud Access Point DBA-2620P'.

図 4-55 DBA-2620P ログアウト

DBA-2720P の Web GUI 設定

Web GUI 設定画面へのログイン

ここでの DBA-2720P の設定は AP に直接アクセスした PC から行います。ここでは、Windows OS で動作する画面で説明します。手順と画面は、他の Windows OS についても同じです。

1. Web ブラウザを開きます。
2. Web ブラウザのアドレス欄に DBA-2720P のホスト名を入力し、「Enter」キーを押下します。
「DBA-2620P のホスト名」は「DBA-2720P-YYYY」です。「YYYY」には機器背面に貼付されている MAC アドレスの下 4 ケタの英数字を入力します。
(例) : http://DBA-2720P-YYYY

既に DBA-2720P の IP アドレスが判明している場合は、IP アドレスを直接 URL 欄に入力します。

3. 接続に成功すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

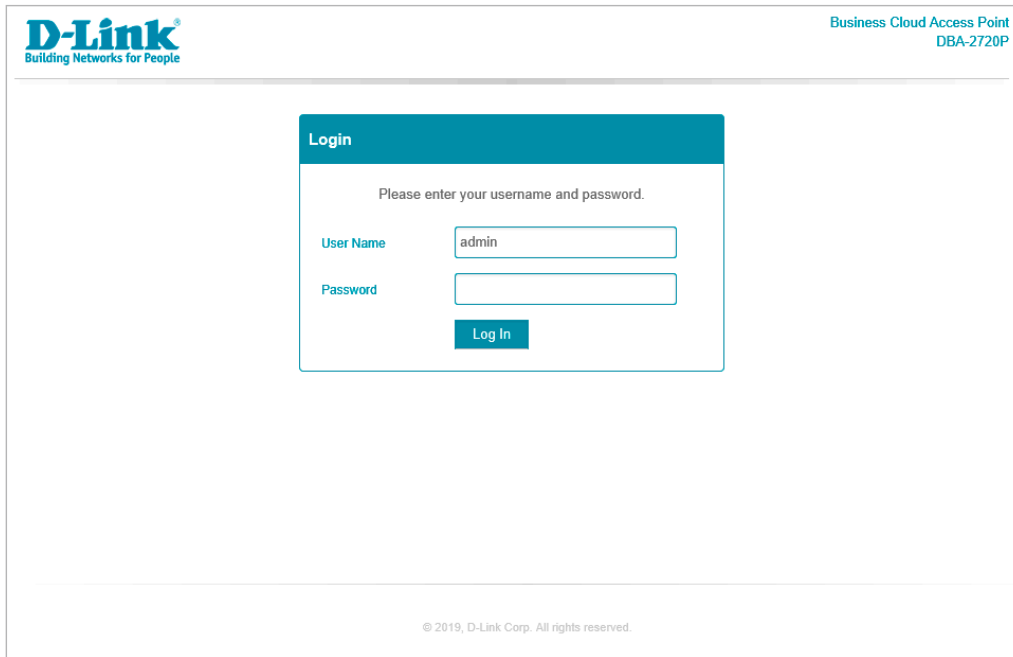


図 4-56 DBA-2720P ログイン

4. 「User Name」と「Password」にユーザ名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。

ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。Nuclias に登録後は、パスワードが変更されます。

変更済みのパスワードは、Nuclias の画面で確認できます。

- (1) モニタ > アクセスポイント > デバイス 画面でデバイス名をクリックします。
- (2) 「基本」タブの「ローカル資格情報」を確認します。

ステータス (クラウド AP の手動設定)

ログインすると、下記の通りデバイスのステータス画面が表示されます。

ステータス画面では「ネットワーク状態」「クラウド接続状況」「機器についての情報」など DBA-2720P についての様々な情報を参照できます。

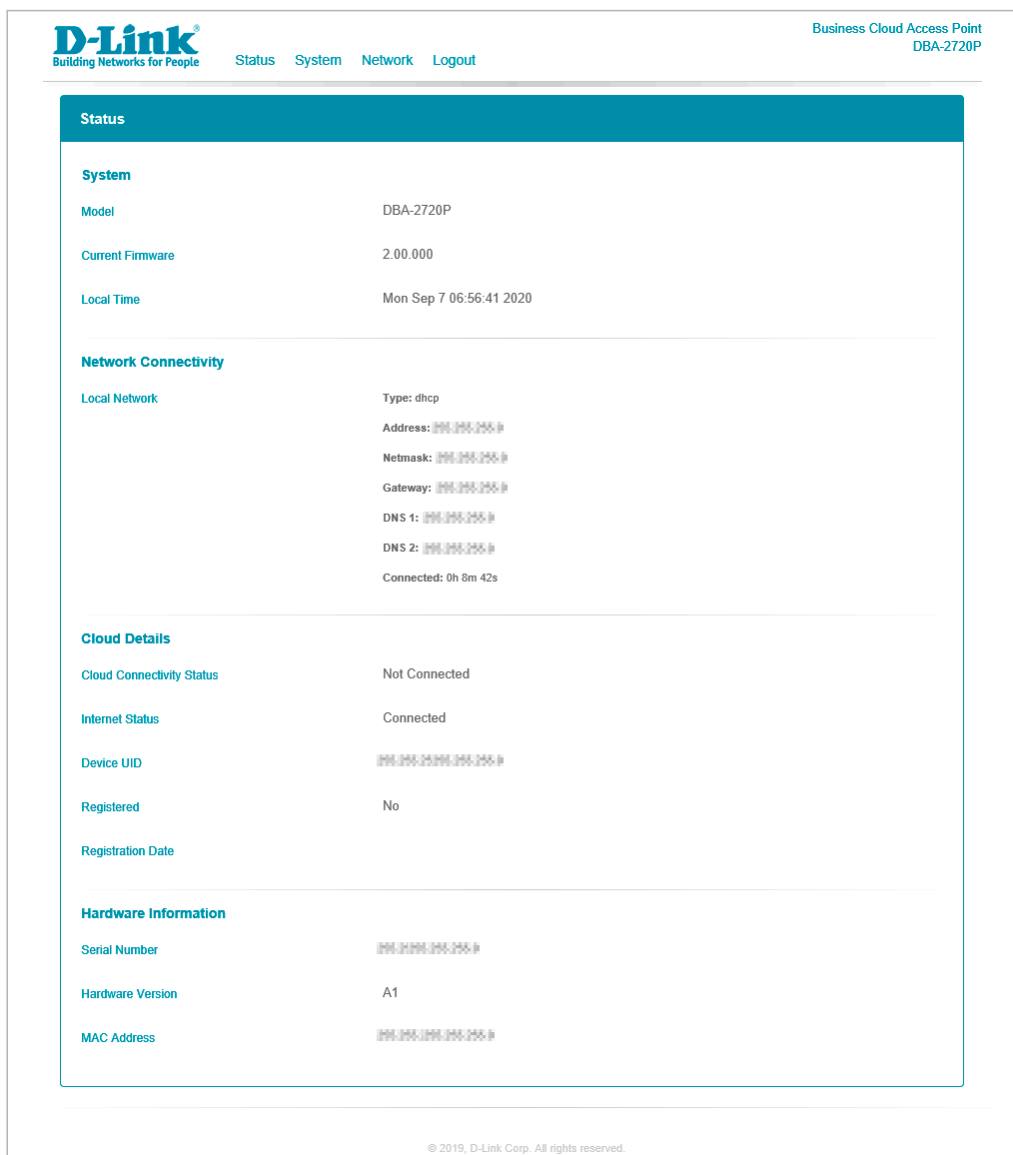


図 4-57 DBA-2720P ステータス

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
モデル	デバイスのモデル名 (型番) を表示します。
現在のファームウェア	現在のファームウェアバージョンを表示します。
現地時刻	現地の時刻を表示します。
ローカルネットワーク	ネットワーク設定を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> タイプ: DHCP、スタティック IP アドレスかを表示します。 アドレス: IP アドレス (IPv4) を表示します。 ネットマスク: サブネットマスクを表示します。 ゲートウェイ: ゲートウェイの IP アドレスを表示します。 DNS1 DNS2: DNS サーバの IP アドレスを表示します。 接続時間: ローカルネットワーク接続後どのぐらい時間が経過したかを表示します。
クラウド接続ステータス	クラウドサーバ (Nuclias サーバ) に接続されているかを表示します。
インターネットステータス	デバイスがインターネット環境に接続されているかを表示します。
デバイス UID	本体のデバイス UID を表示します。
登録状況	UID が Nuclias に登録されている場合は「Yes」を表示します。Nuclias へ登録されていない場合は「No」です。
登録日	Nuclias に UID が登録され、デバイスがオンラインになった日を表示します。
シリアル番号	製品のシリアル番号を表示します。
ハードウェアバージョン	製品のハードウェアバージョンを表示します。
MAC アドレス	製品の LAN ポートの MAC アドレスを表示します。

システム > システム

システムでは、ホストネームの確認や NTP サーバの設定を行う事ができます。

The screenshot shows the D-Link web interface for a DBA-2720P device. The page title is 'System' and the breadcrumb is 'System > システム'. The 'System Properties' section displays the 'Hostname' as 'DBA-2720P-5654'. Under 'Time Synchronization', the 'NTP server candidates' are listed as 'ntp.nuclias.com', 'ntp1.dlink.com', and 'ntp.dlink.com.tw'. At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons. The footer contains the copyright notice '© 2019, D-Link Corp. All rights reserved.'

図 4-58 DBA-2720P システム

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
ホスト名	本体のホスト名が記載されています。 命名規則は「DBA-2720P- (MAC アドレス下 4 桁)」です。
NTP サーバ	NTP サーバの情報を入力します。本製品には、初期状態で 3 つの NTP サーバが登録されています。 注意 NTP サーバで正常に時刻同期ができていない場合、Nuclias 上でデバイスに関するログが正常に収集されない場合があります。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

システム > リセットとファームウェアアップグレード

本画面では、初期設定へのリセットとファームウェアアップグレードを行うことができます。

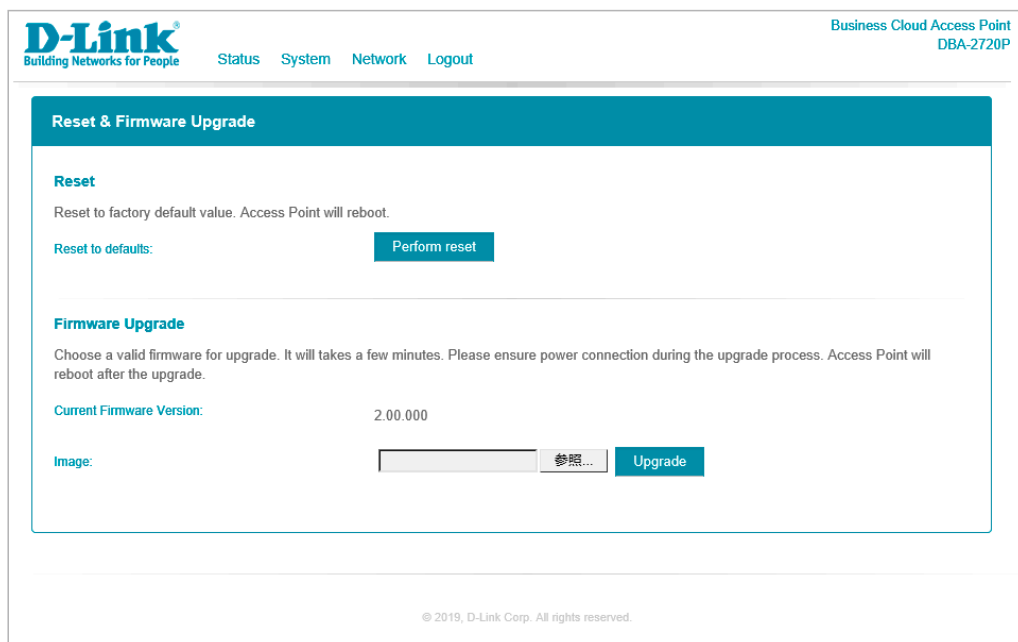


図 4-59 DBA-2720P リセットとファームウェアアップグレード

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
初期設定へのリセット	「リセットを実行する」をクリックし、本製品の設定を初期状態にリセットします。
現在のファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンが表示されます。
イメージ	アップグレードするファームウェアを選択し、「Upgrade」をクリックします。

ネットワーク > 基本設定

ネットワークの設定を行います。

初期設定は「DHCP クライアント」です。スタティック IP を設定する場合は「接続タイプ」を「スタティック IP」に変更します。

The screenshot shows the D-Link web interface for the DBA-2720P. The 'Network' section is selected, and the 'Common Configuration' tab is active. The 'Connection Type' is set to 'Static IP'. The 'IPv4 address' is 192.168.1.100, 'IPv4 netmask' is 255.255.255.0, and 'IPv4 gateway' is 192.168.1.1. There are three empty input fields for 'Custom DNS servers'. 'Apply' and 'Cancel' buttons are at the bottom right.

図 4-60 DBA-2720P ネットワーク - 基本設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
接続タイプ	DHCP クライアント、またはスタティック IP から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「DHCP client」：アクセスポイントは自動的に DHCP サーバから IP アドレス、サブネットマスク、DNS そしてゲートウェイを取得します。 「Static IP」：IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの情報を手動で設定する必要があります。
DHCP が提供する DNS を使用	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 DHCP サーバが提供する DNS を使用する場合はチェックを入れます。DNS サーバの IP アドレスを指定する場合はチェックを外します。
カスタム DNS サーバ	DNS サーバの IP アドレスを入力します。接続タイプで「DHCP client」を選択した場合は、「DHCP が提供する DNS を使用」のチェックを外すと本項目が表示されます。
DHCP リクエスト時のホストネーム	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 ダイナミック DNS サーバを使用する際の、DHCP リクエスト時のホストネームを表示します。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

ネットワーク > 高度な設定

IPv6、プロキシ、VLAN の設定を行います。

The screenshot shows the 'Network' configuration page for a D-Link Business Cloud Access Point DBA-2720P. The page is divided into several sections:

- IPv6 Configuration:** 'Enable IPv6' is checked.
- Proxy Configuration:** 'Enable Proxy' is unchecked. 'Host' and 'Port' (80) are input fields.
- VLAN Configuration:** 'Enable VLAN' is unchecked. 'Management VLAN ID' is set to 1. 'VLAN Mode' is set to 'untagged'.
- Link Aggregation Configuration:** 'Link Aggregation' is set to 'Disable'. 'Trunk Hash Mode' is set to 'DIP+SIP'.

Buttons for 'Apply' and 'Cancel' are located at the bottom right of the configuration area.

図 4-61 DBA-2720P ネットワーク - 高度な設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
IPv6 を有効にする	IPv6 経由で DBA-2720P の設定を行う機能を有効にします。
プロキシを有効にする	DBA-2720P をプロキシ経由で Nuclias サーバに接続する機能を有効にします。
ホスト	プロキシサーバのホストを入力します。
ポート	プロキシサーバのポート番号を入力します。
VLAN を有効にする	VLAN 機能を有効にします。
マネジメント VLAN ID	マネジメント VLAN の ID を入力します。
VLAN モード	VLAN モードをタグ有 / タグ無から選択します。
リンクアグリゲーション	リンクアグリゲーションの設定を LACP、スタティック、無効から選択します。
トランクハッシュモード	トランクハッシュモードを選択して変更しても動作しません。変更せずにお使いください。

注意 トランクハッシュモードは UI に項目がありますが、変更はサポートされていません。選択せず、そのままお使いください。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

ログアウト

Web GUI 上部の「Logout」をクリックすると Web GUI からログアウトし、ログイン画面が表示されます。

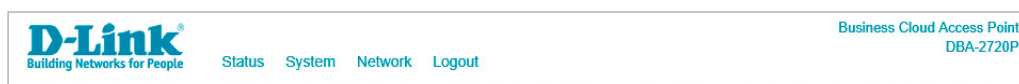


図 4-62 DBA-2720P ログアウト

DBA-2820P の Web GUI 設定

Web GUI 設定画面へのログイン

ここでの DBA-2820P の設定は AP に直接アクセスした PC から行います。ここでは、Windows OS で動作する画面で説明します。手順と画面は、他の Windows OS についても同じです。

1. Web ブラウザを開きます。
2. Web ブラウザのアドレス欄に DBA-2820P のホスト名を入力し、「Enter」キーを押下します。
「DBA-2820P のホスト名」は "DBA-2820P-YYYY" です。「YYYY」には機器背面に貼付されている MAC アドレスの下 4 ケタの英数字を入力します。
(例) : http://DBA-2820P-YYYY

既に DBA-2820P の IP アドレスが判明している場合は、IP アドレスを直接 URL 欄に入力します。

3. 接続に成功すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

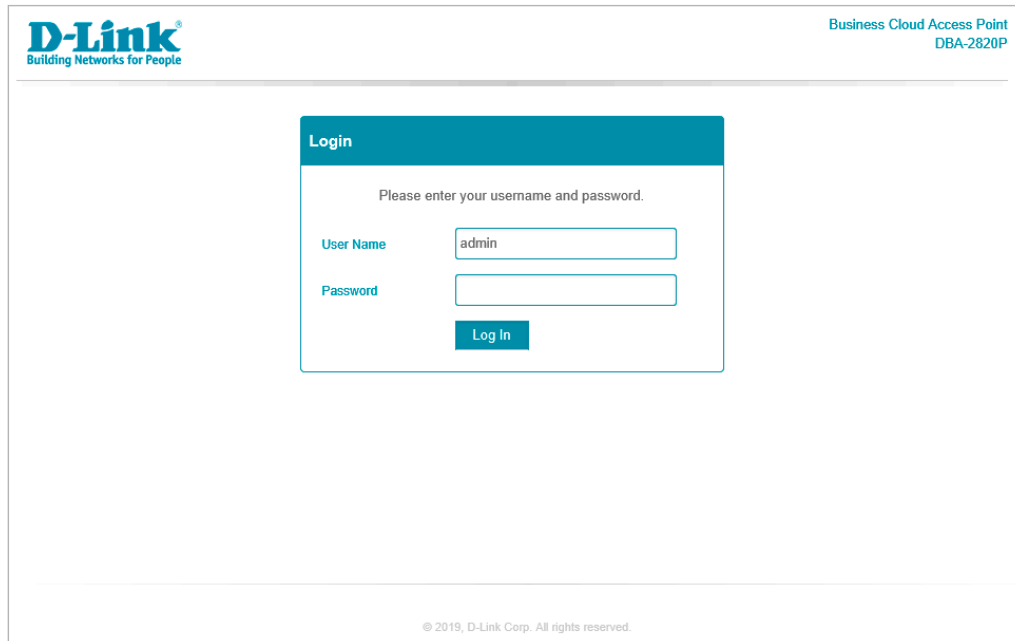


図 4-63 DBA-2820P ログイン

4. 「User Name」と「Password」にユーザ名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。

ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。Nuclias に登録後は、パスワードが変更されます。

変更済みのパスワードは、Nuclias の画面で確認できます。

- (1) モニタ > アクセスポイント > デバイス 画面でデバイス名をクリックします。
- (2) 「基本」タブの「ローカル資格情報」を確認します。

ステータス (クラウド AP の手動設定)

ログインすると、下記の通りデバイスのステータス画面が表示されます。

ステータス画面では「ネットワーク状態」「クラウド接続状況」「機器についての情報」など DBA-2820P についての様々な情報を参照できます。

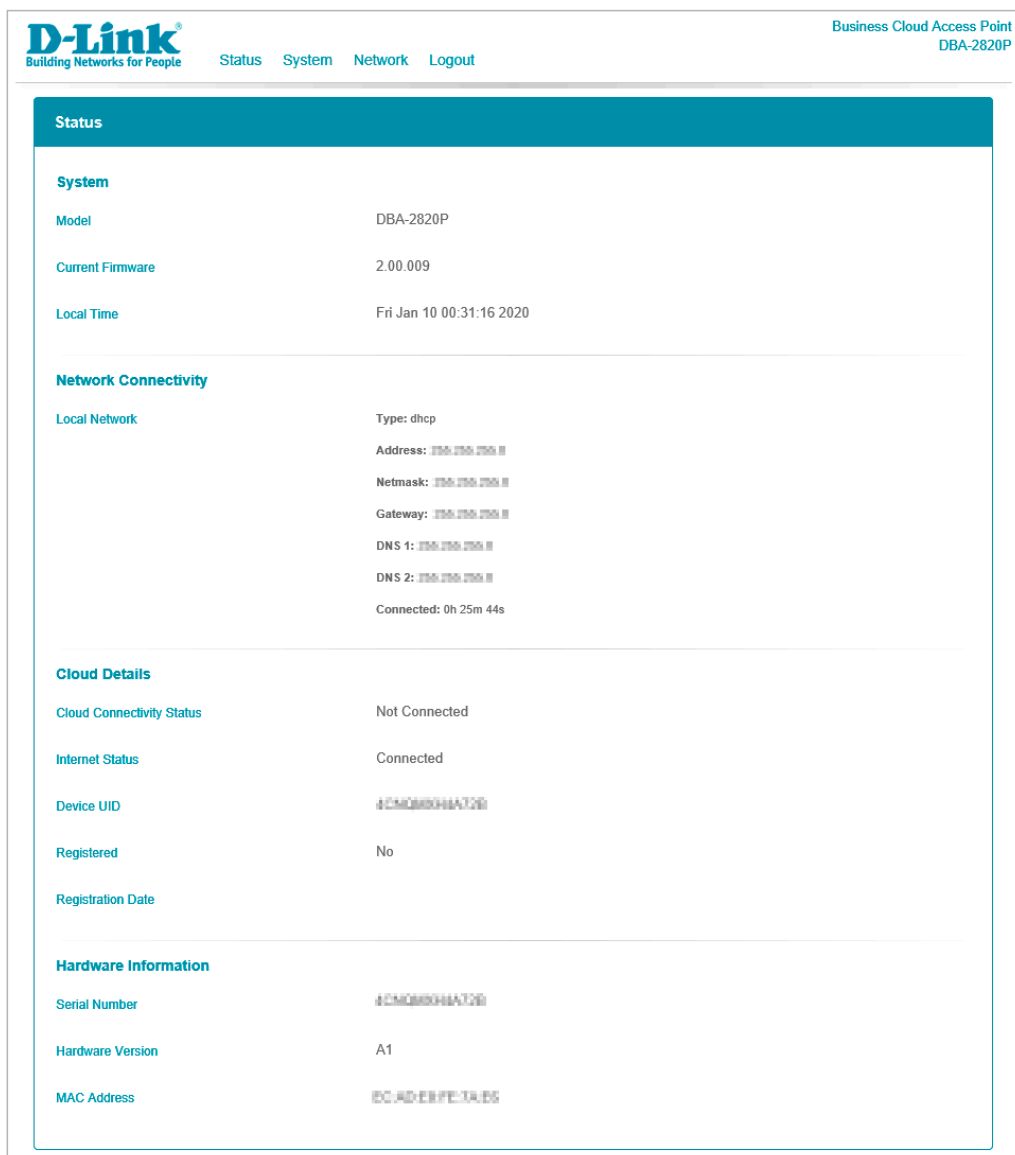


図 4-64 DBA-2820P ステータス

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
モデル	デバイスのモデル名 (型番) を表示します。
現在のファームウェア	現在のファームウェアバージョンを表示します。
現地時刻	現地の時刻を表示します。
ローカルネットワーク	ネットワーク設定を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> タイプ: DHCP、スタティック IP アドレスかを表示します。 アドレス: IP アドレス (IPv4) を表示します。 ネットマスク: サブネットマスクを表示します。 ゲートウェイ: ゲートウェイの IP アドレスを表示します。 DNS1 DNS2: DNS サーバの IP アドレスを表示します。 接続時間: ローカルネットワーク接続後どのぐらい時間が経過したかを表示します。
クラウド接続ステータス	クラウドサーバ (Nuclias サーバ) に接続されているかを表示します。
インターネットステータス	デバイスがインターネット環境に接続されているかを表示します。
デバイス UID	本体のデバイス UID を表示します。
登録状況	UID が Nuclias に登録されている場合は「Yes」を表示します。Nuclias へ登録されていない場合は「No」です。
登録日	Nuclias に UID が登録され、デバイスがオンラインになった日を表示します。
シリアル番号	製品のシリアル番号を表示します。
ハードウェアバージョン	製品のハードウェアバージョンを表示します。
MAC アドレス	製品の LAN ポートの MAC アドレスを表示します。

システム > システム

システムでは、ホストネームの確認や NTP サーバの設定を行う事ができます。

The screenshot shows the 'System' configuration page for a D-Link Business Cloud Access Point DBA-2820P. The page is titled 'System' and has a sub-section 'System Properties'. Under 'System Properties', the 'Hostname' is set to 'DBA-2820P-' followed by a MAC address. Under 'Time Synchronization', there are three input fields for 'NTP server candidates' containing 'ntp.nuclias.com', 'ntp1.dlink.com', and 'ntp.dlink.com.tw'. At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons. The footer contains the copyright notice '© 2019, D-Link Corp. All rights reserved.'

図 4-65 DBA-2820P システム

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
ホスト名	本体のホスト名が記載されています。 命名規則は「DBA-2820P- (MAC アドレス下 4 桁)」です。
NTP サーバ	NTP サーバの情報を入力します。本製品には、初期状態で 3 つの NTP サーバが登録されています。 注意 NTP サーバで正常に時刻同期ができていない場合、Nuclias 上でデバイスに関するログが正常に収集されない場合があります。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

システム > リセットとファームウェアアップグレード

本画面では、初期設定へのリセットとファームウェアアップグレードを行うことができます。

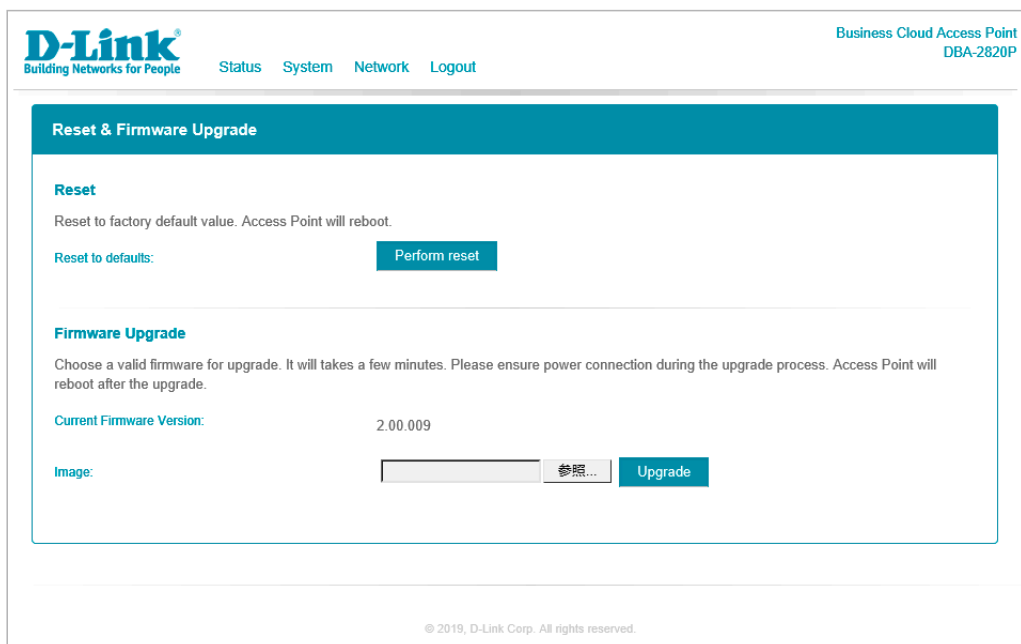


図 4-66 DBA-2820P リセットとファームウェアアップグレード

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
初期設定へのリセット	「リセットを実行する」をクリックし、本製品の設定を初期状態にリセットします。
現在のファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンが表示されます。
イメージ	アップグレードするファームウェアを選択し、「Upgrade」をクリックします。

ネットワーク > 基本設定

ネットワークの設定を行います。

初期設定は「DHCP クライアント」です。スタティック IP を設定する場合は「接続タイプ」を「スタティック IP」に変更します。

The screenshot shows the 'Network' configuration page for a D-Link Business Cloud Access Point DBA-2820P. The 'Common Configuration' section is active, showing the following settings:

- Connection Type: Static IP (selected from a dropdown menu)
- IPv4 address: 192.168.1.100
- IPv4 netmask: 255.255.255.0
- IPv4 gateway: 192.168.1.1
- Custom DNS servers: Three empty input fields.

At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons.

図 4-67 DBA-2820P ネットワーク - 基本設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
接続タイプ	DHCP クライアント、またはスタティック IP から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「DHCP client」: アクセスポイントは自動的に DHCP サーバから IP アドレス、サブネットマスク、DNS そしてゲートウェイを取得します。 「Static IP」: IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの情報を手動で設定する必要があります。
DHCP が提供する DNS を使用	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 DHCP サーバが提供する DNS を使用する場合はチェックを入れます。DNS サーバの IP アドレスを指定する場合はチェックを外します。
カスタム DNS サーバ	DNS サーバの IP アドレスを入力します。接続タイプで「DHCP client」を選択した場合は、「DHCP が提供する DNS を使用」のチェックを外すと本項目が表示されます。
DHCP リクエスト時のホストネーム	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 ダイナミック DNS サーバを使用する際の、DHCP リクエスト時のホストネームを表示します。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

第4章 Nuclias APの手動設定

ネットワーク > 高度な設定

IPv6、プロキシ、VLAN の設定を行います。

The screenshot shows the 'Network' configuration page for a D-Link Business Cloud Access Point (DBA-2820P). The page is divided into several sections:

- IPv6 Configuration:** 'Enable IPv6' is checked.
- Proxy Configuration:** 'Enable Proxy' is unchecked. 'Host' and 'Port' (80) are input fields.
- VLAN Configuration:** 'Enable VLAN' is unchecked. 'Management VLAN ID' is 1. 'VLAN Mode' is 'untagged'.
- Link Aggregation Configuration:** 'Link Aggregation' is 'Disable'. 'Trunk Hash Mode' is 'DIP+SIP'.

Buttons for 'Apply' and 'Cancel' are at the bottom right.

図 4-68 DBA-2820P ネットワーク - 高度な設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
IPv6 を有効にする	IPv6 経由で DBA-2820P の設定を行う機能を有効にします。
プロキシを有効にする	DBA-2820P をプロキシ経由で Nuclias サーバに接続する機能を有効にします。
ホスト	プロキシサーバのホストを入力します。
ポート	プロキシサーバのポート番号を入力します。
VLAN を有効にする	VLAN 機能を有効にします。
マネジメント VLAN ID	マネジメント VLAN の ID を入力します。
VLAN モード	VLAN モードをタグ有 / タグ無から選択します。
リンクアグリゲーション	リンクアグリゲーションの設定を LACP、スタティック、無効から選択します。
トランクハッシュモード	トランクハッシュモードを選択して変更しても動作しません。変更せずにお使いください。

注意 トランクハッシュモードは UI に項目がありますが、変更はサポートされていません。選択せず、そのままお使いください。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

ログアウト

Web GUI 上部の「Logout」をクリックすると Web GUI からログアウトし、ログイン画面が表示されます。

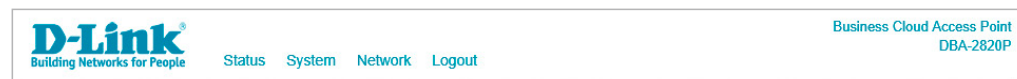


図 4-69 DBA-2820P ログアウト

DBA-3621P の Web GUI 設定

Web GUI 設定画面へのログイン

ここでの DBA-3621P の設定は AP に直接アクセスした PC から行います。ここでは、Windows OS で動作する画面で説明します。手順と画面は、他の Windows OS についても同じです。

1. Web ブラウザを開きます。
2. Web ブラウザのアドレス欄に DBA-3621P のホスト名を入力し、「Enter」キーを押下します。
「DBA-3621P のホスト名」は “DBA-3621P-YYYY” です。「YYYY」には機器背面に貼付されている MAC アドレスの下 4 ケタの英数字を入力します。
(例) : http://DBA-3621P-YYYY

既に DBA-3621P の IP アドレスが判明している場合は、IP アドレスを直接 URL 欄に入力します。

3. 接続に成功すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

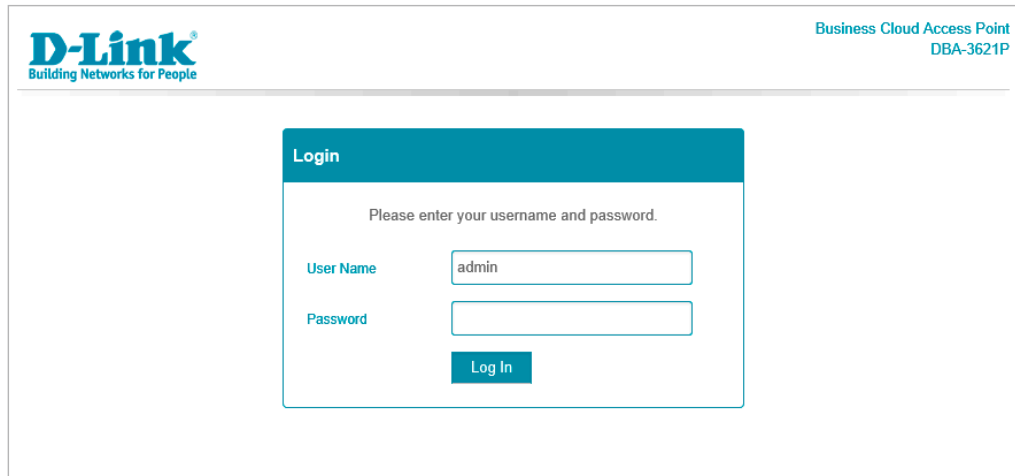


図 4-70 DBA-3621P ログイン

4. 「User Name」と「Password」にユーザ名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。

ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。Nuclias に登録後は、パスワードが変更されます。

変更済みのパスワードは、Nuclias の画面で確認できます。

- (1) モニタ > アクセスポイント > デバイス 画面でデバイス名をクリックします。
- (2) 「基本」タブの「ローカル資格情報」を確認します。

第4章 Nuclias APの手動設定

ステータス (クラウド AP の手動設定)

ログインすると、下記の通りデバイスのステータス画面が表示されます。

ステータス画面では「ネットワーク状態」「クラウド接続状況」「機器についての情報」など DBA-3621P についての様々な情報を参照できます。

The screenshot displays the 'Status' page of a D-Link DBA-3621P. The page is organized into several sections: System, Network Connectivity, Cloud Details, and Hardware Information. The System section shows the model name, current firmware version, and local time. The Network Connectivity section provides details about the local network configuration, including IP address, netmask, gateway, DNS servers, and connection time. The Cloud Details section indicates the cloud connectivity status, internet status, device UID, registration status, and registration date. The Hardware Information section lists the serial number, hardware version, and MAC address.

図 4-71 DBA-3621P ステータス

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
モデル	デバイスのモデル名 (型番) を表示します。
現在のファームウェア	現在のファームウェアバージョンを表示します。
現地時刻	現地の時刻を表示します。
ローカルネットワーク	ネットワーク設定を表示します。 <ul style="list-style-type: none">タイプ: DHCP、スタティック IP アドレスかを表示します。アドレス: IP アドレス (IPv4) を表示します。ネットマスク: サブネットマスクを表示します。ゲートウェイ: ゲートウェイの IP アドレスを表示します。DNS1 DNS2: DNS サーバの IP アドレスを表示します。接続時間: ローカルネットワーク接続後どのぐらい時間が経過したかを表示します。
クラウド接続ステータス	クラウドサーバ (Nuclias サーバ) に接続されているかを表示します。
インターネットステータス	デバイスがインターネット環境に接続されているかを表示します。
デバイス UID	本体のデバイス UID を表示します。
登録状況	UID が Nuclias に登録されている場合は「Yes」を表示します。Nuclias へ登録されていない場合は「No」です。
登録日	Nuclias に UID が登録され、デバイスがオンラインになった日を表示します。
シリアル番号	製品のシリアル番号を表示します。
ハードウェアバージョン	製品のハードウェアバージョンを表示します。
MAC アドレス	製品の LAN ポートの MAC アドレスを表示します。

システム > システム

システムでは、ホストネームの確認や NTP サーバの設定を行う事ができます。

The screenshot shows the D-Link web interface for a DBA-3621P device. The top navigation bar includes 'Status', 'System', 'Network', and 'Logout'. The main content area is titled 'System' and contains 'System Properties' and 'Time Synchronization' sections. The 'System Properties' section shows the 'Hostname' as 'DBA-3621P-XXXX'. The 'Time Synchronization' section has a sub-section 'NTP server candidates' with three input fields containing 'ntp.nuclias.com', 'ntp1.dlink.com', and 'ntp.dlink.com.tw'. At the bottom right, there are 'Apply' and 'Cancel' buttons. The footer contains the copyright notice '© 2020, D-Link Corp. All rights reserved.'

図 4-72 DBA-3621P システム

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
ホスト名	本体のホスト名が記載されています。 命名規則は「DBA-3621P- (MAC アドレス下 4 桁)」です。
NTP サーバ	NTP サーバの情報を入力します。本製品には、初期状態で 3 つの NTP サーバが登録されています。 注意 NTP サーバで正常に時刻同期ができていない場合、Nuclias 上でデバイスに関するログが正常に収集されない場合があります。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

システム > リセットとファームウェアアップグレード

本画面では、初期設定へのリセットとファームウェアアップグレードを行うことができます。

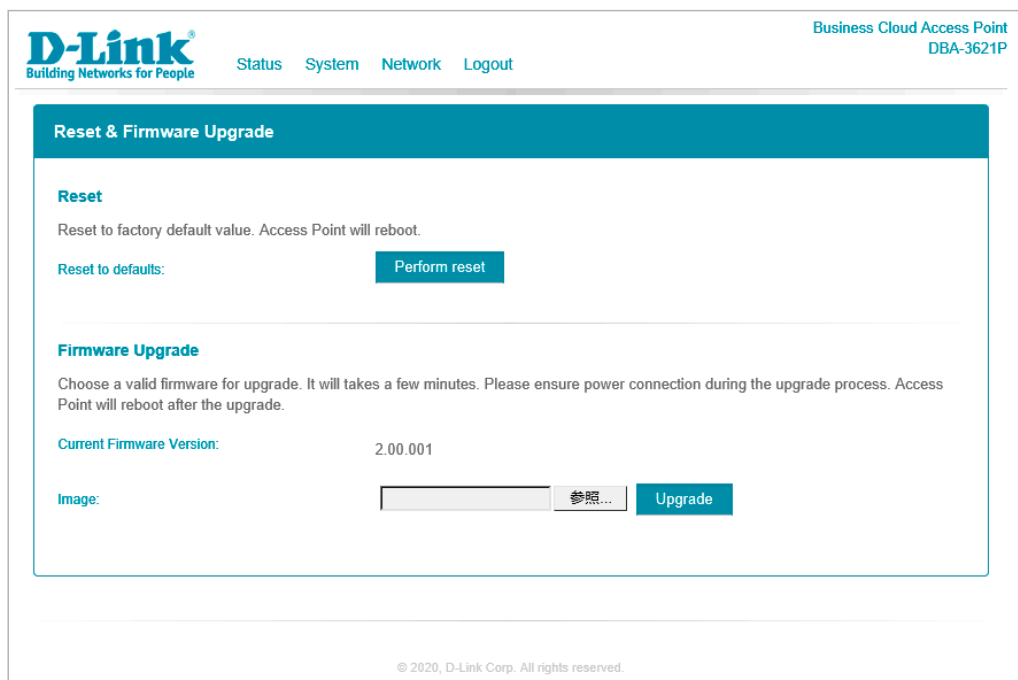


図 4-73 DBA-3621P リセットとファームウェアアップグレード

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
初期設定へのリセット	「リセットを実行する」をクリックし、本製品の設定を初期状態にリセットします。
現在のファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンが表示されます。
イメージ	アップグレードするファームウェアを選択し、「Upgrade」をクリックします。

ネットワーク > 基本設定

ネットワークの設定を行います。

初期設定は「DHCP クライアント」です。スタティック IP を設定する場合は「接続タイプ」を「スタティック IP」に変更します。

The screenshot shows the D-Link web interface for the 'Network' section. The 'Common Configuration' area includes the following fields:

- Connection Type: Static IP (dropdown menu)
- IPv4 address: 192.168.10.1
- IPv4 netmask: 255.255.255.0
- IPv4 gateway: 192.168.1.1
- Custom DNS servers: Three empty input fields

Buttons for 'Apply' and 'Cancel' are located at the bottom right of the configuration area. The footer indicates '© 2020, D-Link Corp. All rights reserved.'

図 4-74 DBA-3621P ネットワーク - 基本設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
接続タイプ	DHCP クライアント、またはスタティック IP から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「DHCP client」：アクセスポイントは自動的に DHCP サーバから IP アドレス、サブネットマスク、DNS そしてゲートウェイを取得します。 「Static IP」：IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの情報を手動で設定する必要があります。
DHCP が提供する DNS を使用	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 DHCP サーバが提供する DNS を使用する場合はチェックを入れます。DNS サーバの IP アドレスを指定する場合はチェックを外します。
カスタム DNS サーバ	DNS サーバの IP アドレスを入力します。接続タイプで「DHCP client」を選択した場合は、「DHCP が提供する DNS を使用」のチェックを外すと本項目が表示されます。
DHCP リクエスト時のホストネーム	接続タイプで「DHCP client」を選択した場合のみ表示されます。 ダイナミック DNS サーバを使用する際の、DHCP リクエスト時のホストネームを表示します。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

ネットワーク > 高度な設定

IPv6、プロキシ、VLAN の設定を行います。

図 4-75 DBA-3621P ネットワーク - 高度な設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
IPv6 を有効にする	IPv6 経由で DBA-3621P の設定を行う機能を有効にします。
プロキシを有効にする	DBA-3621P をプロキシ経由で Nuclias サーバに接続する機能を有効にします。
ホスト	プロキシサーバのホストを入力します。
ポート	プロキシサーバのポート番号を入力します。
VLAN を有効にする	VLAN 機能を有効にします。
マネジメント VLAN ID	マネジメント VLAN の ID を入力します。
VLAN モード	VLAN モードをタグ有 / タグ無から選択します。

「適用」をクリックし、設定を反映します。

ログアウト

Web GUI 上部の「Logout」をクリックすると Web GUI からログアウトし、ログイン画面が表示されます。

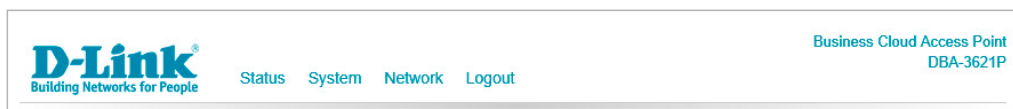


図 4-76 DBA-3621P ログアウト

第5章 Nucliasの基本設定

- 初期設定手順について
- アカウントと組織の作成
- ログイン
- Nuclias ユーザーインターフェースについて
- プロファイルの作成
- Wi-Fi ポリシーの設定
- サイトの作成
- Nuclias 対応機器の登録
- Nuclias 対応機器をオンラインにする

ネットワーク機器や Nuclias をはじめて使用する際の基本的な設置、設定方法について説明します。

まず「Nuclias」へアクセスし、アカウントと組織を作成します。

次に、Nuclias でプロファイルやサイトの設定、Wi-Fi ポリシーの設定等を行い、管理する Nuclias 対応機器を登録します。

最後に Nuclias 対応機器をインターネット並びに Nuclias へと接続し、オンライン状態にします。

初期設定手順について

以下が基本的な初期設定作業のながれです。

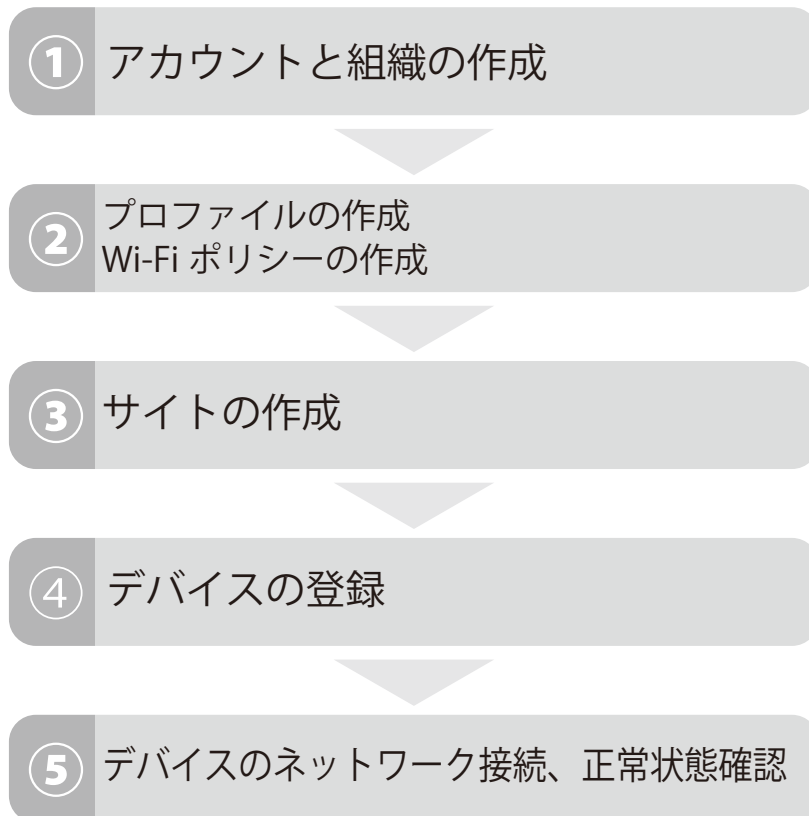


図 5-1 初期設定手順

アカウントと組織の作成

Nuclias アカウントの作成を行います。

「Nuclias」の URL : <https://jp.nuclias.com>



図 5-2 Nuclias サイト

1. Nuclias の URL をブラウザで開き、表示されるページから「アカウントの作成」をクリックします。



図 5-3 ログイン（「アカウントの作成」をクリック）

2. 地域を「Asia」、国を「Japan」に設定します。



図 5-4 国・地域設定

注意 異なる国を設定した場合、デバイスが正常に登録できなくなる可能性があります。

3. アカウントで使用する以下の情報を入力します。
- メールアドレス（ログイン時や、各通知を受け取る際に使用）
 - ユーザ名
 - ログイン用パスワード
 - 作成する組織の名称
 - 住所

注意 1つのアカウントで管理可能な組織は最大1つです。複数の組織の設定を後から統合することはできません。

注意 1つのメールアドレスにつきアカウントは1つとなります。

注意 登録したメールアドレスは変更することができません。

注意 「作成する組織の名称」について、既に他のユーザで使用されている組織名は使用できません。

The screenshot shows a registration form for Nuclias. At the top, there is a progress indicator with three circles, the second of which is filled. Below it, the text reads 'ステップ2 ユーザ、組織、サイトを作成してください。'. The form itself has the Nuclias logo at the top. It contains the following input fields: 'Eメール', 'フルネーム', 'パスワード' (with an eye icon to toggle visibility), '新しいパスワードの確認' (with an eye icon), '組織名', a dropdown menu for 'Japan', another dropdown menu for 'Asia/Tokyo(UTC+09:00, DST)', and '住所'. Below the address field is a checkbox with the text '私はこれら全てを読み、同意します。: [利用規約](#) and [プライバシー](#)'. At the bottom of the form is a button labeled 'アカウントの作成'.

図 5-5 アカウント情報設定

4. 入力後、「アカウントの作成」をクリックします。

アカウント作成後、登録したメールアドレスへ Nuclias から認証メールが送信されます。
メール内に記載されたアクティベーション用の URL をクリックし、アクティベーションを行ってください。

ログイン

Nuclias のログインについて説明します。

1. ログイン画面を表示します。「Nuclias」の URL：<https://jp.nuclias.com>



図 5-6 ログイン画面

2. アクティベーション済みユーザアカウントのメールアドレス、パスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。
3. Nuclias 管理画面が表示されます。

Nuclias ユーザインタフェースについて

Nuclias 管理画面上部のユーザインタフェースは下記の通りです。

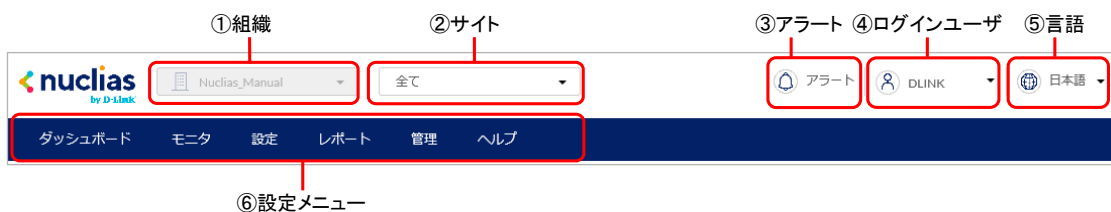


図 5-7 ユーザインタフェース

項目	説明
①組織	現在選択されている組織です。
②サイト	現在選択されているサイト、またはサイトタグです。「全て」は全てのサイトの情報を表示します。ファームウェアアップグレードなど、特定の設定項目を使用する場合はサイトを指定する必要があります。
③アラート	アイコンをクリックするとアラートの詳細を確認できます。
④ログインユーザ	現在ログインしているユーザ名が表示されます。 ユーザプロフィールの閲覧や変更、ログアウトはここをクリックして実施します。 また、アイコンをクリックすると「Nuclias Connect にログイン」の項目が表示されます。本項目を選択すると、Nuclias Connect にログインできます。
⑤言語	言語を選択します。
⑥設定メニュー	設定メニューです。各項目の詳細については本マニュアルの7章～12章を参照してください。

プロフィールの作成

プロフィールとは、SSID、チャンネル設定等、ネットワーク機器へ配信する設定をまとめたものです。

1. 設定 > アクセスポイント > プロファイルの順にクリックします。

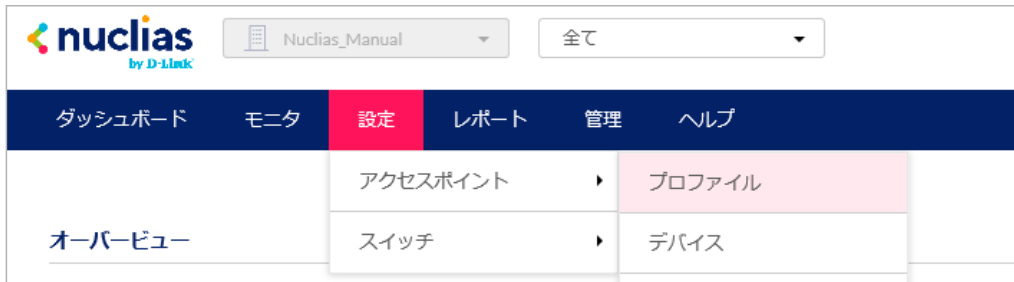


図 5-8 プロファイルメニュー

2. 「プロフィールの作成」をクリックします。



図 5-9 プロファイルの作成

3. プロファイルの作成ウィンドウが表示されるので、以下の通りに入力します。



図 5-10 プロファイル作成画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
①プロフィール名	Nuclias 上で管理するためのプロフィール名を指定します。
②モデル名	プロフィールを適用する機器名（製品名）をプルダウンから指定します。
③アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイトタグ」「サイト」から選択します。 サイトタグおよびサイトを選択した場合は、管理サイトタグまたは管理サイトを設定します。
④設定	作成するプロフィールの元データを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・「デフォルトコンフィグを使用する」：各モデルに適応した初期コンフィグがありますので、それらを指定します。管理者はデフォルトコンフィグを編集し、ユーザ環境に合わせた設定を作成できます。 ・「既存プロフィールを複製する」：同じ組織内に、既に同じモデル用のプロフィールが作成されている場合、それを複製し、編集することができます。

第5章 Nucliasの基本設定

4. 設定後、「プロファイルの作成」をクリックします。

プロファイルの一覧表に作成したプロファイルが表示されます。

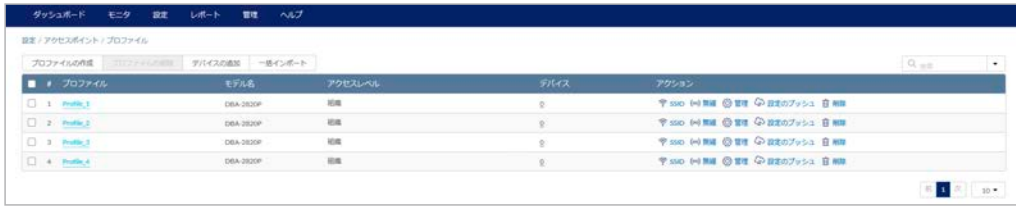


図 5-11 プロファイル一覧

Wi-Fi ポリシーの設定

設定 > アクセスポイント > プロファイル画面から Wi-Fi ポリシーの登録、または設定変更を行います。



①チェックボックス

図 5-12 プロファイル一覧

項目	説明
①チェックボックス	プロファイルを複数まとめて削除する場合等に使用します。
②プロファイル	プロファイル名が表示されています。プロファイルの名称を変更する場合は、直接ここをクリックしてください。
③モデル名	プロファイルのモデルを表示します。
④アクセスレベル	プロファイルのアクセスレベルを表示します。
⑤デバイス	プロファイルに登録されているデバイスの数を表示します。 数字をクリックすると、デバイスの一覧が表示されます。
⑥アクション	SSID の設定、無線の設定、その他設定のページに移行します。 プロファイルの削除、設定のプッシュ配信なども行うことができます。

SSID の情報をカスタマイズする場合は「SSID」をクリックします。

以下のような画面が表示されますので、設定する SSID 名をクリックします。



図 5-13 SSID 一覧

プロファイルの作成時にデフォルト設定を適用したプロファイルには、自動的に 2 つの SSID が作成されています。



図 5-14 SSID 一覧 (デフォルトプロファイル)

Wi-Fi ポリシーの設定 (SSID プロファイル編集)

SSID 名をクリックすると、下記の画面が表示されます。

The screenshot shows the 'SSID' configuration page for 'Nuclias_Office'. The 'Basic' tab is active. The 'SSID名*' field is set to 'Nuclias_Office'. Security settings include WPA/WPA2, PSK authentication, and AES encryption. The 'ブロードキャストSSID' option is checked. Frequency bands 2.4GHz and 5GHz are selected. Guest access mode, NAT mode, VLAN, and SSID partitioning are all disabled. Buttons for 'キャンセル' and '保存' are at the bottom.

図 5-15 SSID プロファイル編集

本画面には以下の項目があります。

項目	説明						
SSID 名	<p>SSID 名を指定します。無線ネットワークを識別する 1-32 文字の固有の ID です。</p> <p>注意 ASCII 印字可能文字表 (https://ja.wikipedia.org/wiki/ASCII) の『ASCII 印字可能文字』に記載されている文字が使用可能です。特殊文字については下記の制限があります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>特殊文字</th> <th>制限概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[?] ["] ['] [] [\] [] [+]</td> <td>使用できません。</td> </tr> <tr> <td>[!] [#] [;]</td> <td>使用できますが、『!abcd...』 『#abcd...』 『;abcd...』 のように、先頭で使用することはできません。</td> </tr> </tbody> </table>	特殊文字	制限概要	[?] ["] ['] [] [\] [] [+]	使用できません。	[!] [#] [;]	使用できますが、『!abcd...』 『#abcd...』 『;abcd...』 のように、先頭で使用することはできません。
特殊文字	制限概要						
[?] ["] ['] [] [\] [] [+]	使用できません。						
[!] [#] [;]	使用できますが、『!abcd...』 『#abcd...』 『;abcd...』 のように、先頭で使用することはできません。						
セキュリティ	<p>SSID のセキュリティモードを指定します。選択するセキュリティモードによって指定する項目が異なります。表示される各項目に適切な設定を行います。</p> <p>セキュリティモードの設定項目については、「セキュリティモード設定」を参照してください。</p>						
ブロードキャスト SSID	<p>当該の SSID をブロードキャストする場合、「有効」を選択します。ブロードキャストされた SSID は無線クライアントから識別できます。追加のセキュリティ対応が必要な場合、SSID のブロードキャストは無効になります。本ネットワークに接続する無線クライアントが当該の SSID に確認される必要がある場合、有効です。</p>						
バンド選択	<p>SSID のバンド (帯域) を選択します。「2.4GHz」「5GHz」から選択し、5GHz を優先させる場合は「バンドステアリング」にもチェックを入れます。</p> <p>DBA-2720P の場合は、「5GHz」のかわりに「5GHz1」「5GHz2」の 2 つの項目が表示されます。</p>						
ゲストアクセスモード	<p>VLAN などの設定を行わずにゲスト用の SSID を設定します。</p> <p>本機能を有効にすると、下記の機能が自動的に有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> プライベート IP アドレスフィルタリング - 10.0.0.0/8, 172.16.0.0/12, 192.168.0.0/16 宛ての packets を破棄します。 DHCP サーバ機能 - 10.229.x.x の IP アドレスが所属端末に割り当てられます。 DNS リレー機能 - 所属端末からの DNS パケットをリレーします。 NAT モード - 所属端末からの packets を機器の管理 IP/VLAN に変換します。 SSID 間パーティション - ゲストアクセスモードが設定されている SSID と他の SSID 間の通信を禁止します。 SSID 内パーティション - 所属端末同士の通信を遮断します。 						

第5章 Nucliasの基本設定

項目	説明
NAT モード	<p>本機能を有効にすると、下記の機能が自動的に有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバ機能 - 10.229.x.x の IP アドレスが帰属端末に割り当てられます。「DHCP プールの追加」をクリックし、DHCP プールを作成することも可能です。 • DNS リレー機能 - 帰属端末からの DNS パケットをリレーします。 <p>ゲストアクセスモードを有効にすると、NAT モードも自動的に有効となります。</p> <p>注意 DBA-2620P と DBA-2720P では、「マネジメント VLAN」が有効の場合に「NAT モード」を有効にしても、VLAN 設定を変更できません。</p>
VLAN	ネットワークの VLAN を有効にし、「VLAN タイプ」と「VLAN タグ」を指定します。（「VLAN タイプ」と「VLAN タグ」は VLAN 有効時のみ表示されます。）
SSID 内パーティション	有効にした場合、SSID 内の無線クライアントは互いに通信ができなくなります。

セキュリティモード設定

セキュリティモード「Enhanced Open」または「Enhanced Open + Open」を選択時	
暗号化	「AES」が自動的に選択されます。

セキュリティモード「WPA2」「WPA/WPA2」「WPA3」「WPA2/WPA3」のいずれかを選択時	
認証方式	<p>認証方式を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「PSK」「SAE」「PSK/SAE」「RADIUS」 <p>選択したセキュリティモードによって表示される項目は異なります。</p>
暗号化	<p>暗号化方式を選択します。「AES」「AES/TKIP」から選択します。</p> <p>セキュリティモードに「WPA3」を選択している場合は、「AES」が自動的に選択され、変更できません。</p>
事前共有鍵 (PSK)	<p>「認証方式」で「PSK」を選択した場合に表示されます。</p> <p>PSK (Pre-Shared Key/ 事前共有鍵) を以下のルールに従い入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入力可能文字数：8-63 文字 • 入力可能な文字：ASCII 印字可能文字表 (https://ja.wikipedia.org/wiki/ASCII) の『ASCII 印字可能文字』に記載されている文字 <p>目のアイコンをクリックすると、入力した文字が表示されます。</p>
グループキー更新間隔	グループキーの更新間隔を指定します。
プライマリ RADIUS サーバ セカンダリ RADIUS サーバ	<p>「認証方式」で「RADIUS」を選択した場合に表示されます。プルダウンメニューから RADIUS サーバを選択します。</p> <p>「RADIUS サーバの追加」をクリックし、RADIUS サーバを追加することもできます。追加する場合は以下の項目を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「RADIUS サーバ名」「ホスト」「ポート」「シークレット」「アクセスレベル」

入力後、「保存」をクリックします。

サイトの作成

サイトとは、ネットワーク機器の設置場所（設置先住所）を示したものです。

複数の Nuclias 対応機器が同一施設や同一店舗内等に設置されている場合、それらのログや使用状況などをまとめて確認できます。また、ファームウェアアップグレードのスケジュール設定等をサイトごとに行うことができます。

1. 管理 > 組織管理の順にクリックします。



図 5-16 組織管理メニュー

2. 「サイトの作成」をクリックします。



図 5-17 組織管理

3. 以下の項目を入力、選択します。
 - 「サイト名」を入力
 - 「国・地域のタイムゾーン」から「Japan」を選択

その他の項目は特に変更、入力は不要です。

The screenshot shows the 'サイトの作成' (Create Site) form. The 'サイト名*' (Site Name) text input field contains '65535' and is highlighted with a red rectangular box. The '国・地域のタイムゾーン*' (Country/Region Time Zone) dropdown menu is set to 'Japan' and is also highlighted with a red rectangular box. Other fields include 'サイトタグ' (Site Tag) set to 'None', '住所' (Address), 'デバイス資格情報' (Device Credentials) section with 'ユーザ名' (Username) '管理者' (Admin) and 'パスワード*' (Password) masked, 'NTP情報' (NTP Information) with 'NTPサーバ1*' (NTP Server 1) 'ntp.nuclias.com' and 'NTPサーバ2' (NTP Server 2) empty, and '連絡先情報' (Contact Information) with '名前' (Name) and '電話' (Phone) fields. At the bottom, there are '閉じる' (Close) and '適用' (Apply) buttons.

図 5-18 サイトの作成

4. 「適用」をクリックします。

Nuclias 対応機器の登録

1. 管理 > デバイスの追加の順にクリックします。



図 5-19 デバイスの追加メニュー

2. 「デバイスの追加」ウィンドウが表示されます。



図 5-20 デバイス追加画面

3. 下記の項目を入力します。

項目	説明
① デバイス UID	デバイス UID を入力します。
② デバイス名	Nuclias 上で管理するためのデバイス名を入力します。
③ サイト	デバイスに適用するサイトをプルダウンで選択します。
④ プロファイル	デバイスに適用するプロファイルをプルダウンで選択します。
⑤ ライセンスキー	<p>「更にライセンスを追加する」をクリックし、ライセンスキーを紐づけます。</p> <p>枠をクリックすると、そのデバイスで使用可能なライセンスキーがプルダウンで表示されますので、選択することができます。使用可能なライセンスキーとは、デバイスに初期状態で紐づけられているライセンスキー、または既に組織に登録されているライセンスキーです。これらとは異なるライセンスキーを使用する場合は、枠に直接入力してください。</p> <p>選択可能なライセンスキーが複数ある場合の詳細については、巻末の「付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細」をご確認ください。</p> <div data-bbox="481 1749 874 2004" data-label="Image"> <p>The screenshot shows a dropdown menu for selecting a license key. The title is 'ライセンスキー #1*'. The options are: <ul style="list-style-type: none"> ライセンスキーを選択してください (with a close button) 123.100.244.123.100.244.234 (363 日) 123.100.244.123.100.244.234 (361 日) 123.100.244.123.100.244.234 (195 日) </p></div> <p>注意 デバイスに紐づけられているフリーライセンスは最初にデバイスを登録した組織に保存され、他の組織で使用することはできません。該当デバイスを本組織から削除し、他の組織へ登録し直す場合、別途ライセンスを用意頂く必要があります。</p>

4. 入力後、「保存」をクリックします。

Nuclias 対応機器をオンラインにする

1. Nuclias 対応機器をインターネット環境に接続します。

Nuclias 対応機器が正常に Nuclias サーバに接続されると、いったんオンライン状態になったあと、ファームウェアの確認並びにアップグレード後、設定プロファイルの確認、更新が実施されます。

注意

機器がオンライン状態になった後はファームウェアアップグレードが実施される可能性があります。

ネットワーク切断や電源 OFF 等を実施する場合は本体の LED 等がファームウェアアップグレード状態でないかをご確認ください。

(例) DBA-2820P の場合、ファームウェアアップグレード中は本体の PWR/Cloud LED が橙色で点滅します。

ファームウェアアップグレード中にネットワーク切断や電源 OFF 等を実施した場合、システムが故障し、Nuclias 対応機器が起動しなくなる恐れがあります。

2. 機器が正常にオンライン状態になり、Nuclias 上でオンライン表示になると設定完了です。



図 5-21 オンラインステータス

以上で Nuclias の基本的な設定は終了です。

設定の詳細に関しては各項目のページをご確認ください。

第6章 ユーザプロフィール

- ユーザプロフィール

ユーザプロフィール

マイプロフィール

Nuclias 管理画面の右上部のユーザ名から「ユーザプロフィール」をクリックし、「マイプロフィール」タブで現在ログインしているユーザの情報を確認します。

The screenshot shows the 'My Profile' page in the Nuclias management interface. At the top, there's a navigation bar with 'ダッシュボード', '閲覧者', '設定', 'レポート', '管理', and 'ヘルプ'. Below that, the page title is 'ユーザプロフィール / マイプロフィール'. The main content area is titled 'マイプロフィール' and includes several sections:

- マイプロフィール**: Contains fields for '名前' (Name), 'Eメール' (Email), '現在のパスワード' (Current Password), '新しいパスワード' (New Password), '新しいパスワードの確認' (New Password Confirmation), '2ファクタ認証' (Two-Factor Authentication), 'アイドルタイムアウト' (Idle Timeout), and 'Login preference'. There are also buttons for 'ページのメール送信' and 'アカウントの削除'.
- アクセス権限**: A table showing access levels and permissions.

アクセスレベル	組織
役割	管理者
組織	2222
組織ID	103735
サイト	2222
- Profile Picture**: A circular area for uploading a profile picture. A note states: '最大1MBの、PNG、JPEG、JPGのうちのいずれかの形式のファイルをアップロードできます。'

At the bottom, there are 'キャンセル' and '保存' buttons.

図 6-1 ユーザプロフィール

ログイン中ユーザのユーザ名、ログインパスワードの変更、イメージ画像の変更を行うことができます。また、Eメールアドレスや、権限、アクセス可能なサイトの確認が可能です。

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
名前	ログイン時に表示されるユーザ名です。自身で編集できます。
Eメール	ユーザに紐づいているEメールアドレスです。変更できません。
現在のパスワード 新しいパスワード	ログイン時に利用するパスワードを変更します。「現在のパスワード」に現在のパスワード、「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認」に新しいパスワードを入力し、「保存」をクリックします。
2ファクタ認証	Nuclias にログインする際に、本画面で設定したパスワードのほかに E-mail または Google Authenticator による認証を行う機能です。 <ul style="list-style-type: none"> 「Disable」：2ファクタ認証を無効にします。 「Email authentication」：パスワードによる認証のほかに、E-mail による認証を行います。登録した E-mail アドレスに送付されるパスコードを使用してください。 「Google authenticator」：パスワードによる認証のほかに、Google Authenticator による認証を行います。Nuclias アカウントを Google 認証システムに追加し、「2ファクタ認証コードのテスト」で認証を確認してください。
アイドルタイムアウト	アイドルタイムアウト時間（単位：分）を設定します。 Nuclias にログイン後、本項目で設定した時間内に操作を行わなかった場合、Nuclias から自動的にログアウトします。
Login preference	Nuclias Cloud と Nuclias Connect のどちらかをログイン後に表示する画面として指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 「No default login preference」：ログイン後に表示する画面を指定しません。 「Set Nuclias Cloud portal as default」：ログイン後に Nuclias Cloud の画面を表示します。 「Set Nuclias Connect portal as default」：ログイン後に Nuclias Connect の画面を表示します。

項目	説明
D-Link からプロモーションと製品のアップデートを受け取る。	チェックを入れた場合、D-Link からプロモーションと製品のアップデートのお知らせを受け取ることができます。
ユーザアイコン	アイコン表示する場合、ここから画像をアップロードできます。
アクセス権限	アカウントのアクセス権限が表示されます。
ページのメール送信	ユーザ情報を自身のアドレスに送信します。
アカウントの削除	自身のアカウントを削除します。 注意 本項目からアカウントを削除するには、管理者権限に設定されている必要があります。

ログイン履歴

ユーザがログインした履歴を確認できます。

Nuclias 管理画面の右上部のユーザ名から「ユーザプロフィール」をクリックし、「最近のログイン」タブをクリックします。

#	IPアドレス	ロケーション	日/時
1	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/15/2020 12:14
2	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/15/2020 12:09
3	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/15/2020 11:31
4	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/12/2020 15:05
5	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/12/2020 10:31
6	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/11/2020 16:42
7	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/11/2020 14:38
8	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/10/2020 16:46
9	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/10/2020 14:06
10	125.100.149.234	Shinjuku/Japan	06/09/2020 15:18

図 6-2 ログイン履歴

API アクセス

API キーの確認、生成、無効化を実行できます。

Nuclias Cloud API は、他のソフトウェアが Nuclias および Nuclias の管理デバイスと機能を共有するためのインターフェースです。

API には、Nuclias Cloud と通信するソフトウェアおよびアプリケーションを構築するエンドポイントが含まれます。プロビジョニング、外部キャプティブポータル、モニタリングやレポートなどの機能を使用する場合に有用です。

Nuclias Cloud API は、URL への HTTPS リクエストと、JSON (JavaScript Object Notation) 形式を使用する RESTful API です。

注意 生成した API キーは、無効化できますが削除することはできません。

Nuclias 管理画面の右上部のユーザ名から「ユーザプロフィール」をクリックし、「API アクセス」タブをクリックします。

#	APIキー名	APIキー	最終アクセスIPアドレス	最終アクセスロケーション	最終アクセス日時	状態	作成者	作成日時
1	123456	862e*****e23b	-	-/	06/15/2020 12:40	NORMAL	admin@nuclias.com	06/15/2020 12:40

図 6-3 API アクセス

第7章 ダッシュボード

- ダッシュボード

ダッシュボード

ダッシュボード画面では、Nuclias で管理している機器の状態を確認できます。

ダッシュボード > アクセスポイント

「ダッシュボード」をクリックし、画面右上部の「概要」で「アクセスポイント」を選択します。以下のアクセスポイントのダッシュボード画面が表示されます。

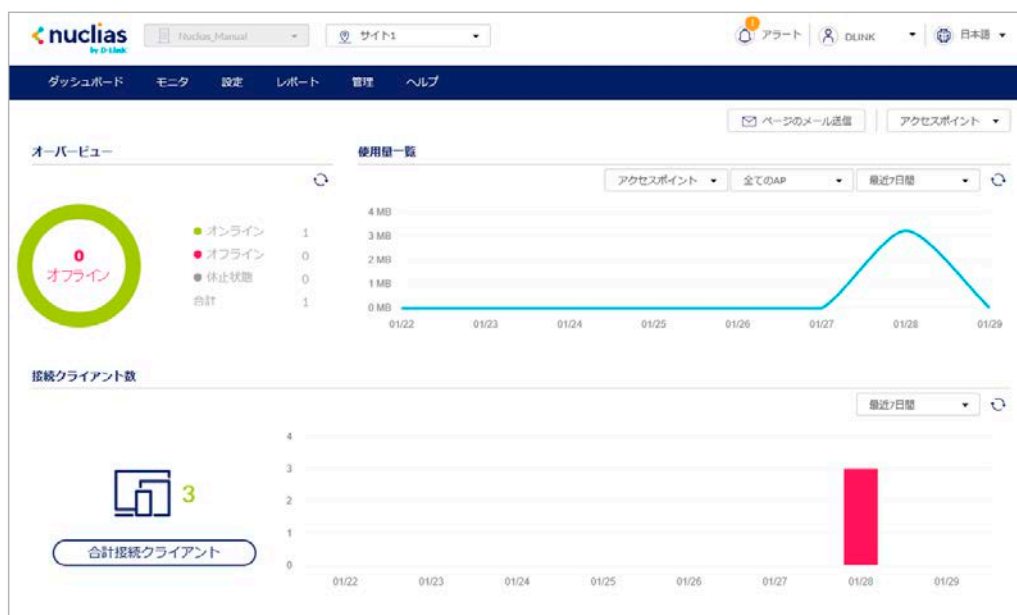


図 7-1 ダッシュボード（オーバービュー / 使用量一覧 / 接続クライアント数）

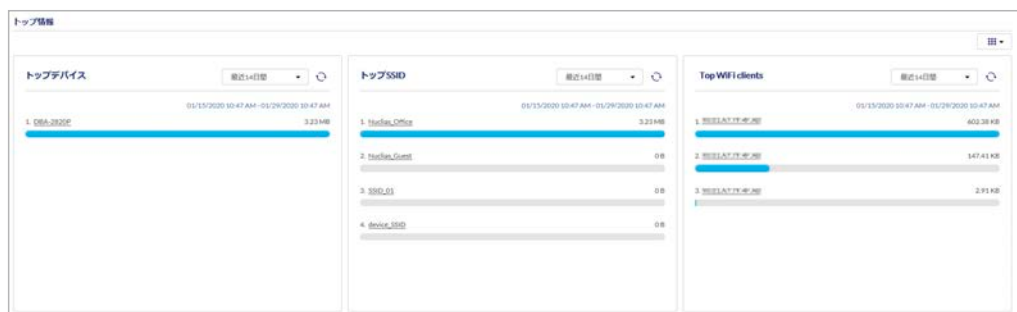


図 7-2 ダッシュボード（トップ情報）

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
オーバービュー	指定されたサイト内に、オンラインデバイス / オフラインデバイス / 休止状態デバイス / 合計がそれぞれ何台かを表示します。
使用量一覧	指定期間の通信容量を折れ線グラフで表示します。
接続クライアント数	指定期間内に管理ネットワーク機器に接続されたクライアントの数を表示します。棒グラフの赤色は期間中の最大値、橙色は最小値となります。
トップ情報	直近の通信量の上位を、「デバイス別」「SSID 別」「クライアント（MAC アドレス）別」に閲覧することができます。6 位以下を閲覧したい場合は、「さらに見る」をクリックして表示します。

ダッシュボードでは、組織内全体の使用状況を確認できるほか、サイト単位で状況確認することもできます。画面上部のドロップダウンリストからサイトを選択してください。

「ページのメール送信」をクリックし、宛先を入力するとダッシュボードの情報をメール送信できます。メールは一度に 10 の宛先まで送信可能です。

ダッシュボード>地図

「ダッシュボード」をクリックし、画面右上部の「概要」で「地図表示」を選択すると、**モニタ>地図**の画面に移行します。詳細は「[地図](#)」を参照してください。

ダッシュボード>ネットワーク

「ダッシュボード」をクリックし、画面右上部の「概要」で「ネットワークビュー」を選択すると、ネットワークの状態を表示する画面に移行します。



#	状態	組織	組織ID	タイプ	サイトタグ	サイト	デバイス	アクセスポイント	スイッチ
1	✓	Nuclias_Manual	124365	ORG	1	2	●1 ●0 ●0	●1 ●0 ●0	●0 ●0 ●0

図 7-3 ダッシュボード - ネットワーク

画面上部のドロップダウンリストでサイトを選択し、サイトごとの表示に切り替えることもできます。



#	状態	サイト	サイトタグ	デバイス	アクセスポイント	スイッチ
1	✓	サイト1		●1 ●0 ●0	●1 ●0 ●0	●0 ●0 ●0

図 7-4 ダッシュボード - ネットワーク - サイト

第8章 モニタ

- アクセスポイント - デバイス
- アクセスポイント - クライアント
- アクセスポイント - イベントログ
- アクセスポイント - 近隣の AP
- 地図
- フロアプラン

アクセスポイント - デバイス

モニタ > アクセスポイント > デバイスの順にクリックし、各デバイスの状況を確認することができます。

図 8-1 デバイス一覧

表の各項目の説明は下記の通りです。

項目	説明
状態	各機器のステータスを以下の色で表示します。 ・ 緑色：オンライン / 赤色：オフライン / 灰色：休止状態
デバイス名	Nuclias 上でのデバイス名を表示します。本項目をクリックすると、各デバイスの設定画面へ移行します。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
グローバル IP アドレス	デバイスのグローバル IP アドレスを表示します。
ローカル IP アドレス	デバイス本体に割り振られているローカル IP アドレスを表示します。
モデル名	デバイスのモデル名を表示します。
接続	デバイスの直近のステータスをタイムバーで表示します。緑色がオンライン、赤色がオフラインを表します。 タイムバーの期間は「タイムフレーム」で設定できます。ただし、設定したタイムフレームの期間より、該当デバイスのオンライン期間が短かった場合、タイムバーの左端はデバイスが最初にオンラインになったときに調整されます。 マウスカーソルをバーに合わせると、オンラインまたはオフラインとなっていた時間帯を確認できます。
プッシュ設定状態	デバイスに最新の設定がプッシュされているかを表示します。
デバイス UID	デバイスの UID を表示します。
プロファイル	デバイスが紐づいているプロファイルを表示します。
サイト	デバイスが紐づいているサイトを表示します。
サイトタグ	上記のサイトがサイトタグに紐づいている場合、それを表示します。
シリアル番号	デバイスのシリアル番号を表示します。
ファームウェアバージョン	デバイスのファームウェアバージョンを表示します。
ハードウェアバージョン	デバイスのハードウェアバージョンを表示します。
最終閲覧	最後の日時を表示します。
ライセンス状態	デバイスに紐づけられているライセンスのステータスを表示します。
登録日	デバイスを Nuclias に登録した日を表示します。
期限日	デバイスに紐づけられたライセンスの期限を表示します。
現在のクライアント	現在デバイスに接続しているクライアント数を表示します。
使用量	デバイスが最後に起動してから現在までの総通信量を表示します。
チャンネル	デバイス (AP) に設定されているチャンネルを表示します。「2.4G のチャンネル / 5G のチャンネル」が表示されています。
送信電波出力	2.4G の電波出力 / 5G の電波出力を表示します。
LACP	デバイスの LACP の状態を表示します。

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表内の「接続」欄に表示する期間を設定します。

■ 表示する項目の選択

 をクリックすると表示できる項目の一覧が表示されます。表示する項目にチェックをいれます。

■ デバイス情報のダウンロード

 をクリックし、デバイスの情報を CSV 形式でダウンロードします。

アクセスポイント - クライアント

モニタ > アクセスポイント > クライアントの順にクリックし、アクセスポイントに接続されている、または接続されていたクライアントの状態を確認することができます。

#	状態	クライアント名	MACアドレス	IPv4アドレス	接続先	SSID	チャンネル	RSSI	使用量	初回確認	最終閲覧	製造メーカー	認証	ユーザID
1	●	PC_TEST	44:AD:57:11:21:01	192.168.253.238	配_1	PC_TEST_2	36	-44	296.2 KB	01/01/1970 09:00:01	01/01/1970 09:00:01	Liteon Technology Corporation	None	None
2	●	YS_mobile	40:4E:56:19:1A:1C	90.229.72.44	配_1	YS_Guest	36	-37		01/01/1970 09:00:01	01/01/1970 09:00:01	HTC Corporation	None	None

図 8-2 クライアント一覧

表の各項目の説明は下記の通りです。

項目	説明
状態	クライアントの状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 緑色：現在接続しているクライアントです。 ● 赤色：過去に接続していたクライアントです。現在は接続していません。
クライアント名	クライアントの名前を表示します。クライアント名は編集することができます。
MAC アドレス	クライアントの MAC アドレスを表示します。
IPv4 アドレス	クライアントの IP アドレスを表示します。
接続先	クライアントが接続しているデバイス名を表示します。
SSID	クライアントが接続している SSID 名を表示します。
チャンネル	クライアントが接続しているチャンネルを表示します。
RSSI	RSSI の状態を表示します。
使用量	クライアントの通信容量を表示します。
初回確認	クライアントが最初に認識された日時を表示します。
最終閲覧	クライアントが最後に認識された日時を表示します。
製造メーカー	クライアントの製造ベンダを表示します。
認証	認証の状況を確認します。
ユーザ ID	ユーザ ID を表示します。

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表示する期間を設定します。

■ クライアントの検索

検索画面では、以下の項目で検索を行うことができます。

図 8-3 クライアントの検索

■ 表示する項目の選択

をクリックすると表示できる項目の一覧が表示されます。表示する項目にチェックをいれます。

■ クライアント情報のダウンロード

をクリックし、クライアントの情報を CSV 形式でダウンロードします。

アクセスポイント - イベントログ

モニタ > アクセスポイント > イベントログの順にクリックし、サイト内で発生したイベントについて表示します。

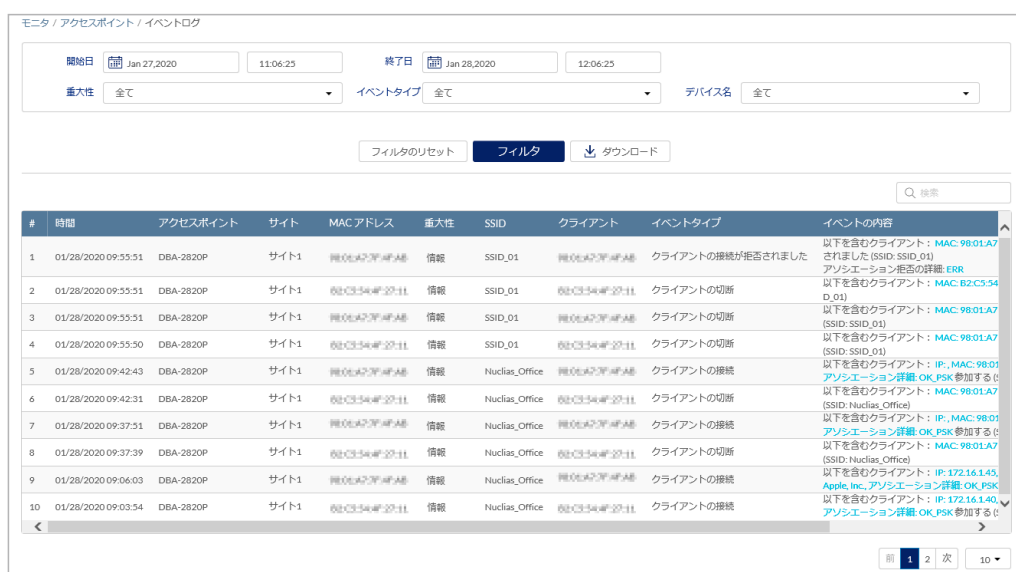


図 8-4 イベントログ

表の各項目の説明は下記の通りです。

項目	説明
時間	イベントの発生日時を表示します。
アクセスポイント	イベントの発生したアクセスポイントを表示します。
サイト	イベントの発生したサイトを表示します。
MAC アドレス	イベントが発生したクライアントの MAC アドレスを表示します。
重大性	イベントの重大性を表示します。
SSID	イベントが発生した SSID を表示します。
クライアント	イベントが発生したクライアントを表示します。
イベントタイプ	イベントの種類を表示します。
イベントの内容	発生したイベント、関連デバイスやクライアントについての詳細情報 (IP アドレス、MAC アドレス、ベンダなど) を表示します。

■ 表示する項目の選択

「フィルタ」をクリックすると条件に従い、表示されるイベントのリストを絞り込むことができます。詳細は「[イベントログ - フィルタ](#)」を参照してください。

■ イベントログのダウンロード

「ダウンロード」をクリックし、デバイスの情報を CSV 形式でダウンロードします。

注意 本機能は、クラウド AP から NTP サーバへのアクセスが正常に実行できない環境ではご利用いただけません。

イベントログ - フィルタ

イベントログ内の「フィルタ」を使用すると、条件に従い表示されるイベントのリストを絞り込むことができます。

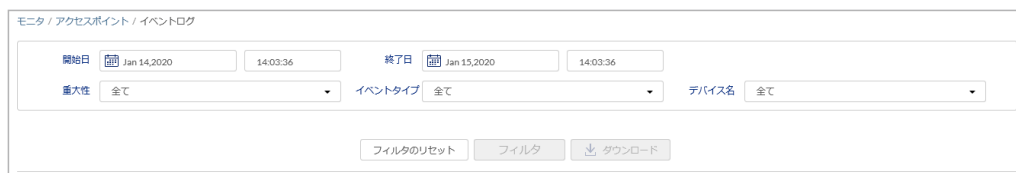


図 8-5 イベントログ - フィルタ

フィルタができる項目は下記の通りです。

項目	説明
開始日	検索範囲の開始日 (60 日前から当日までを指定可能) と開始時刻を指定します。
終了日	検索範囲の終了日と終了時刻を指定します。
重大性	イベントの重大性 (「重大」「警告」「情報」) を指定します。
イベントタイプ	発生したイベントの種類を指定します。
デバイス名	イベントの発生したデバイスを指定します。

「フィルタ」をクリックすると、設定したフィルタを元にイベントログが更新されます。

アクセスポイント - 近隣の AP

モニタ > アクセスポイント > 近隣の AP の順にクリックし、近くにあるアクセスポイントを検知し、画面に表示します。

#	状態	検知元	MAC	SSID	セキュリティ	RSSI	無線	チャンネル	サポートモデル
1	UNKNOWN_ROGUE	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	DLink	WPA2	-52	2.4 GHz	1	b.g.n
2	UNKNOWN_ROGUE	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	te32-24	WPA2	-51	2.4 GHz	1	b.g.n
3	UNKNOWN	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	DLink	WPA+WPA2	-56	2.4 GHz	1	b.g.n
4	UNKNOWN_ROGUE	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	te33-24	WPA2	-53	2.4 GHz	1	b.g.n
5	UNKNOWN_ROGUE	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	DAP-2660	WPA+WPA2	-46	2.4 GHz	1	b.g.n
6	UNKNOWN_ROGUE	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	te34	WPA2	-52	2.4 GHz	1	b.g.n
7	UNKNOWN_ROGUE	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	DLink	WPA+WPA2	-51	2.4 GHz	1	b.g.n
8	UNKNOWN_ROGUE	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	te30-24	WPA+WPA2	-52	2.4 GHz	1	b.g.n
9	UNKNOWN	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	DLink	WPA2	-57	2.4 GHz	1	b.g.n
10	UNKNOWN_ROGUE	DBA-2820P	00:00:00:00:00:00	.2820P_Nuclias_Guest	WPA+WPA2	-55	2.4 GHz	2	b.g.n

図 8-6 近隣の AP

表の各項目の説明は下記の通りです。

項目	説明
状態	アクセスポイントの状態を表示します。
検知元	情報を検知したアクセスポイントを表示します
MAC	検知したアクセスポイントの MAC アドレスを表示します。
SSID	検知したアクセスポイントの SSID を表示します。
セキュリティ	検知したアクセスポイントのセキュリティを表示します。
RSSI	検知したアクセスポイントの電波強度を表示します。
無線	検知したアクセスポイントの無線周波数帯を表示します。
チャンネル	検知したアクセスポイントのチャンネルを表示します。
サポートモード	検知したアクセスポイントのサポート規格を表示します。

地図

モニタ > 地図を選択すると、各サイトの情報を地図上で確認できます。

マップ上では、各サイトの設定に紐づけられた住所にプロットが設定されています。

- ・ 緑色：全てのデバイスがオンラインであることを示しています。
- ・ 赤色：1台以上のデバイスがオフラインであることを示しています。
- ・ 灰色：デバイスが登録されていないか、デバイス登録済であるがNucliasに未接続である状態を示しています。

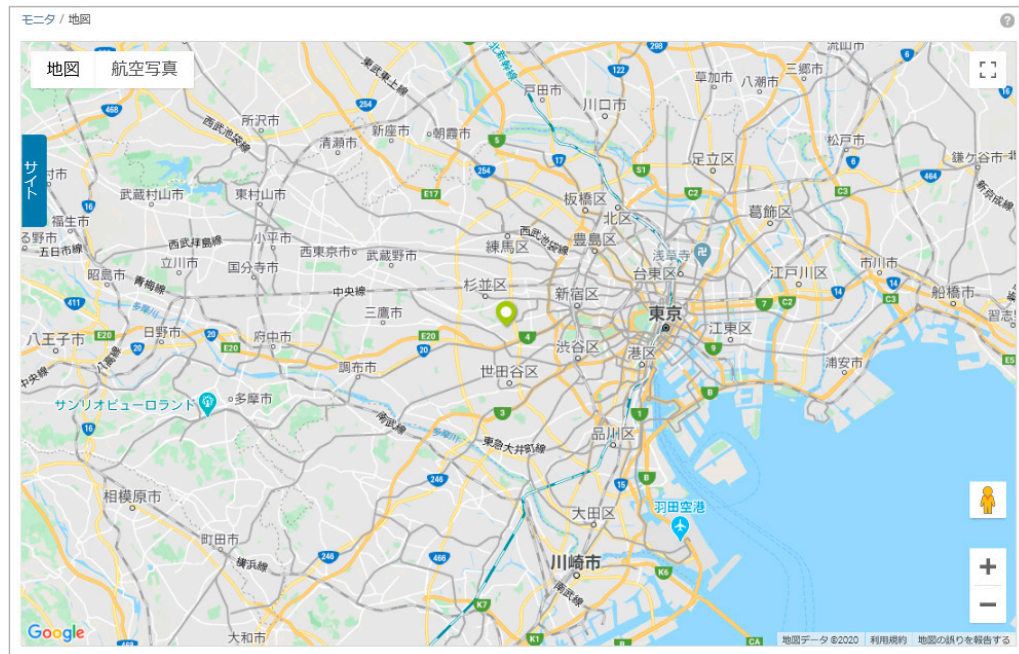


図 8-7 マップ

サイトのアイコンをクリックすると、サイト名、住所、並びに各状態のデバイスの数を確認できます。

サイト名をクリックするとそのサイトのダッシュボードが表示されます。



図 8-8 マップ - サイト情報

「サイト」のタブをクリックすると、左側にサイトの一覧が表示されます。

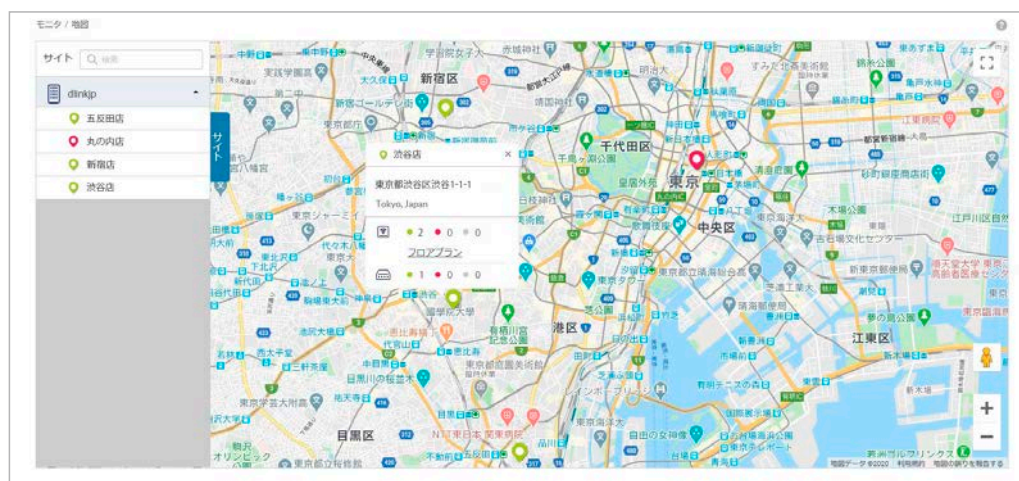


図 8-9 マップ - サイトのリスト

フロアプラン

ユーザが作成、準備したフロア画像を Nuclias にアップロードし、その画像にネットワーク機器のアイコンをドラッグ&ドロップすることにより、視覚的な機器管理が可能です。フロアプラン上では、各デバイスのオンライン/オフラインの状況を確認できます。

■ フロアプランの追加

1. **モニタ>フロアプラン** を選択します。

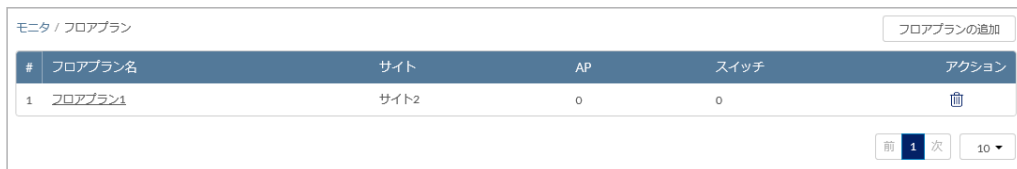


図 8-10 フロアプラン

2. 「フロアプランの追加」をクリックし、フロアプランの名前とサイトを設定します。



図 8-11 フロアプランの追加

3. 「保存」をクリックします。

■ フロアプランの編集

1. フロアプランの名前をクリックし、マップに移行します。
2. フロアマップを編集します。
 - フロアマップ等の画像をアップロードする場合は、「画像データのアップロード」から実行します。
 - 「未設置デバイス」を開くと未設置のデバイスが表示されます。ドラッグして適切な場所に移動させ、ドロップしてアイコンの位置を確定します。
 - フロア上のデバイスを削除する場合は左側の「AP」欄の「×」をクリックします。
3. 設定後、「保存」をクリックします。


フロアマップ上のデバイスアイコンの色は以下の状態を表します。

- 緑色：オンライン状態
- 赤色：オフライン状態
- 灰色：休止状態（デバイスが登録済だが、Nuclias に未接続である状態）



図 8-12 フロアプランの編集

■ フロアプランのダウンロード

1. 画面右端のをクリックします。
2. フロアプランの画像が PNG ファイルでダウンロードされます。

■ フロアプランの削除

1. モニタ > フロアプラン画面のゴミ箱アイコンをクリックします。



フロアプラン名	サイト	AP	アクション
フロアプラン1	サイト2	0	

図 8-13 フロアプラン一覧 - 削除

2. 確認画面で「はい」をクリックします。

第9章 デバイス設定

- アクセスポイント - プロファイル
- アクセスポイント - デバイス
- アクセスポイント - IP ACL
- アクセスポイント - MAC ACL
- アクセスポイント - ローカル認証 DB
- アクセスポイント - LDAP サーバ
- アクセスポイント - RADIUS サーバ
- アクセスポイント - スプラッシュページ編集
- アクセスポイント - ウォールドガーデン

アクセスポイント - プロファイル

設定 > アクセスポイント > プロファイルを選択し、アクセスポイントに適用するための Wi-Fi ポリシーを記載したプロファイルを作成、編集するページを表示します。

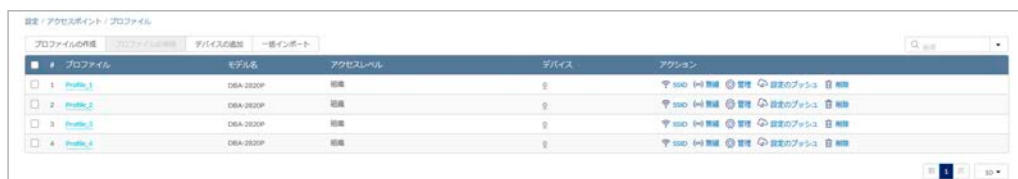


図 9-1 プロファイル一覧

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
チェックボックス	プロファイルを複数まとめて削除する場合に使用します。
プロファイル	プロファイル名が表示されています。プロファイルの名称を変更する場合は、直接ここをクリックしてください。
モデル名	プロファイルのモデルを表示します。
アクセスレベル	プロファイルのアクセスレベルを表示します。
デバイス	プロファイルに登録されているデバイスの数を表示します。 数字をクリックすると、デバイスの一覧が表示されます。
アクション	以下の項目をクリックし、設定やプロファイルの削除を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・「SSID」: SSID 設定を行う画面に移行します。詳細は「プロファイル - SSID」を参照してください。 ・「無線」: 無線設定を行う画面に移行します。詳細は「プロファイル - 無線」を参照してください。 ・「管理」: プロキシと IPv6 の設定画面に移行します。詳細は「プロファイル - 設定」を参照してください。 ・「設定のプッシュ」: 設定のプッシュ配信を行います。 ・「削除」: プロファイルを削除します。

特定の文字列の入った情報を検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。
また、サイトやサイトタグごとにプロファイルを表示することもできます。

■ プロファイルの作成

1. 設定 > アクセスポイント > プロファイル画面の「プロファイルの作成」をクリックし、以下の画面で設定を行います。

図 9-2 プロファイルの作成

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
プロファイル名	Nuclias 上で管理するためのプロファイル名を指定します。
モデル名	プロファイルを適用する機器名（製品名）をプルダウンから選択します。
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイトタグ」「サイト」から選択します。 サイトタグおよびサイトを選択した場合は、管理サイトタグまたは管理サイトを設定します。
設定	作成するプロファイルの元データを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 「デフォルトコンフィグを使用する」：各モデルに適応した初期コンフィグがありますので、それらを指定します。管理者はデフォルトコンフィグを編集し、ユーザ環境に合わせた設定を作成できます。 「既存の設定を複製する」：同じ組織内に、既に同じモデル用のプロファイルが作成されている場合、それを複製し、編集することができます。

2. 設定後、「プロファイルの作成」をクリックします。

■ デバイスの追加

1. 設定 > アクセスポイント > プロファイル画面の「デバイスの追加」をクリックし、以下の画面で設定を行います。

図 9-3 デバイスの追加

第9章 デバイス設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
デバイス UID	デバイス UID を入力します。
デバイス名	Nuclias 上で管理するためのデバイス名を入力します。
サイト	デバイスに適用するサイトをプルダウンで選択します。
プロファイル	デバイスに適用するプロファイルをプルダウンで選択します。
ライセンスキー	<p>「更にライセンスを追加する」をクリックし、ライセンスキーを紐づけます。</p> <p>枠をクリックすると、そのデバイスで使用可能なライセンスキーがプルダウンで表示されますので、選択することができます。使用可能なライセンスキーとは、デバイスに初期状態で紐づけられているライセンスキー、または既に組織に登録されているライセンスキーです。これらとは異なるライセンスキーを使用する場合は、枠に直接入力してください。</p> <p>選択可能なライセンスキーが複数ある場合の詳細については、巻末の「付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細」をご確認ください。</p> <div data-bbox="539 562 948 835"></div> <p>注意 デバイスに紐づけられているフリーライセンスは最初にデバイスを登録した組織に保存され、他の組織で使用することはできません。該当デバイスを本組織から削除し、他の組織へ登録し直す場合、別途ライセンスを用意頂く必要があります。</p>

2. 設定後、「保存」をクリックします。

■ デバイスを一括インポートする

CSV ファイルを用いてまとめてデバイスを登録する手順について説明します。

1. 設定 > アクセスポイント > プロファイル画面の「一括インポート」をクリックします。
2. 以下の画面でファイルを選択し、「アップロード」をクリックします。
CSV ファイルのサンプルが必要な場合は、指定のメッセージをクリックします。

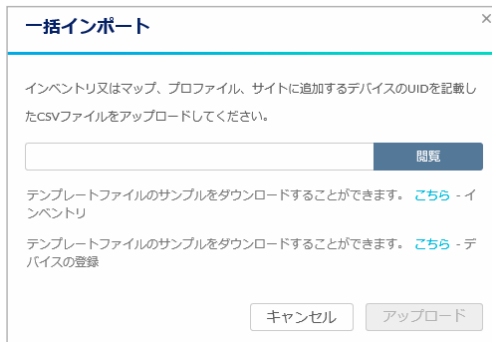


図 9-4 デバイスの追加 (CSV)

■ プロファイルの削除

1. 設定 > アクセスポイント > プロファイル画面のチェックボックスにチェックを入れ、「プロファイルの削除」をクリックします。
または、「アクション」欄の「削除」をクリックします。
2. 確認画面で「はい」を選択します。

注意 デバイスが紐づいているプロファイルは削除できません。

■ プロファイル SSID の一覧

設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で「アクション」欄の「SSID」をクリックすると、SSID の一覧が表示されます。



図 9-5 SSID 一覧

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
SSID	SSID 名を表示します。クリックすると設定画面へ移行します。
2.4GHz	当該 SSID を 2.4GHz 帯で有効化する場合にチェックを入れます。デバイスにより、同時に有効化できる SSID 数の上限は決まっています。
5GHz	当該 SSID を 5GHz 帯で有効化する場合にチェックを入れます。デバイスにより、同時に有効化できる SSID 数の上限は決まっています。
ブロードキャスト SSID	当該 SSID をブロードキャストする場合はチェックを入れます。ステルス状態にする場合はチェックを外します。
セキュリティ	SSID のセキュリティを表示します。セキュリティは SSID の設定で変更できます。

プロファイル - SSID

SSID の追加方法と設定方法について説明します。

■ プロファイル SSID の追加

1. 設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で「アクション」欄の「SSID」をクリックします。
2. 「SSID の追加」をクリックします。



図 9-6 SSID 一覧

3. SSID 名を入力し、使用帯域を選択します。

図 9-7 SSID 一覧

4. 「保存」をクリックします。

■ プロファイル SSID の編集

1. 設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で「アクション」欄の「SSID」をクリックします。
2. 設定を行う SSID のリンクをクリックします。

SSID	2.4 GHz	5 GHz	ブロードキャストSSID	セキュリティ
<input type="checkbox"/> Nuclias_Guest	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Open
<input type="checkbox"/> Nuclias_Office	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	WPA + WPA2

図 9-8 SSID 一覧

3. 以下のタブについて設定を行います。
 - 基本：詳細は「[プロファイル - SSID - 基本タブ](#)」を参照してください。
 - キャプティブポータル：詳細は「[プロファイル - SSID - キャプティブポータルタブ](#)」を参照してください。
 - アクセスコントロール：詳細は「[プロファイル - SSID - アクセスコントロールタブ](#)」を参照してください。
 - スケジュール設定：詳細は「[プロファイル - SSID - スケジュール設定タブ](#)」を参照してください。
 - 高度な設定：詳細は「[プロファイル - SSID - 高度な設定タブ](#)」を参照してください。

基本	キャプティブポータル	アクセスコントロール	スケジュール設定	高度な設定
SSID名* Nuclias_Office				
セキュリティ ⓘ WPA/WPA2				

図 9-9 SSID 設定画面

プロファイル - SSID - 基本タブ

「基本」タブを選択すると以下の画面が表示されます。

図 9-10 プロファイル - SSID - 基本タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明						
SSID 名	SSID 名を指定します。無線ネットワークを識別する 1-32 文字の固有の ID です。 注意 ASCII 印字可能文字表 (https://ja.wikipedia.org/wiki/ASCII) の『ASCII 印字可能文字』に記載されている文字が使用可能です。特殊文字については下記の制限があります。 <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>特殊文字</th> <th>制限概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[?] ["] [\$] [] [\] [] [+]</td> <td>使用できません。</td> </tr> <tr> <td>[!] [#] [;]</td> <td>使用できますが、『!abcd...』『#abcd...』『;abcd...』のように、先頭で使用することはできません。</td> </tr> </tbody> </table>	特殊文字	制限概要	[?] ["] [\$] [] [\] [] [+]	使用できません。	[!] [#] [;]	使用できますが、『!abcd...』『#abcd...』『;abcd...』のように、先頭で使用することはできません。
特殊文字	制限概要						
[?] ["] [\$] [] [\] [] [+]	使用できません。						
[!] [#] [;]	使用できますが、『!abcd...』『#abcd...』『;abcd...』のように、先頭で使用することはできません。						
セキュリティ	SSID のセキュリティモードを指定します。選択するセキュリティモードによって指定する項目が異なります。表示される各項目に適切な設定を行います。 セキュリティモードの設定項目については、「 セキュリティモード設定 」を参照してください。						
ブロードキャスト SSID	当該の SSID をブロードキャストする場合、「有効」を選択します。ブロードキャストされた SSID は無線クライアントから識別できます。追加のセキュリティ対応が必要な場合、SSID のブロードキャストは無効になります。本ネットワークに接続する無線クライアントが当該の SSID に確認される必要がある場合、有効です。						
バンド選択	SSID のバンド（帯域）を選択します。「2.4GHz」「5GHz」から選択し、5GHz を優先させる場合は「バンドステアリング」にもチェックを入れます。 DBA-2720P の場合は、「5GHz」のかわりに「5GHz1」「5GHz2」の 2 つの項目が表示されます。						
ゲストアクセスモード	VLAN などの設定を行わずにゲスト用の SSID を設定します。 本機能を有効にすると、下記の機能が自動的に有効になります。 <ul style="list-style-type: none"> ・プライベート IP アドレスフィルタリング：10.0.0.0/8, 172.16.0.0/12, 192.168.0.0/16 宛てのパケットを破棄します。 ・DHCP サーバ機能：10.229.x.x の IP アドレスが帰属端末に割り当てられます。 ・DNS リレー機能：帰属端末からの DNS パケットをリレーします。 ・NAT モード：帰属端末からのパケットを機器の管理 IP/VLAN に変換します。 ・SSID 間パーティション：ゲストアクセスモードが設定されている SSID と他の SSID 間の通信を禁止します。 ・SSID 内パーティション：帰属端末同士の通信を遮断します。 						

第9章 デバイス設定

項目	説明
NAT モード	<p>本機能を有効にすると、下記の機能が自動的に有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバ機能：10.229.x.x の IP アドレスが帰属端末に割り当てられます。「DHCP プールの追加」をクリックし、DHCP プールを作成することも可能です。 • DNS リレー機能：帰属端末からの DNS パケットをリレーします。 <p>ゲストアクセスモードを有効にすると、NAT モードも自動的に有効となります。</p>
VLAN	ネットワークの VLAN を有効にし、「VLAN タイプ」と「VLAN タグ」を指定します。（「VLAN タイプ」と「VLAN タグ」は VLAN 有効時のみ表示されます。）
SSID 内パーティション	有効にした場合、SSID 内の無線クライアントは互いに通信ができなくなります。

セキュリティモード設定

セキュリティモード「Enhanced Open」または「Enhanced Open + Open」を選択時

暗号化	「AES」が自動的に選択されます。
-----	-------------------

セキュリティモード「WPA2」「WPA/WPA2」「WPA3」「WPA2/WPA3」のいずれかを選択時

認証方式	<p>認証方式を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「PSK」「SAE」「PSK/SAE」「RADIUS」 <p>選択したセキュリティモードによって表示される項目は異なります。</p>
暗号化	<p>暗号化方式を選択します。「AES」「AES/TKIP」から選択します。</p> <p>セキュリティモードに「WPA3」を選択している場合は、「AES」が自動的に選択され、変更できません。</p>
事前共有鍵 (PSK)	<p>「認証方式」で「PSK」を選択した場合に表示されます。</p> <p>PSK (Pre-Shared Key/ 事前共有鍵) を以下のルールに従い入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入力可能文字数：8-63 文字 • 入力可能な文字：ASCII 印字可能文字表 (https://ja.wikipedia.org/wiki/ASCII) の『ASCII 印字可能文字』に記載されている文字 <p>目のアイコンをクリックすると、入力した文字が表示されます。</p>
グループキー更新間隔	グループキーの更新間隔を指定します。
プライマリ RADIUS サーバ セカンダリ RADIUS サーバ	<p>「認証方式」で「RADIUS」を選択した場合に表示されます。プルダウンメニューから RADIUS サーバを選択します。</p> <p>「RADIUS サーバの追加」をクリックし、RADIUS サーバを追加することもできます。追加する場合は以下の項目を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「RADIUS サーバ名」「ホスト」「ポート」「シークレット」「アクセスレベル」

入力後、「保存」をクリックします。

プロファイル - SSID - キャプティブポータルタブ

「キャプティブポータル」は、無線クライアントのユーザが Nuclias 管理アクセスポイントの SSID へ接続する際に、Web ページ（スプラッシュページ）を経由させ、アクセスの前に指定の情報をユーザに表示し対応させる機能です。

このページは通常、追加の認証方法、またはネットワークからのサービス情報を表示し、クライアントのトラフィックはスプラッシュページでリクエストされた情報をユーザが提供した場合にのみに許可されます。キャプティブポータルの設定と追加により、ユーザにはスプラッシュページを経由させることでクラウドの認証メカニズムを追加させます。

Wi-Fi クライアントがキャプティブポータルを有効にした SSID に接続し、「任意の Web サイト」にアクセスすると、スプラッシュページに自動的にリダイレクトされます。

ただし、利用ブラウザ、利用 OS によっては、「任意の Web サイト」が SSL サイト（https サイト）の場合、スプラッシュページに正常にリダイレクトされない場合があるため、非 SSL サイト（http サイト）へのアクセスを推奨します。

注意 タグ VLAN を設定している SSID では、キャプティブポータルはご利用頂けません。

「キャプティブポータル」タブを選択し、キャプティブポータルの設定を行います。

The screenshot shows the configuration page for the Captive Portal. The breadcrumb is "設定 / アクセスポイント / プロファイル / DBA-2820P / Nuclias_Office". There are tabs for "SSID", "無線", and "設定". Under "SSID", there are sub-tabs for "基本", "キャプティブポータル", "アクセスコントロール", "スケジュール設定", and "高度な設定". The "キャプティブポータル" tab is active. It contains the following options:

- キャプティブポータル***
 - None
 - クリックスルー
 - ベーシックログインページでサインオン
 - サードパーティ資格情報でサインオン
 - ベーシックログイン又はサードパーティ資格情報でサインオン
 - SMS認証でサインオン
 - Eメール認証又はサードパーティ資格情報でサインオン
 - 外部キャプティブポータルでサインオン
- URLリダイレクト ?**
 - 有効
 - 無効

At the bottom, there are "キャンセル" and "保存" buttons.

図 9-11 プロファイル - SSID - キャプティブポータルタブ

第9章 デバイス設定

スプラッシュページを選択し、表示される項目について設定を行います。

設定 / アクセスポイント / プロファイル / DBA-2820P / Nuclias_Office

設定のプッシュ SSID 無線 設定

基本 **キャプティブポータル** アクセスコントロール スケジュール設定 高度な設定

キャプティブポータル*

None

クリックスルー

ベーシックログインページでサインオン

ベーシックログインでのデフォルトサインオン [スプラッシュページ編集](#)

サードパーティ資格情報でサインオン

ベーシックログイン又はサードパーティ資格情報でサインオン

SMS認証でサインオン

Eメール認証又はサードパーティ資格情報でサインオン

外部キャプティブポータルでサインオン

ベーシックログインページ*

ローカル認証 RADIUSサーバ LDAPサーバ

ローカル認証*

[認証ユーザの追加](#) [ローカル認証DB](#)

同時ログイン 有効 無効

セッションタイムアウト* 分

アイドルタイムアウト* 分

セッション制限

ウォールドガーデン [ウォールドガーデンの追加](#) [ウォールドガーデン](#)

URLリダイレクト ? 有効 無効

[キャンセル](#) [保存](#)

図 9-12 キャプティブポータルタブ (ベーシックログインページでサインオン)

キャプティブポータルのタイプを選択すると、それに適応したスプラッシュページをプルダウンから選択できるようになります。

新しくスプラッシュページを作成する場合は、「スプラッシュページの編集」をクリックします。スプラッシュページの編集については「アクセスポイント - スプラッシュページ編集」を参照ください。

項目	説明
クリックスルー	Nuclias 上で設定するスプラッシュページ上のボタンを押下することで、上位ネットワークとの通信が許可されます。
ベーシックログインページでサインオン	<p>スプラッシュページ上でユーザ ID とパスワードを入力します。 ユーザ ID とパスワードのリストは下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ローカル認証」：Nuclias 上で設定する ID・パスワードでユーザ認証を行います。 「RADIUS サーバ」：お客様でご用意頂く外部 RADIUS サーバでユーザ認証を行います。 「LDAP サーバ」：お客様でご用意頂く外部 LDAP サーバでユーザ認証を行います。 <p>● ローカル認証選択時は下記の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「同時ログイン」：同一 ID のログイン申請が複数の無線 LAN クライアントからあった場合、ログインを許可するかどうかを指定します。 <p>● RADIUS サーバ選択時は下記の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プライマリ RADIUS サーバ」「セカンダリ RADIUS サーバ」：サーバを指定します。 「RADIUS サーバの追加」をクリックすると追加ウィンドウが表示されます。 以下の項目を入力し、「保存」をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> 「RADIUS サーバ名」「ホスト」「ポート」「シークレット」「アクセスレベル」 「RADIUS サーバ」のリンクをクリックすると登録されているサーバリストが表示されます。 <p>● LDAP サーバ選択時は下記の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プライマリ LDAP サーバ」「セカンダリ LDAP サーバ」：サーバを指定します。 「LDAP サーバの追加」をクリックすると追加ウィンドウが表示されます。 以下の項目を入力し、「保存」をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> 「LDAP サーバ名」「IP アドレス」「ポート」「BaseDN」「暗号化タイプ」「アクセスレベル」 「LDAP サーバ」のリンクをクリックすると登録されているサーバリストが表示されます。
サードパーティ資格情報でサインオン	<p>スプラッシュページ上で使用する SNS を、「Facebook」「Google」「LINE」「Weibo」から 1 つ以上指定します。 全て指定することも可能です。 無線クライアントは、いずれかの SNS で認証を実施すると上位ネットワークとの通信が許可されます。</p>
ベーシックログイン又はサードパーティ資格情報でサインオン	上記の「ベーシックログイン」と「サードパーティ資格情報」の両方をスプラッシュページに表示します。無線クライアントは、いずれかの認証を実施すると上位ネットワークとの通信が許可されます。
SMS 認証でサインオン	<p>SMS 認証を有効にするには、SMS アカウントの設定が必要です。Nuclias は、Twilio サービスを使用して SMS テキストメッセージを受信します。 設定内容の詳細は「アドバンスド設定 > SMS 設定」を参照してください。</p> <p>注意 本機能は未サポートです。</p>
E メール認証又はサードパーティ資格情報でサインオン	<p>スプラッシュページ上に「E メール認証」と「サードパーティ資格情報」の両方を表示します。 無線クライアントは、いずれかの認証を実施すると、上位ネットワークとの通信が許可されます。 メール認証ではメールアドレスを入力すると、一時的に上位ネットワークとの通信が可能になりますので、その間に認証用メールを受信し、認証を実施します。</p> <p>メール認証を有効にするために以下の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「許容時間」：E メール認証で、無線利用者が認証メールを要求後、メール受信や認証を行うために一時的にインターネットに接続できる時間を設定します。 「認証回数」：E メール認証で、1 日の中で何回認証メールを要求できるかを指定します。 「拒否時間」：無線利用者が認証用メールを要求後、「許容時間」で設定した時間内に認証が行われなかった場合、認証用メールの再要求を本項目で指定した時間拒否します。 <p>注意 SNS 認証機能（Facebook、Google、LINE、Weibo）の場合、「同時ログイン」項目の設定に関わらず同時ログインが有効になっています。</p>
外部キャプティブポータルでサインオン	<p>認証に外部キャプティブポータルを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オプション」：外部キャプティブポータルを選択します。 「スプラッシュページ URL」：スプラッシュページの URL を入力します。 <p>● RADIUS サーバ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プライマリ RADIUS サーバ」「セカンダリ RADIUS サーバ」：サーバを指定します。 「RADIUS サーバの追加」をクリックすると追加ウィンドウが表示されます。 以下の項目を入力し、「保存」をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> 「RADIUS サーバ名」「ホスト」「ポート」「シークレット」「アクセスレベル」 「RADIUS サーバ」のリンクをクリックすると登録されているサーバリストが表示されます。 「プライマリ アカウンティングサーバ」「セカンダリ アカウンティングサーバ」：アカウンティングサーバを指定します。

第9章 デバイス設定

「セッションタイムアウト」「アイドルタイムアウト」の項目では、全ての認証タイプにおいて、どのくらいの時間接続を許可するかを指定します。

項目	説明
セッションタイムアウト	無線クライアントがログイン成功后、何分間接続できるかを指定します。 セッションタイムアウトが過ぎると、再度ログインが必要になります。
アイドルタイムアウト	無線クライアントが指定した時間（分）連続して通信しない場合、自動的にログアウトの状態にします。 セッションタイムアウトより短い時間を入力してください。

キャプティブポータルタイプを「クリックスルー」以外に設定した場合は、ワールドガーデンの項目が表示されます。

項目	説明
ワールドガーデン	ワールドガーデンを選択します。 ワールドガーデンを追加する場合は「ワールドガーデンの追加」をクリックし、設定を行います。詳細は「 アクセスポイント - ワールドガーデン 」を参照してください。 注意 ワールドガーデンでは、「http」のページにはアクセスできません。 「https」でアクセスできるページを指定してください。

URL リダイレクトを行う場合は、以下の設定を行います。本項目は「外部キャプティブポータルでサインオン」を選択した場合は表示されません。

項目	説明
URL リダイレクト	本機能を有効にするとクライアントが無線 LAN に接続し、ブラウザを表示すると指定された URL へ強制的にリダイレクトされます。キャプティブポータルを有効にしている場合、キャプティブポータルの処理の後に指定された URL に強制的にリダイレクトされます。 <ul style="list-style-type: none">「リダイレクト先 URL」：リダイレクト先の任意の URL を入力します。「リダイレクト間隔」： 強制再リダイレクトを実施する時間間隔（分）を指定します。15（分）に設定すると、15 分おきに指定された URL へ強制的にリダイレクトされます。強制再リダイレクトを無効にする場合には、0 を指定します。0 を指定した場合、一旦 URL リダイレクトが実施されたクライアントは、無線 LAN 接続が切断されるまで通信を行う事ができます。 注意 URL リダイレクトが有効な場合、リダイレクト処理が終了するまでクライアントからの全ての通信は遮断されます。通信が許可されるには、ブラウザを開いてリダイレクト先 URL を閲覧する必要があります。 注意 無線クライアントの OS やバージョンにより、動作が異なる場合があります。

プロファイル - SSID - アクセスコントロールタブ

「アクセスコントロール」タブでは、MACフィルタリングとIPフィルタリングの設定を行います。

設定 / アクセスポイント / プロファイル / DBA-2820P / Nuclias_Office

設定のプッシュ SSID 無線 設定

基本 キャプティブポータル **アクセスコントロール** スケジュール設定 高度な設定

MACフィルタリング ?

MACフィルタリング 有効 無効

フィルタ RADIUSサーバ MACACL

MACACLポリシー 許可 拒否

IPフィルタリング ?

IPフィルタリング 有効 無効

IPACLポリシー 許可 拒否

IPACL名

図 9-13 プロファイル - SSID - アクセスコントロールタブ

第9章 デバイス設定

■ MAC フィルタリング

「MAC フィルタリング」は接続要求のあった無線クライアントを、その MAC アドレスを基準に承認 / 拒否する機能です。本項目では事前に設定した MAC アドレスリストと、その無線クライアントへの動作の設定を行います。

項目	説明
MAC フィルタリング	MAC フィルタリングを使用する場合は「有効」を選択します。
フィルタ	使用する MAC アドレスリストを、Nuclias 上で設定する「MAC ACL」と、RADIUS サーバを使用する「RADIUS サーバ」から選択します。
MAC ACL ポリシ	「フィルタ」で「MAC ACL」を選択した場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none">・「許可」: AC ACL リストに登録された MAC アドレスの無線クライアントのみアクセスが許可され、それ以外の無線クライアントのアクセスは拒否されます。・「拒否」: MAC ACL リストに登録された MAC アドレスの無線クライアントのみアクセスを拒否され、それ以外の無線クライアントのアクセスが許可されます。
MAC ACL 名	「フィルタ」で「MAC ACL」を選択した場合に使用するリストを指定します。「MAC ACL」のリンクをクリックすると、MAC ACL のリストが表示されます。 「MAC ACL の追加」については「 MAC ACL の追加 」を参照してください。
プライマリ RADIUS サーバ セカンダリ RADIUS サーバ	「フィルタ」で「RADIUS サーバ」を選択した場合に表示されます。プルダウンメニューから RADIUS サーバを選択します。「RADIUS サーバ」のリンクをクリックすると、RADIUS サーバのリストが表示されます。「RADIUS サーバの追加」をクリックし、RADIUS サーバを追加することもできます。追加する場合は以下の項目を入力します。 <ul style="list-style-type: none">- 「RADIUS サーバ名」「ホスト」「ポート」「シークレット」「アクセスレベル」

■ IP フィルタリング

「IP フィルタリング」は IP データベースに登録した特定の IP アドレスまたはネットワーク宛ての通信を、許可 / 拒否する機能です。本項目では事前に設定した IP フィルタリングリストと、その IP アドレス宛ての通信の動作設定を行います。

項目	説明
IP フィルタリング	IP フィルタリングを使用する場合は「有効」を選択します。
IP ACL ポリシ	<ul style="list-style-type: none">・「許可」: IP ACL リストに登録された IP アドレス（グループ）宛の通信を許可し、それ以外は破棄します。・「拒否」: IP ACL リストに登録された IP アドレス（グループ）宛の通信を破棄し、それ以外は許可します。
IP ACL 名	使用する IP アドレスリストを指定します。「IP ACL」のリンクをクリックすると、IP ACL のリストが表示されます。「IP ACL の追加」については「 IP ACL の追加 」参照してください。

設定後、ページ下部の「保存」をクリックします。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

プロファイル - SSID - スケジュール設定タブ

「スケジュール設定」タブでは、SSIDのスケジュール設定を行います。指定した曜日、時刻にSSIDが有効になります。初期設定は全曜日終日有効です。

曜日	利用可能状態	から	まで	時刻表示
日曜日	<input checked="" type="radio"/> オン <input type="radio"/> オフ	0:00	24:00	00:00 - 24:00
月曜日	<input checked="" type="radio"/> オン <input type="radio"/> オフ	0:00	24:00	00:00 - 24:00
火曜日	<input checked="" type="radio"/> オン <input type="radio"/> オフ	0:00	24:00	00:00 - 24:00
水曜日	<input checked="" type="radio"/> オン <input type="radio"/> オフ	0:00	24:00	00:00 - 24:00
木曜日	<input checked="" type="radio"/> オン <input type="radio"/> オフ	0:00	24:00	00:00 - 24:00
金曜日	<input checked="" type="radio"/> オン <input type="radio"/> オフ	0:00	24:00	00:00 - 24:00
土曜日	<input checked="" type="radio"/> オン <input type="radio"/> オフ	0:00	24:00	00:00 - 24:00

図 9-14 プロファイル - SSID - スケジュール設定タブ

「テンプレート」でスケジュールのテンプレートを設定し、適用することもできます。

設定後、ページ下部の「保存」をクリックします。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

プロファイル - SSID - 高度な設定タブ

「高度な設定」タブでは、SSIDプロファイルの詳細設定を行います。

クライアント制限 有効 無効

最大クライアント数* 64

クライアントからの最大接続リトライ数* 5

最大上り帯域* 0 Kbps

最大下り帯域* 0 Kbps

最大クライアント上り帯域* 0 Kbps

最大クライアント下り帯域* 0 Kbps

フォワードBonjourパケット 有効 無効

IGMPスヌーピング 有効 無効

最大マルチキャスト帯域* 0 Kbps

RTS閾値* 2347 bytes

強制ローミング* 有効 無効

電波強度しきい値* -70 dBm

低電波強度を許可 有効 無効

弱いRSSI値のクライアントを許可* 1 - 10

図 9-15 プロファイル - SSID - 高度な設定タブ

第9章 デバイス設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
クライアント制限	接続するクライアント数の制限を有効または無効にします。
最大クライアント数	接続するクライアントの最大数を指定します。1-64の間で指定できます。
クライアントからの最大接続リトライ数	最大クライアント数を越えた場合でも、クライアントからの接続を許容するクライアントの接続リトライ回数の条件を0-10(回)の間で指定します。 「0」にした場合、接続しているクライアント数が「最大クライアント数」に達している状態では、それ以上クライアントはSSIDに接続できません。
最大上り帯域	SSIDのアップストリームの最大値を指定します。0-900000(Kbps)で指定できます。
最大下り帯域	SSIDのダウンストリームの最大値を指定します。0-900000(Kbps)で指定できます。
最大クライアント上り帯域	クライアントによるアップストリームの最大値を指定します。0-900000(Kbps)で指定できます。クライアントの帯域設定が有効になった場合、機器の帯域設定より優先されます。SSIDの帯域設定を有効にする場合、本項目を0に設定する必要があります。
最大クライアント下り帯域	クライアントによるダウンストリームの最大値を指定します。0-900000(Kbps)で指定できます。クライアントの帯域設定が有効になった場合、機器の帯域設定より優先されます。SSIDの帯域設定を有効にする場合、本項目を0に設定する必要があります。
フォワード Bonjour パケット	クライアントからの Bonjour パケットフォワーディングの有効/無効を設定します。
IGMP スヌーピング	マルチキャスト接続を構築する IGMP スヌーピングの有効/無効を設定します。
最大マルチキャスト帯域	マルチキャストトラフィックの最大値を指定します。0-900000(Kbps)で指定できます。
RTS 閾値	送信者による RTS プロトコルを使用の際のフレームサイズ (RTS のしきい値) を指定します。主に隠れ端末問題などを解決します。256-2347 (bytes) から指定できます。
強制ローミング	有効にすると、クラウド AP によって認識されているクライアントの信号の強度が設定したしきい値を下回った場合、当該のクライアントはクラウド AP から拒否されます。これによりクライアントにより信号強度の良い他の AP を検出するように促します。 注意 本設定は、クライアントがクラウド AP に接続する際に有効となります。クライアントがクラウド AP に接続後、電波強度が弱まった場合には適用されません。
電波強度しきい値	「強制ローミング」が有効の場合、クライアントが設定されたしきい値を下回った場合に拒否されるしきい値を指定します。-100-0 (dBm) から指定します。
低電波強度を許可	信号強度の弱いクライアントが一定の回数以上 AP への接続を試みた場合に、クライアントと AP 間の接続を許可します。回数の設定は「弱い RSSI 値のクライアントを許可」で行います。
弱い RSSI 値のクライアントを許可	接続には弱い信号強度のクライアントが AP への接続を試みる回数を指定します。1-10 (回) の間で指定します。

設定後、ページ下部の「保存」をクリックします。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

プロファイル-無線

設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で「アクション」欄の「無線」をクリックすると、無線の設定画面が表示されます。

以下のタブについて設定を行います。

- 基本：詳細は「プロファイル-無線-基本タブ」を参照してください。
- チャンネル：詳細は「プロファイル-無線-チャンネルタブ」を参照してください。
- 高度な設定：詳細は「プロファイル-無線-高度な設定タブ」を参照してください。

図 9-16 プロファイル-無線

プロファイル-無線-基本タブ

「無線」の「基本」タブではチャンネルや無線出力の設定を当該のデバイスグループに対し行う事ができます。

デバイスはデュアルバンド、つまり 2.4GHz と 5GHz の帯域から選択することが可能です。選択した操作帯域に基づいたモード選択によりレガシー接続、または 802.11n 接続のみ（または両方）を AP に設定することが可能です。

図 9-17 プロファイル-無線-基本タブ

DBA-2720P の場合は、本画面で「5GHz」のかわりに「5GHz1」「5GHz2」の 2 つの項目が表示されます。

図 9-18 DBA-2720P プロファイル-無線-基本タブ

第9章 デバイス設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
無線バンドの有効	各帯域を有効または無効にします。
無線モード	各帯域の無線モードを選択します。 - 2.4GHz - 「N only」「B/G」「B/G/N」 - 5GHz - 「N only」「A only」「A/N」「A/N/AC」
チャンネル帯域	帯域の無線モードを選択します。 ● DBA-1210P/DBA-2520P/DBA-2620P/DBA-2720P/DBA-3621P の場合： - 2.4GHz - 「20MHz」「20/40MHz(Auto)」 - 5GHz - 「20MHz」「20/40MHz(Auto)」 「20/40/80MHz(Auto)」 ● DBA-2820P の場合： - 2.4GHz - 「20MHz」「20/40MHz(Auto)」 - 5GHz - 「20MHz」「20/40MHz(Auto)」 「20/40/80MHz(Auto)」 「20/40/80+80MHz(Auto)」 「20/40/80/160MHz(Auto)」
送信電波出力	各帯域の送信電波出力をそれぞれ 2-100 (%) で指定します。
SSID 間パーティション	有効にする事で、SSID 間での通信を禁止します。

設定後、ページ下部の「保存」をクリックします。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

プロファイル - 無線 - チャンネルタブ

「チャンネル」タブでは AP に対し自動的に環境内における最適なチャンネルを選択します。

「最適なチャンネル」とは、最小限のノイズと送信ロスを実現する環境のことを意味します。

The screenshot shows the 'Channel' tab in the wireless settings for a DBA-2820P profile. The interface is divided into two main sections: 2.4 GHz and 5 GHz. For each band, there are options to enable or disable 'Auto Channel' (currently both are enabled). Below these are dropdown menus for 'Channel' (set to 1 for 2.4 GHz and 48 for 5 GHz). A 'Available Channels' section displays a grid of channel numbers (1-13 for 2.4 GHz, 36-161 for 5 GHz) with checkboxes to indicate which channels are selected (checked) or not selected (unchecked). At the bottom, there are settings for 'Force Auto Channel Scan' (disabled), 'Auto Channel Interval' (6 minutes), and 'Auto Channel Execution' (Now). Buttons for 'Cancel' and 'Save' are at the bottom right.

図 9-19 プロファイル - 無線 - チャンネルタブ

DBA-2720P の場合は、本画面で「5GHz」のかわりに「5GHz1」「5GHz2」の2つの項目が表示されます。

図 9-20 DBA-2720P プロファイル-無線-チャンネルタブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
オートチャンネル	オートチャンネルを有効または無効に設定します。 オートチャンネルを無効にすると、各帯域（2.4GHz と 5GHz）にチャンネルを選択する項目が表示されるので、それぞれの帯域でチャンネルを手動で選択します。
チャンネル	「オートチャンネル」が有効でない場合に手動でチャンネルを選択します。 5GHz 帯については、日本で使用不可なチャンネル（149, 153, 157, 161）を選択した場合、設定プッシュ時にエラーとなります。
有効チャンネル	オートチャンネル機能で利用するチャンネルを選択します。デフォルトでは、全てのチャンネルが選択された状態となっています。ただし 5GHz 帯は、日本で使用不可なチャンネル（149, 153, 157, 161）には切り替わりません。オートチャンネルで利用するチャンネルは「青地に白色の文字」、利用しないチャンネルは「白地に黒色の文字」で表示されます。数字のマスをクリックすることにより、利用する/しないを切り替えることができます。
強制オートチャンネルスキャン	オートチャンネルを強制的に実行する機能を有効にします。 有効にすると、クライアントが AP に接続している場合でもオートチャンネルが実行されますが、通信に影響が出る場合がありますのでご注意ください。
オートチャンネル間隔	オートチャンネルの実行間隔を指定します。 ・ 設定可能範囲：6-24（時間）
オートチャンネル実行	AP がオートチャンネル有効の状態で作動している状態で「今すぐオートチャンネル実行」をクリックするとオートチャンネルを開始します。 本項目をクリックすると確認画面が表示されるので、実行する場合のネットワークの一時的な停止を考慮し、実行してください。

設定後、ページ下部の「保存」をクリックします。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

注意 DBA-2620P と DBA-2720P において、「有効チャンネル」の設定をアクセスポイントに反映するには以下の手順を実行してください。

- ① 「有効チャンネル」を選択し、「保存」をクリックします。
- ② 「設定のプッシュ」をクリックします。
- ③ 「今すぐオートチャンネル実行」をクリックします。

プロファイル - 無線 - 高度な設定タブ

「高度な設定」タブでは 2.4GHz 帯、5GHz 帯での無線 AP をサポートする高度な設定を行います。スループットや出力に影響する使用環境の設定を行います。

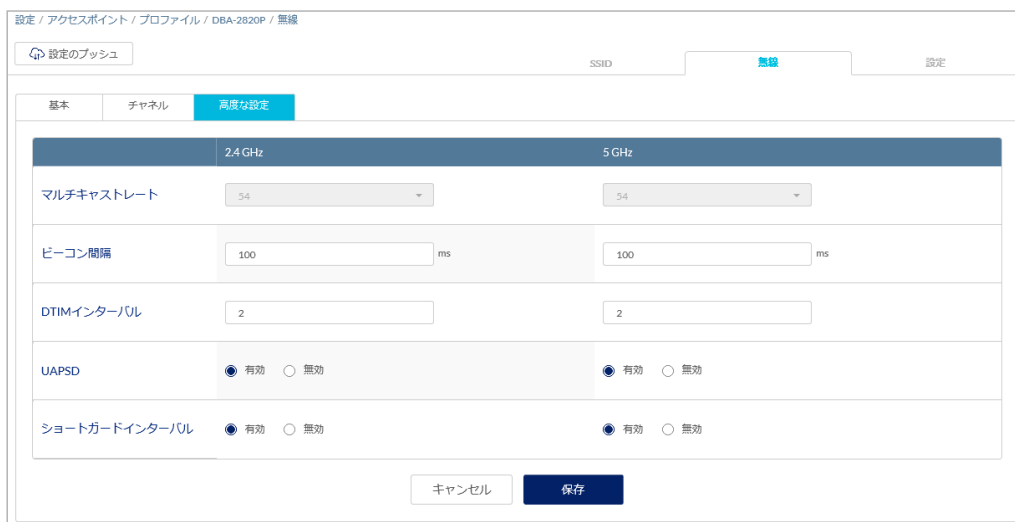


図 9-21 プロファイル - 無線 - 高度な設定タブ

DBA-2720P の場合は、本画面で「5GHz」のかわりに「5GHz1」「5GHz2」の 2 つの項目が表示されます。

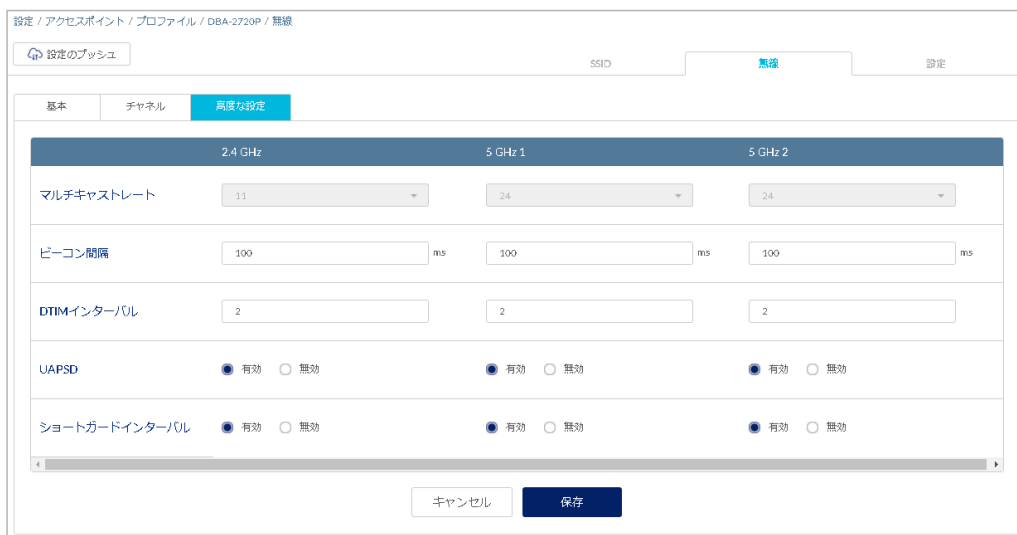


図 9-22 DBA-2720P プロファイル - 無線 - 高度な設定タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
マルチキャストレート	クライアント接続のための最低限のクオリティを指定します。 より少ない数値は接続されているクライアントからのより弱い信号強度を示しています。
ビーコン間隔	ビーコン間隔は、無線レベル（ネットワーク情報を含む 802.11 の管理フレーム）におけるビーコン頻度を示します。 • 設定可能範囲：100 - 3500 (ms)
DTIM インターバル	DTIM インターバルは TIM (Traffic Indication Map) アクセスポイントのバッファされたマルチキャスト/ブロードキャストデータをクライアントに通知します。DTIM インターバルで設定したビーコン頻度にて情報は通知されます。 • 設定可能範囲：1-255
U-APSD	U-APSD を有効または無効に設定します。 U-APSD は「WMM パワーセーブ」としても知られる双方向出力保護のメカニズムです。 音声無線 LAN 機器のショートガードインターバルを保護します。これらの技術は音声通話のような双方向トラフィックにも有効な技術です。
ショートガードインターバル	ショートガードインターバルを有効または無効に設定します。 有効にした場合、データとデータの間に挿入される時間（ガードインターバル）を短くし、データの送信時間が短縮されます。データの干渉がおこりやすくなるため、無効にすることで通信が安定する場合があります。

設定後、ページ下部の「保存」をクリックします。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

プロファイル-設定

設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で「アクション」欄の「管理」をクリックすると、プロキシと IPv6 の設定画面が表示されます。

図 9-23 プロファイル-設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
プロキシ	<p>アクセスポイントを Nuclias サーバに接続する際、プロキシ経由で接続する場合は有効にします。有効にした場合は、プロキシホストとプロキシポートを入力します。</p> <p>注意 本設定は無線 LAN クライアントのインターネット接続には影響を与えません。無線 LAN クライアントをプロキシ経由でインターネットに接続する場合は、無線 LAN クライアントへのプロキシ設定が別途必要となります。</p>
IPv6	アクセスポイントで IPv6 によるローカル設定の有効 / 無効を切り替えます。

設定後、ページ下部の「保存」をクリックします。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

アクセスポイント - デバイス

設定 > アクセスポイント > デバイス を選択し、デバイスに関する設定を実施します。



図 9-24 デバイス

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
チェックボックス	デバイスを選択し「削除」をクリックすると、Nuclias からそのデバイスが削除されます。 注意 デバイスを削除しても、そのデバイスに紐づけられているフリーライセンスは元の組織に残ります。そのため該当デバイスを別の組織に登録する場合、別途ライセンスを用意いただく必要があります。 注意 デバイスを Nuclias から削除すると、そのデバイスに関するイベントログは全て削除されます。そのためイベントログを残しておく必要がある場合は、事前にイベントログをダウンロードしてください。詳細は、第 8 章 モニタ「 アクセスポイント - イベントログ 」を確認してください。
状態	各機器のステータスを以下の色で表示します。 ・ 緑色：オンライン / 赤色：オフライン / 灰色：休止（デバイスが登録済だが、Nuclias に未接続である状態）
デバイス名	Nuclias 上でのデバイス名を表示します。本項目をクリックすると、各デバイスの設定画面へ移行します。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
グローバル IP アドレス	デバイスのグローバル IP アドレスを表示します。
ローカル IP アドレス	デバイス本体に割り振られているローカル IP アドレスを表示します。
モデル名	デバイスのモデル名を表示します。
接続	デバイスの直近のステータスを表示します。緑色がオンライン、赤色がオフラインを表示します。時間帯は、「タイムフレーム」で設定できます。四角形の左端はタイムフレームで設定した日時のうち最も古いときを、右端は現在を指しています。
プッシュ設定状態	Nuclias 上で設定された最新のものがデバイスにも反映されているか表示します。
デバイス UID	デバイスの UID を表示します。
プロファイル	デバイスが紐づいているプロファイルを表示します。
サイト	デバイスが紐づいているサイトを表示します。
サイトタグ	上記のサイトがサイトタグに紐づいている場合、それを表示します。
シリアル番号	デバイスのシリアル番号を表示します。
ファームウェアバージョン	デバイスのファームウェアバージョンを表示します。
ハードウェアバージョン	デバイスハードウェアバージョンを表示します。
最終閲覧	最終閲覧日時を表示します。
ライセンス状態	デバイスに紐づけられているライセンスのステータスを表示します。
登録日	デバイスを Nuclias に登録した日を表示します。
期限日	ライセンスの期限日を表示します。
現在のクライアント	現在デバイスに接続しているクライアント数を表示します。
使用量	デバイスの通信容量を表示します。
チャンネル	デバイス (AP) に設定されているチャンネルを表示します。「2.4G のチャンネル / 5G のチャンネル」が表示されます。
送信電波出力	2.4G の電波出力 / 5G の電波出力を表示します。
LACP	デバイスの LACP の状態を表示します。

■ デバイスの追加

「デバイスの追加」「一括インポート」の詳細については「[インベントリ](#)」の「[デバイスの追加](#)」「[デバイスの一括インポート](#)」を参照してください。

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表内の「接続」欄に表示する期間を設定します。


■ デバイス情報の検索

特定の文字列の入った情報を検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。

■ 表示する項目の選択

 をクリックすると表示できる項目の一覧が表示されます。表示する項目にチェックをいれます。

■ デバイス情報のダウンロード

 をクリックし、デバイスの情報を CSV 形式でダウンロードします。

デバイス - 基本

設定 > アクセスポイント > デバイス 画面でデバイス名をクリックすると、デバイスごとの設定画面に移行します。「基本」タブでは以下の画面が表示されます。

図 9-25 デバイス - 基本

■ デバイス情報

デバイス名、モデル名、デバイス UID、MAC アドレス、シリアル番号、ローカル資格情報、LACP を表示します。デバイス名は変更可能です。

■ サイトとプロファイル

プッシュ設定状態、ファームウェア状態、ファームウェアバージョン、サイト、タイムゾーン、プロファイルが表示されます。サイトとプロファイルはドロップダウンリストから変更できます。

■ IP 接続

IP 接続には以下の項目があります。

項目	説明
タイプ	IP 設定を「DHCP」「Static IP」から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「DHCP」：デバイスは DHCP クライアントとなります。 「Static IP」：以下の項目が設定できるようになります。
ローカル IP アドレス	デバイスの IP アドレスを設定します。
マネジメント VLAN	デバイスのマネジメント VLAN を変更する場合は「有効」を選択します。 有効にすると VLAN モードと VLAN タグを設定する項目が表示されますので、これらを設定します。
グローバル IP アドレス	デバイスのグローバル IP を表示します。
ゲートウェイ	デバイスのゲートウェイを表示します。
DNS サーバ	デバイスの DNS サーバを表示します。
プロキシ	デバイスのプロキシを表示します。

設定後、「適用」をクリックします。

Nuclias 上に設定が保存され、当該デバイスにも即時に設定が反映されます。

デバイス - SSID

「ユーザプロファイル設定」を「有効」または「無効」に設定し、プロファイルの SSID 設定をデバイスに適用するかどうか選択できます。

■ 「有効」を選択した場合：

設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で設定したプロファイルの SSID をデバイスに適用します。

画面右の「プロファイル設定の閲覧」をクリックすると、設定 > アクセスポイント > プロファイルの SSID 設定画面に移行します。

プロファイルの SSID 設定については、「プロファイル - SSID」を参照してください。

■ 「無効」を選択した場合：

設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で設定したプロファイルの SSID を使用しません。本画面で各デバイス専用の SSID を作成できます。

本画面で作成するデバイス専用の SSID は、設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で設定した SSID と比較して機能が制限されます。



図 9-26 デバイス - SSID

■ デバイス固有の SSID を追加する

1. 「ユーザプロファイル設定」を「無効」にします。

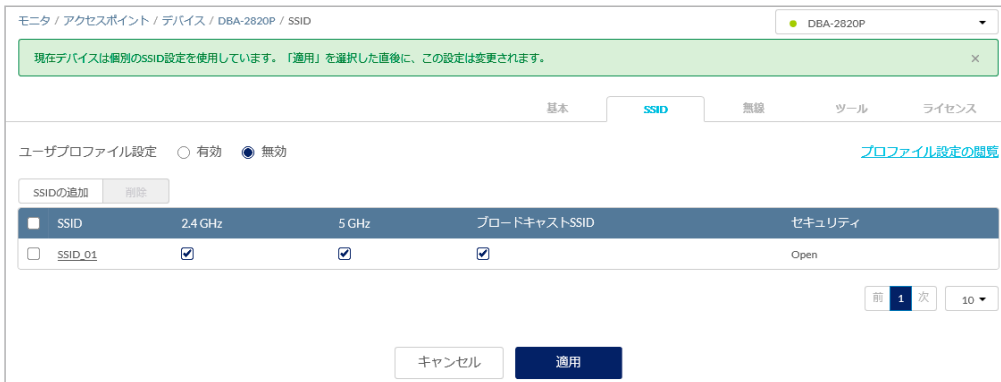


図 9-27 デバイス - SSID (ユーザプロファイル設定無効)

2. 「SSID の追加」をクリックします。
3. SSID 名と使用帯域を設定し、「保存」をクリックします。



図 9-28 SSID の追加

4. 作成した SSID が表示されるので、SSID 名をクリックして設定を行います。

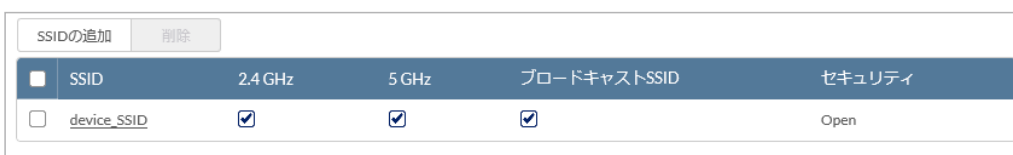


図 9-29 デバイス - SSID 一覧

設定内容については「デバイス - SSID - 基本タブ」「デバイス - SSID - キャプティブポータルタブ」を参照してください。

デバイス - SSID - 基本タブ

「基本」タブでは、デバイス固有の SSID について、基本的な設定を行います。

The screenshot shows the 'Basic' tab of the SSID configuration page. The breadcrumb trail is 'モニタ / アクセスポイント / デバイス / DBA-2820P / SSID / device_SSID'. The 'SSID' tab is selected. The 'Basic' sub-tab is active. The settings are as follows:

- SSID名*:
- セキュリティ: WPA / WPA2
- 認証方式: PSK
- 暗号化: AES
- 事前共有鍵 (PSK)*:
- グループキー更新間隔*: 秒
- ブロードキャストSSID: 有効 無効
- バンド選択: 2.4GHz 5GHz バンドステアリング
- ゲストアクセスモード: 有効 無効
- NATモード: 有効 無効
- VLAN: 有効 無効
- SSID内パーティション: 有効 無効

Buttons at the bottom: キャンセル, 適用

図 9-30 デバイス - SSID - 基本タブ

項目	説明						
SSID 名	SSID 名を指定します。無線ネットワークを識別する 1-32 文字の固有の ID です。 注意 ASCII 印字可能文字表 (https://ja.wikipedia.org/wiki/ASCII) の『ASCII 印字可能文字』に記載されている文字が使用可能です。特殊文字については下記の制限があります。 <table border="1" data-bbox="427 1144 1401 1272"> <thead> <tr> <th>特殊文字</th> <th>制限概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「?」「"」「\$」「[」「\」「]」「+」</td> <td>使用できません。</td> </tr> <tr> <td>「!」「#」「;」</td> <td>使用できますが、『!abcd...』『#abcd...』『;abcd...』のように、先頭で使用することはできません。</td> </tr> </tbody> </table>	特殊文字	制限概要	「?」「"」「\$」「[」「\」「]」「+」	使用できません。	「!」「#」「;」	使用できますが、『!abcd...』『#abcd...』『;abcd...』のように、先頭で使用することはできません。
特殊文字	制限概要						
「?」「"」「\$」「[」「\」「]」「+」	使用できません。						
「!」「#」「;」	使用できますが、『!abcd...』『#abcd...』『;abcd...』のように、先頭で使用することはできません。						
セキュリティ	SSID のセキュリティモードを指定します。選択するセキュリティモードによって指定する項目が異なります。表示される各項目に適切な設定を行います。 セキュリティモードの設定項目については、「 セキュリティモード設定 」を参照してください。						
ブロードキャスト SSID	当該の SSID をブロードキャストする場合、「有効」を選択します。ブロードキャストされた SSID は無線クライアントから識別できます。追加のセキュリティ対応が必要な場合、SSID のブロードキャストは無効になります。本ネットワークに接続する無線クライアントが当該の SSID に確認される必要がある場合、有効です。						
バンド選択	SSID のバンド（帯域）を選択します。「2.4GHz」「5GHz」から選択し、5GHz を優先させる場合は「バンドステアリング」にもチェックを入れます。 DBA-2720P の場合は、「5GHz」のかわりに「5GHz1」「5GHz2」の 2 つの項目が表示されます。						
ゲストアクセスモード	VLAN などの設定を行わずにゲスト用の SSID を設定します。 本機能を有効にすると、下記の機能が自動的に有効になります。 <ul style="list-style-type: none"> プライベート IP アドレスフィルタリング：10.0.0.0/8, 172.16.0.0/12, 192.168.0.0/16 宛ての packets を破棄します。 DHCP サーバ機能：10.229.xx の IP アドレスが帰属端末に割り当てられます。 DNS リレー機能：帰属端末からの DNS パケットをリレーします。 NAT モード：帰属端末からの packets を機器の管理 IP/VLAN に変換します。 SSID 間パーティション：ゲストアクセスモードが設定されている SSID と他の SSID 間の通信を禁止します。 SSID 内パーティション：帰属端末同士の通信を遮断します。 						
NAT モード	本機能を有効にすると、下記の機能が自動的に有効になります。 <ul style="list-style-type: none"> DHCP サーバ機能：10.229.xx の IP アドレスが帰属端末に割り当てられます。「DHCP プールの追加」をクリックし、DHCP プールを作成することも可能です。 DNS リレー機能：帰属端末からの DNS パケットをリレーします。 ゲストアクセスモードを有効にすると、NAT モードも自動的に有効となります。						
VLAN	ネットワークの VLAN を有効にし、「VLAN タイプ」と「VLAN タグ」を指定します。（「VLAN タイプ」と「VLAN タグ」は VLAN 有効時のみ表示されます。）						
SSID 内パーティション	有効にした場合、SSID 内の無線クライアントは互いに通信ができなくなります。						

第9章 デバイス設定

セキュリティモード設定

セキュリティモード「Enhanced Open」または「Enhanced Open + Open」を選択時	
暗号化	「AES」が自動的に選択されます。

セキュリティモード「WPA2」「WPA/WPA2」「WPA3」「WPA2/WPA3」のいずれかを選択時	
認証方式	認証方式を以下から選択します。 - 「PSK」「SAE」「PSK/SAE」「RADIUS」 選択したセキュリティモードによって表示される項目は異なります。
暗号化	暗号化方式を選択します。「AES」「AES/TKIP」から選択します。 セキュリティモードに「WPA3」を選択している場合は、「AES」が自動的に選択され、変更できません。
事前共有鍵 (PSK)	「認証方式」で「PSK」を選択した場合に表示されます。 PSK (Pre-Shared Key/ 事前共有鍵) を以下のルールに従い入力します。 <ul style="list-style-type: none">入力可能文字数：8-63 文字入力可能な文字：ASCII 印字可能文字表 (https://ja.wikipedia.org/wiki/ASCII) の『ASCII 印字可能文字』に記載されている文字 目のアイコンをクリックすると、入力した文字が表示されます。
グループキー更新間隔	グループキーの更新間隔を指定します。
プライマリ RADIUS サーバ セカンダリ RADIUS サーバ	「認証方式」で「RADIUS」を選択した場合に表示されます。プルダウンメニューから RADIUS サーバを選択します。 「RADIUS サーバの追加」をクリックし、RADIUS サーバを追加することもできます。追加する場合は以下の項目を入力します。 <ul style="list-style-type: none">「RADIUS サーバ名」「ホスト」「ポート」「シークレット」「アクセスレベル」

設定後、「適用」をクリックします。

Nuclias 上に設定が保存され、当該デバイスへも即時に設定が反映されます。

デバイス - SSID - キャプティブポータルタブ

「キャプティブポータル」タブでは、デバイス固有の SSID で使用するキャプティブポータルの設定を行います。

図 9-31 デバイス - SSID - キャプティブポータルタブ

キャプティブポータルのタイプを選択すると、それに適応したスプラッシュページをプルダウンから選択できるようになります。新しくスプラッシュページを作成する場合は、「スプラッシュページの編集」をクリックします。

スプラッシュページの編集については「[アクセスポイント - スプラッシュページ編集](#)」を参照してください。

項目	説明
クリックスルー	Nuclias 上で設定するスプラッシュページ上のボタンを押下することで、上位ネットワークとの通信が許可されます。
ベーシックログインページでサインオン	スプラッシュページ上でユーザ ID とパスワードを入力します。 ユーザ ID とパスワードのリストは下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「ローカル認証」：Nuclias 上で設定する ID・パスワードでユーザ認証を行います。 「RADIUS サーバ」：お客様でご用意頂く外部 RADIUS サーバでユーザ認証を行います。 「LDAP サーバ」：お客様でご用意頂く外部 LDAP サーバでユーザ認証を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ● ローカル認証選択時は下記の設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> 「同時ログイン」：同一 ID のログイン申請が複数の無線 LAN クライアントからあった場合、ログインを許可するかどうかを指定します。 ● RADIUS サーバ選択時は下記の設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> 「プライマリ RADIUS サーバ」「セカンダリ RADIUS サーバ」：サーバを指定します。 「RADIUS サーバの追加」をクリックすると追加ウィンドウが表示されます。 以下の項目を入力し、「保存」をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> - 「RADIUS サーバ名」「ホスト」「ポート」「シークレット」「アクセスレベル」 「RADIUS サーバ」のリンクをクリックすると登録されているサーバリストが表示されます。 ● LDAP サーバ選択時は下記の設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> 「プライマリ LDAP サーバ」「セカンダリ LDAP サーバ」：サーバを指定します。 「LDAP サーバの追加」をクリックすると追加ウィンドウが表示されます。 以下の項目を入力し、「保存」をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> - 「LDAP サーバ名」「IP アドレス」「ポート」「BaseDN」「暗号化タイプ」「アクセスレベル」 「LDAP サーバ」のリンクをクリックすると登録されているサーバリストが表示されます。
サードパーティ資格情報でサインオン	スプラッシュページ上で使用する SNS を、「Facebook」「Google」「LINE」「Weibo」から 1 つ以上指定します。 全て指定することも可能です。 無線クライアントは、いずれかの SNS で認証を実施すると上位ネットワークとの通信が許可されます。
ベーシックログイン又はサードパーティ資格情報でサインオン	上記の「ベーシックログイン」と「サードパーティ資格情報」の両方をスプラッシュページに表示します。無線クライアントは、いずれかの認証を実施すると上位ネットワークとの通信が許可されます。

第9章 デバイス設定

項目	説明
SMS 認証でサインオン	<p>SMS 認証を有効にするには、SMS アカウントの設定が必要です。Nuclias は、Twilio サービスを使用して SMS テキストメッセージを受信します。</p> <p>設定内容の詳細は「アドバンスド設定 > SMS 設定」を参照してください。</p> <p>注意 本機能は未サポートです。</p>
E メール認証又はサードパーティ資格情報でサインオン	<p>スプラッシュページ上に「E メール認証」と「サードパーティ資格情報」の両方を表示します。</p> <p>無線クライアントは、いずれかの認証を実施すると、上位ネットワークとの通信が許可されます。</p> <p>メール認証ではメールアドレスを入力すると、一時的に上位ネットワークとの通信が可能になりますので、その間に認証用メールを受信し、認証を実施します。</p> <p>メール認証を有効にするために以下の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「許容時間」：E メール認証で、無線利用者が認証メールを要求後、メール受信や認証を行うために一時的にインターネットに接続できる時間を設定します。 「認証回数」：E メール認証で、1 日の中で何回認証メールを要求できるかを指定します。 「拒否時間」：無線利用者が認証用メールを要求後、「許容時間」で設定した時間内に認証が行われなかった場合、認証用メールの再要求を本項目で指定した時間拒否します。 <p>注意 SNS 認証機能（Facebook、Google、LINE、Weibo）の場合、「同時ログイン」項目の設定に関わらず同時ログインが有効になっています。</p>
外部キャプティブポータルでサインオン	<p>認証に外部キャプティブポータルを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オプション」：外部キャプティブポータルを選択します。 「スプラッシュページ URL」：スプラッシュページの URL を入力します。 <p>● RADIUS サーバ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プライマリ RADIUS サーバ」「セカンダリ RADIUS サーバ」：サーバを指定します。 「RADIUS サーバの追加」をクリックすると追加ウィンドウが表示されます。 以下の項目を入力し、「保存」をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> 「RADIUS サーバ名」「ホスト」「ポート」「シークレット」「アクセスレベル」 「RADIUS サーバ」のリンクをクリックすると登録されているサーバリストが表示されます。 「プライマリ アカウンティングサーバ」「セカンダリ アカウンティングサーバ」：アカウンティングサーバを指定します。

「セッションタイムアウト」「アイドルタイムアウト」の項目では、全ての認証タイプにおいて、どのくらいの時間接続を許可するかを指定します。

項目	説明
セッションタイムアウト	<p>無線クライアントがログイン成功後、何分間接続できるかを指定します。</p> <p>セッションタイムアウトが過ぎると、再度ログインが必要になります。</p>
アイドルタイムアウト	<p>無線クライアントが指定した時間（分）連続して通信しない場合、自動的にログアウトの状態にします。</p> <p>セッションタイムアウトより短い時間を入力してください。</p>

キャプティブポータルのタイプを「クリックスルー」以外に設定した場合は、ワールドガーデンの項目が表示されます。

項目	説明
ワールドガーデン	<p>ワールドガーデンを選択します。</p> <p>ワールドガーデンを追加する場合は「ワールドガーデンの追加」をクリックし、設定を行います。詳細は「アクセスポイント - ワールドガーデン」を参照してください。</p> <p>注意 ワールドガーデンでは、「http」のページにはアクセスできません。</p> <p>「https」でアクセスできるページを指定してください。</p>

URL リダイレクトを行う場合は、以下の設定を行います。本項目は「外部キャプティブポータルでサインオン」を選択した場合は表示されません。

項目	説明
URL リダイレクト	<p>本機能を有効にするとクライアントが無線 LAN に接続し、ブラウザを表示すると指定された URL へ強制的にリダイレクトされます。キャプティブポータルを有効にしている場合、キャプティブポータルの処理の後に指定された URL に強制的にリダイレクトされます。</p> <ul style="list-style-type: none">・「リダイレクト先 URL」：リダイレクト先の任意の URL を入力します。・「リダイレクト間隔」： 強制再リダイレクトを実施する時間間隔（分）を指定します。15（分）に設定すると、15 分おきに指定された URL へ強制的にリダイレクトされます。強制再リダイレクトを無効にする場合には、0 を指定します。0 を指定した場合、一旦 URL リダイレクトが実施されたクライアントは、無線 LAN 接続が切断されるまで通信を行う事ができません。 <p>注意 URL リダイレクトが有効な場合、リダイレクト処理が終了するまでクライアントからの全ての通信は遮断されます。通信が許可されるには、ブラウザを開いてリダイレクト先 URL を閲覧する必要があります。</p> <p>注意 無線クライアントの OS やバージョンにより、動作が異なる場合があります。</p>

設定後、「適用」をクリックします。

Nuclias 上に設定が保存され、当該デバイスへも即時に設定が反映されます。

デバイス - 無線

「ユーザプロファイル設定」を「有効」または「無効」に設定し、プロファイルの無線設定をデバイスに適用するかどうか選択できます。

■ 「有効」を選択した場合：

設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で設定したプロファイルの無線設定をデバイスに適用します。

画面右の「プロファイル設定の閲覧」をクリックすると、設定 > アクセスポイント > プロファイルの無線設定画面に移行します。

プロファイルの無線設定については、「[プロファイル-無線](#)」を参照してください。

■ 「無効」を選択した場合：

設定 > アクセスポイント > プロファイル画面で設定したプロファイルの無線設定を使用しません。

本画面でデバイスごとに無線設定を行います。

このスクリーンショットは、DBA-2720Pの無線設定画面を示しています。タブは「無線」で、サブタブは「5 GHz」です。ユーザプロファイル設定は「無効」に設定されています。無線モードは「A/N/A/C」、チャンネル幅は「20/40 MHz (Auto)」、送信電力量出力は「100%」、オートチャンネルは「有効」、チャンネルは「36」に設定されています。有効チャンネルのグリッドでは、36, 40, 44, 48, 52, 56, 60, 64, 100, 104, 108, 112, 116, 120が選択されています。サイトは「Japan」に設定されています。

図 9-32 デバイス - 無線

DBA-2720P の場合は、本画面で「5GHz」のかわりに「5GHz1」「5GHz2」の2つの項目が表示されます。

このスクリーンショットは、DBA-2720Pの無線設定画面を示しています。タブは「無線」で、サブタブは「5 GHz 1」と「5 GHz 2」です。ユーザプロファイル設定は「無効」に設定されています。無線モードは「A/N/A/C」、チャンネル幅は「20/40 MHz (Auto)」、送信電力量出力は「100%」、オートチャンネルは「有効」、チャンネルは「36」に設定されています。有効チャンネルのグリッドでは、36, 40, 44, 48, 52, 56, 60, 64, 100, 104, 108, 112, 116, 120, 124が選択されています。サイトは「Japan」に設定されています。

図 9-33 DBA-2720P デバイス - 無線

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
無線バンドの有効	各帯域を「有効」または「無効」にします。
無線モード	各帯域の無線モードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - 2.4GHz - 「N only」「B/G」「B/G/N」 - 5GHz - 「N only」「A only」「A/N」「A/N/AC」
チャンネル帯域	帯域の無線モードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● DBA-1210P/DBA-2520P/DBA-2620P/DBA-2720P/DBA-3621P の場合： <ul style="list-style-type: none"> - 2.4GHz - 「20MHz」「20/40MHz(Auto)」 - 5GHz - 「20MHz」「20/40MHz(Auto)」 「20/40/80MHz(Auto)」 ● DBA-2820P の場合： <ul style="list-style-type: none"> - 2.4GHz - 「20MHz」「20/40MHz(Auto)」 - 5GHz - 「20MHz」「20/40MHz(Auto)」 「20/40/80MHz(Auto)」 「20/40/80+80MHz(Auto)」 「20/40/80/160MHz(Auto)」
送信電波出力	各帯域の送信電波出力をそれぞれ「2-100」(%)で指定します。
オートチャンネル	オートチャンネルの有効/無効を切り替えます。 オートチャンネルを無効にすると、各帯域(2.4GHzと5GHz)にチャンネルを選択する項目が表示されるので、それぞれの帯域でチャンネルを手動で選択します。
チャンネル	オートチャンネルが無効の場合に手動でチャンネルを選択します。 5GHz帯について日本で使用不可なチャンネル(149, 153, 157, 161)を選択すると、設定適用時にエラーとなります。
有効チャンネル	オートチャンネル機能で利用するチャンネルを選択します。デフォルトでは、全てのチャンネルが選択された状態となっています。ただし5GHz帯は、日本で使用不可なチャンネル(149,153,157,161)には切り替わりません。オートチャンネルで利用するチャンネルは「青地に白色の文字」、利用しないチャンネルは「白地に黒色の文字」で表示されます。数字のマスをクリックすることにより、利用する/しないを切り替えることができます。
サイト	サイトを表示します。
強制オートチャンネルスキャン	オートチャンネルを強制的に実行する機能を有効にします。 有効にすると、クライアントがAPに接続している場合でもオートチャンネルが実行されますが、通信に影響が出る場合がありますのでご注意ください。
オートチャンネル間隔	オートチャンネルの実行間隔を指定します。1時間単位で、6-24(時間)の範囲で設定できます。
オートチャンネル実行	APがオートチャンネル有効の状態で作動している状態で「今すぐオートチャンネル実行」をクリックするとオートチャンネルを開始します。 本項目をクリックすると確認画面が表示されるので、実行する場合のネットワークの一時的な停止を考慮し、実行してください。
SSID間パーティション	有効にする事で、SSID間での通信を禁止します。

設定後、「適用」をクリックします。

Nuclias上に設定が保存され、当該デバイスへも即時に設定が反映されます。

第9章 デバイス設定

デバイス - ツール

本項目ではデバイスと Nuclias の接続の確認と、デバイスの再起動を行います。

デバイスに対し「Ping」や「TRACEROUTE」などの診断ツールを使用して接続性を確認することができます。

また、LED の点滅により、デバイスが Nuclias からの操作に対応しているか確認できます。

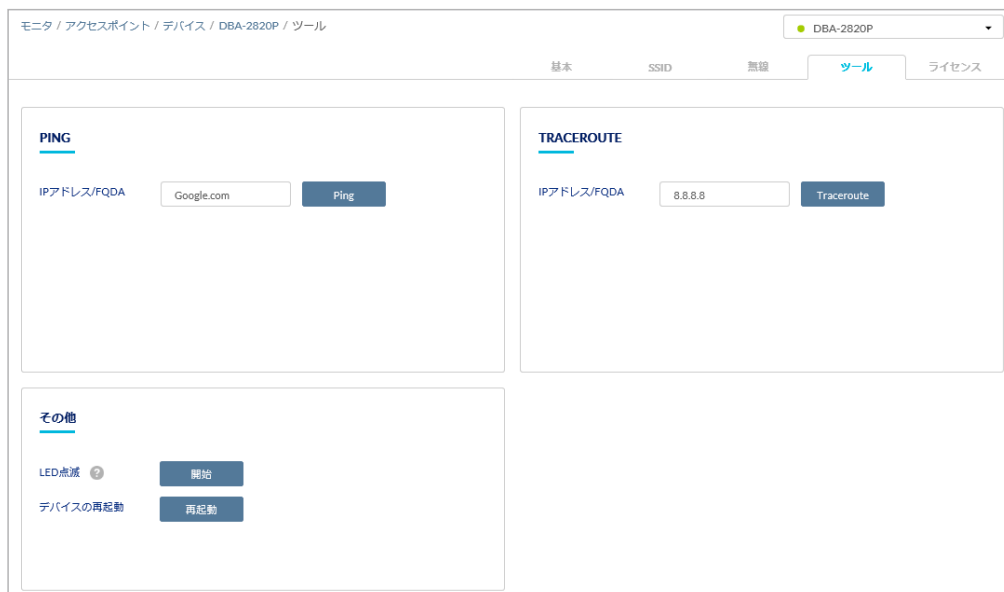


図 9-34 デバイス - ツール

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
PING	Ping を実行します。IP アドレスかドメイン名を入力し実行をクリックします。 指定のデバイスに対する接続性を確認することが可能です。
TRACEROUTE	Traceroute を実行します。経路を確認する宛先デバイスの IP アドレスかドメイン名を入力し実行をクリックします。宛先デバイスに対し Traceroute が実行され、デバイスも応答します。Traceroute の出力は宛先ピアにコ ンタクトするデバイスのネットワーク経路を表示します。
その他	<ul style="list-style-type: none">● LED 点滅 「開始」をクリックすると当該デバイスの LED が赤色で点滅を開始します。 「停止」をクリックすると当該デバイスの LED の点滅が停止します。点滅する LED は以下の通りです。<ul style="list-style-type: none">• DBA-1210P：ステータス LED• DBA-2520P：Power/Cloud LED• DBA-2620P：Power/Cloud LED• DBA-2720P：Power/Cloud LED• DBA-2820P：Power/Cloud LED• DBA-3621P：Power/Cloud LED● デバイスの再起動 「再起動」をクリックし、確認ウィンドウで再度「再起動」をクリックするとデバイスは再起動します。

注意

本機能の使用にはデバイスと接続するルータや Firewall で「ICMP プロトコル」が許可されている必要があります。

デバイス - ライセンス

デバイスに紐づけられているライセンスの情報を表示します。
ライセンスを追加し、使用期間を延長することもできます。



図 9-35 デバイス - ライセンス

各項目は以下の通りです。

項目	説明
ライセンス状態	ライセンスが有効状態かを表示します。
ライセンス開始日	ライセンスが有効になった日付を表示します。
ライセンス期限日	ライセンスの有効期限と、残りの有効期間を表示します。
ライセンス表	紐づけられているライセンスの状態を表示します。 「ライセンスの追加」をクリックし、表示されるウィンドウからライセンスの追加ができます。

■ ライセンスの追加

デバイスにライセンスを追加します。

1. 「ライセンスの追加」をクリックします。



図 9-36 ライセンスの追加

2. ライセンスキーを入力し、「保存」をクリックします。

■ ライセンスの削除

デバイスのライセンスを削除します。

ライセンスの削除は、1台のAPに2つ以上のライセンスが紐づけられている場合に実行できます。

1台のAPに2つ以上のライセンスが紐づけられている場合、1つのライセンスが使用中となり、それ以外のライセンスは未使用の状態となります。
未使用のライセンスをAPから除外し、別のAPに紐づけたい場合などに使用します。

1. 「アクション」欄で「削除」アイコンをクリックします。
2. 確認画面で「はい」をクリックします。

アクセスポイント - IP ACL

本項目は、IP フィルタリング機能で使用する IP アドレス・ネットワークの作成・管理のために使用します。

IP フィルタリング機能（SSID 設定）を有効にすることで、IP データベースに登録した IP アドレス、ネットワーク宛での通信を、許可・拒否する事が可能になります。

設定 > アクセスポイント > IP ACL をクリックし、以下の画面を表示します。

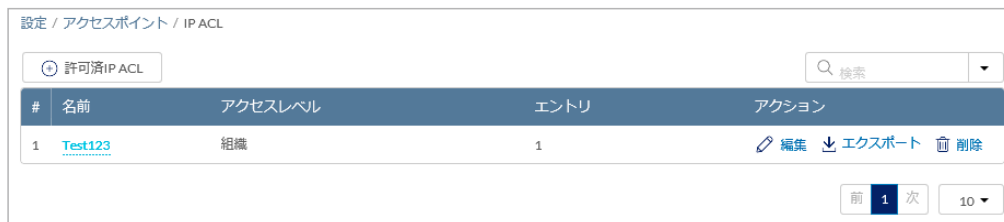


図 9-37 アクセスポイント - IP ACL

■ IP ACL の追加

1. 「許可済 IP ACL」をクリックし、以下の画面で設定を行います。



図 9-38 IP アドレスの追加

- ・「IP ACL 名」：リスト名を入力します。
- ・「アクセスレベル」：「組織」「サイトタグ」「サイト」から選択します。
- ・「IP アドレスの追加」：
手入力をする場合は「IP アドレスの追加」欄に情報を記入します。複数入力する場合は「+追加」アイコンをクリックし、枠を増やします。
- ・「一括インポート」：
CSV ファイルで複数の IP アドレスをインポートする場合は、「一括インポート」をクリックし、ファイルを読み込みます。
記載方法の参考のために、CSV ファイルのサンプルをダウンロードすることもできます。

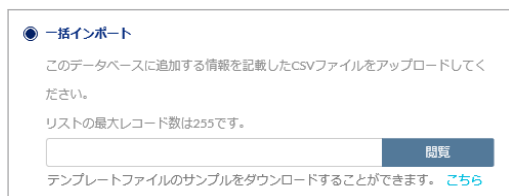


図 9-39 IP ACL の一括インポート

2. 「保存」をクリックし、IP ACL を追加します。

■ IP ACL の編集

1. 登録済みの IP アドレスを変更する場合は右側の鉛筆アイコンをクリックし、以下の画面で設定を行います。

#	IPアドレス	サブネットマスク	アクション
1	192.168.10.6	255.255.255.0	
2	192.168.10.5	255.255.255.0	

図 9-40 IP ACL の更新

削除する場合は「アクション」欄のごみ箱アイコンをクリックします。

2. 設定後、保存をクリックします。

■ IP ACL のエクスポート

1. 設定 > アクセスポイント > IP ACL 画面で、「アクション」欄の「エクスポート」をクリックします。
2. 登録されている IP アドレス一覧が CSV ファイルでエクスポートされます。

■ IP ACL の削除

IP ACL をリストごと削除します。

1. 設定 > アクセスポイント > IP ACL 画面で、「アクション」欄の「削除」をクリックします。
2. 表示される確認メッセージで「はい」をクリックします。
但し SSID に紐づけられているリストは削除できません。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

アクセスポイント - MAC ACL

本項目は、MAC アドレス フィルタリング機能で使用する MAC アドレスの作成・管理のために使用します。MAC フィルタリング機能 (SSID 設定) を有効にすることで、MAC アドレスデータベースに登録した MAC アドレスからの通信を、許可・拒否する事が可能になります。

設定 > アクセスポイント > MAC ACL をクリックし、以下の画面を表示します。



図 9-41 アクセスポイント - MAC ACL

■ MAC ACL の追加

1. 「許可済 MAC ACL」をクリックし、以下の画面で設定を行います。



図 9-42 MAC ACL の追加

- ・「MAC ACL 名」：リスト名を入力します。
- ・「アクセスレベル」：「組織」「サイトタグ」「サイト」から選択します。
- ・「MAC アドレスの追加」：MAC アドレスを手入力する場合は「MAC アドレスの追加」欄に情報を記入します。複数入力する場合は「+追加」アイコンをクリックし、枠を増やします。
- ・「一括インポート」：CSV ファイルで複数の MAC アドレスをインポートする場合は、「一括インポート」をクリックし、ファイルを読み込みます。記載方法の参考のために、CSV ファイルのサンプルをダウンロードすることもできます。

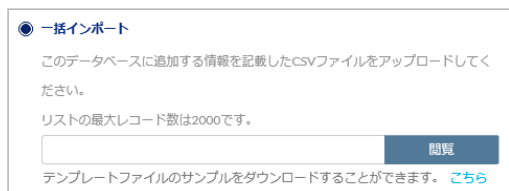


図 9-43 MAC ACL の一括インポート

2. 「保存」をクリックし、MAC ACL を追加します。

■ MAC ACL の編集

登録済みの MAC ACL を編集します。

1. 「アクション」欄の鉛筆アイコンをクリックし、以下の画面で編集を行います。

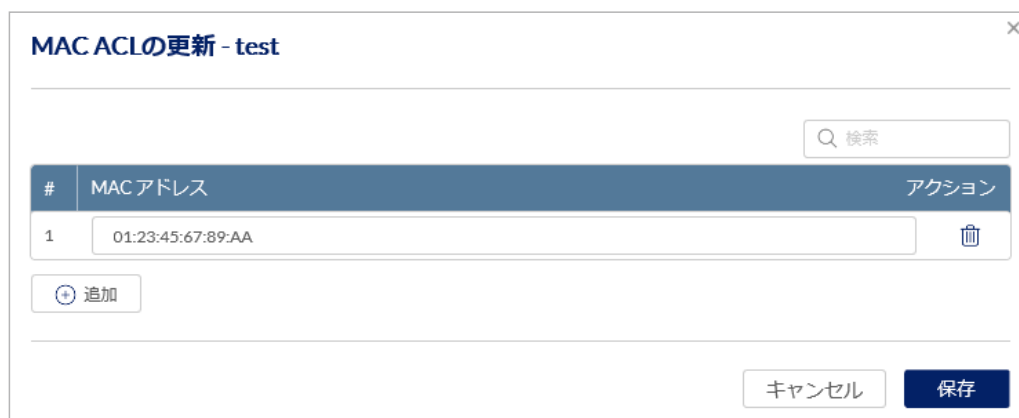


図 9-44 MAC ACL の更新

削除する場合は「アクション」欄のごみ箱アイコンをクリックします。

2. 設定後、「保存」をクリックします。

■ MAC ACL のエクスポート

1. **設定 > アクセスポイント > MAC ACL** 画面で、「アクション」欄の「エクスポート」をクリックします。
2. 登録されている IP アドレス一覧が CSV ファイルでエクスポートされます。

■ MAC ACL の削除

MAC ACL をリストごと削除します。

1. **設定 > アクセスポイント > MAC ACL** 画面で、「アクション」欄の「削除」をクリックします。
2. 表示される確認メッセージで「はい」をクリックします。
但し SSID に紐づけられているリストは削除できません。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

アクセスポイント - ローカル認証 DB

本項目は、キャプティブポータル ローカルデータベース 認証のために使用します。

キャプティブポータル ローカル DB 認証を有効にすると、本項目で設定した「ユーザID」「パスワード」で、キャプティブポータルでのユーザ認証を行う事ができます。外部 RADIUS サーバの設置をしなくてもキャプティブポータルのユーザ認証を行う事ができます。

本項目で設定された「ユーザID」「パスワード」は AP に転送され、AP がローカルでユーザ認証を行うため Nuclias と通信ができない状態でも、キャプティブポータルを利用する事ができます。

設定 > アクセスポイント > ローカル認証 DB を選択します。

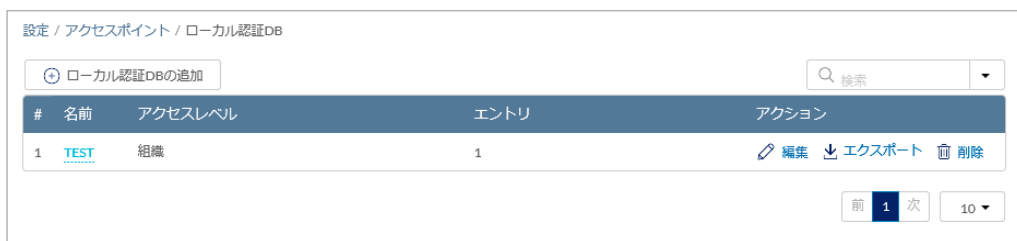


図 9-45 アクセスポイント - ローカル認証 DB

■ ローカル認証 DB リストの追加

1. 「ローカル認証 DB の追加」をクリックし、以下の画面で設定を行います。



図 9-46 ローカル認証 DB の追加

- 「ローカル認証名」：リスト名を入力します。
- 「アクセスレベル」：「組織」「サイトタグ」「サイト」から選択します。
- 「ローカル認証 DB の追加」：
ユーザ名 / パスワードを手入力する場合は「ローカル認証 DB の追加」欄に情報を記入します。「+追加」アイコンをクリックすることで、追加の枠を作成できます。
- 「一括インポート」：
CSV ファイルで複数のローカルユーザ情報をインポートする場合は、「一括インポート」をクリックし、ファイルを読み込みます。
記載方法の参考のために、CSV ファイルのサンプルをダウンロードすることもできます。

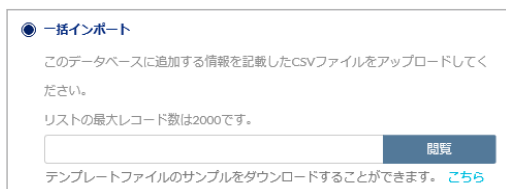


図 9-47 ローカル認証 DB リストの一括インポート

2. 「保存」をクリックし、ローカル認証 DB リストを追加します。

■ ローカル認証 DB リストの編集

登録済みのローカル認証 DB リストを編集します。

1. 「アクション」欄の鉛筆アイコンをクリックし、以下の画面で編集を行います。

The screenshot shows a dialog box titled "ローカル認証DBの更新 - TEST". At the top right is a search bar with the text "検索". Below it is a table with the following structure:

#	ユーザ名	パスワード	アクション
1	test	●●●●●●	 

Below the table is a button labeled "追加" (Add). At the bottom right are two buttons: "キャンセル" (Cancel) and "保存" (Save).

図 9-48 ローカル認証 DB の更新

削除する場合は「アクション」欄のごみ箱アイコンをクリックします。

2. 設定後、「保存」をクリックします。

■ ローカル認証 DB リストのエクスポート

1. **設定 > アクセスポイント > ローカル認証 DB リスト**画面で「アクション」欄の「エクスポート」をクリックします。
2. 登録されているローカル認証 DB リストが CSV ファイルでエクスポートされます。

■ ローカル認証 DB リストの削除

ローカル認証 DB をリストごと削除します。

1. **設定 > アクセスポイント > ローカル認証 DB**画面で「アクション」欄の「削除」をクリックします。
2. 表示される確認メッセージで「はい」をクリックします。但し SSID に紐づけられているリストは削除できません。

デバイスへの設定の適用には「設定のプッシュ」を行う必要があります。

アクセスポイント - LDAP サーバ

本画面には、認証に使用する LDAP サーバが表示されます。また、LDAP サーバの追加、編集、削除を実行できます。

設定 > アクセスポイント > LDAP サーバを選択します。

以下の画面に LDAP サーバが表示されます。

#	名前	アクセスレベル	IPアドレス	ポート	Base DN	暗号化	アクション
1	LDAPサーバ	組織	10.90.90.90	389	ou=dlink	無効	編集 削除

図 9-49 アクセスポイント - LDAP サーバ

■ LDAP サーバの追加

1. 「LDAP サーバの追加」をクリックします。

LDAPサーバの追加

LDAPサーバ名*
1-64文字

IPアドレス*
例 10.90.90.90

ポート*
389

Base DN*
例 ou=dlink, dc=nuclias, dc=com

暗号化
無効

アクセス制限
アクセスレベル
組織

閉じる 保存

図 9-50 LDAP サーバの追加

2. 以下の項目を入力後、「保存」をクリックします。

- 「LDAP サーバ名」
- 「IP アドレス」
- 「ポート」
- 「Base DN」
- 「暗号化」
- 「アクセスレベル」

■ LDAP サーバの編集

1. 「アクション」欄の「編集」をクリックします。

LDAPサーバの更新

LDAPサーバ名*
LDAPサーバ

IPアドレス*
10.90.90.90

ポート*
389

Base DN*
ou=dlink

暗号化
無効

アクセス制限
アクセスレベル
組織

閉じる 保存

図 9-51 LDAP サーバの更新

2. 設定後、「保存」をクリックします。

■ LDAP サーバの削除

「アクション」欄の「削除」をクリックし、確認画面で「はい」をクリックします。

アクセスポイント - RADIUS サーバ

本画面には、認証に使用する RADIUS サーバが表示されます。また、RADIUS サーバの追加、編集、削除を実行できます。

設定 > アクセスポイント > RADIUS サーバを選択します。

以下の画面に RADIUS サーバが表示されます。

#	名前	アクセスレベル	ホスト	ポート	シークレット	アクション
1	RADIUSサーバ	組織	10.90.90.90	65535	*****	編集 削除

図 9-52 アクセスポイント - RADIUS サーバ

■ RADIUS サーバの追加

1. 「RADIUS サーバの追加」をクリックします。

図 9-53 RADIUS サーバの追加

2. 以下の項目を入力後、「保存」をクリックします。

- 「RADIUS サーバ名」
- 「ホスト」
- 「ポート」
- 「シークレット」
- 「アクセスレベル」

■ RADIUS サーバの編集

1. 「アクション」欄の「編集」をクリックします。

図 9-54 RADIUS サーバの更新

2. 設定後、「保存」をクリックします。

■ RADIUS サーバの削除

「アクション」欄の「削除」をクリックし、確認画面で「はい」をクリックします。

アクセスポイント - スプラッシュページ編集

本項目では初期設定で作成されているスプラッシュページを確認できます。
また、新しくスプラッシュページを作成し追加することも可能です。追加したスプラッシュページは編集または削除することができます。

設定 > アクセスポイント > スプラッシュページ編集を選択します。

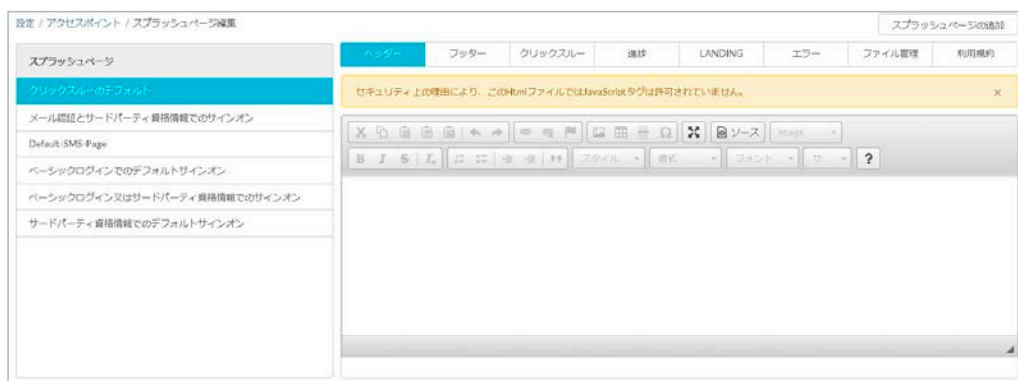


図 9-55 アクセスポイント - スプラッシュページ編集

初期設定で、各キャプティブポータルに対応したスプラッシュページが作成されています。
これらのスプラッシュページは編集・削除できません。

■ スプラッシュページの追加

1. 「スプラッシュページの追加」をクリックし、下記のウィンドウを表示します。



図 9-56 スプラッシュページの追加

2. スプラッシュページの名前、タイプ、ページの背景イメージ画像を設定し、「保存」をクリックします。

3. 下記の通りスプラッシュページが作成されます。



図 9-57 スプラッシュページ一覧

■ スプラッシュページの削除

作成したスプラッシュページのごみ箱アイコンをクリックします。

■ スプラッシュページの編集

ユーザが作成したスプラッシュページは編集することができます。

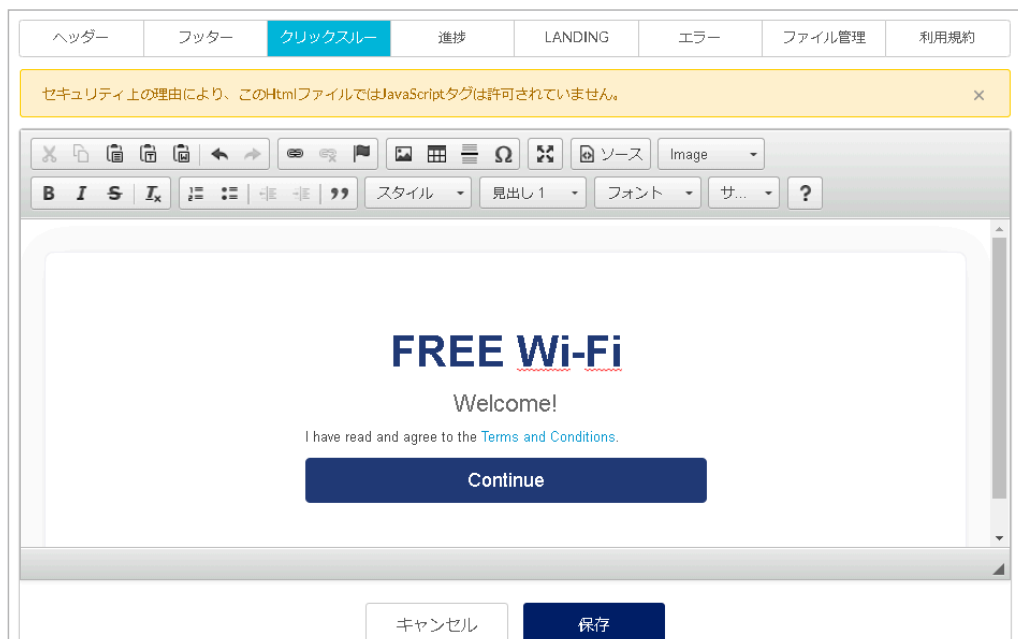


図 9-58 スプラッシュページ編集

スプラッシュページの編集項目は下記の通りです。

項目	説明
各タブについて（ファイル管理以外）	<p>「スプラッシュページ編集ボックス」に表示される各タブの対象ページについて説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ヘッダー」：スプラッシュページのヘッダー部分を作成、編集します。 「フッター」：スプラッシュページのフッター部分を作成、編集します。 「クリックスルー」：スプラッシュページのクリックスルーページを作成、編集します。 「進捗」：スプラッシュページのログイン中のページを作成、編集します。 「LANDING」：スプラッシュページのログイン後に表示されるページを作成、編集します。 「エラー」：スプラッシュページのエラー画面を作成、編集します。 「ファイル管理」：スプラッシュページに使用する画像ファイルが表示されます。画像のアップロードと削除を行うことができます。 「利用規約」：スプラッシュページの利用規約の画面を確認します。
	スプラッシュページ編集時に「切り取り」「コピー」「貼り付け」「プレーンテキストとして貼り付け」「ワード文章から貼り付け」「元に戻す」「やり直す」などの設定を行うツールボックスです。
	スプラッシュページ編集時に「リンク挿入 / 編集」「リンク削除」「アンカー挿入 / 編集」などの設定を行うツールボックスです。
	スプラッシュページ編集時に「イメージ」「表」「水平線」「特殊文字を挿入」などの設定を行うツールボックスです。
	スプラッシュページ編集時に「最大化」の設定を行うツールボックスです。
	スプラッシュページ編集画面の「ソース」化を行うツールボックスです。HTML タグでスプラッシュページを編集・作成します。スプラッシュページの編集の際には、ソースを直接編集する事を推奨しています。
	スプラッシュページ編集時に「イメージ」の追加を行うツールボックスです。
	スプラッシュページ編集時に「太字」「斜体」「打消し線」「書式を解除」などの設定を行うツールボックスです。
	スプラッシュページ編集時に「番号付きリスト」「番号なしリスト」「インデント解除」「インデント」「ブロック引用文」などの設定を行うツールボックスです。
	スプラッシュページ編集時に「スタイル」「フォント」「フォントサイズ」などの設定を行うツールボックスです。
	使用している HTML エディタについての情報を表示します。

設定後、ページ下部の「保存」をクリックします。

第9章 デバイス設定

■ ファイル管理

「ファイル管理」では、キャプティブポータルに対応しているサーバに新しいスプラッシュページ用のファイルをアップロードすることができます。



図 9-59 ファイル管理

項目	説明
ファイル管理	スプラッシュページに使用する画像ファイルを管理します。 「Action」欄のごみ箱アイコンをクリックすると、画像を削除できます。 <ul style="list-style-type: none">「File name」: スプラッシュページに使用しているファイルを表示します。ファイル名の右端のごみ箱アイコンをクリックすると当該ファイルを削除します。「Upload a file」: スプラッシュページに使用するファイルをアップロードします。「Action」: ゴミ箱アイコンをクリックし、ファイルを削除します。

■ 利用規約

項目	説明
利用規約	無線クライアントがキャプティブポータルの SSID に接続した際に閲覧する利用規約を確認できます。

アクセスポイント - ウォールドガーデン

ウォールドガーデンでは、キャプティブポータルが設定された SSID にアクセスしたユーザが、キャプティブポータルの認証なしでアクセスできるホスト名または IP アドレスを指定します。キャプティブポータルでの認証が完了していないユーザは指定したホスト名または IP アドレスにのみアクセス可能となるため、認証されていないユーザのインターネットへのアクセスを制限できます。

注意 ウォールドガーデンでは、「http」のページにはアクセスできません。
「https」でアクセスできるページを指定してください。

ウォールドガーデンを使用するには、以下の設定を行います。

- ① **設定 > アクセスポイント > ウォールドガーデン**画面で、ユーザが認証なしでアクセスできるページのホスト名または IP アドレスを設定します。
- ② キャプティブポータルでウォールドガーデンを有効にします。
キャプティブポータルで「クリックスルー」を選択した場合はウォールドガーデンを使用できません。

参照 キャプティブポータルの設定については、「[プロファイル - SSID - キャプティブポータルタブ](#)」及び「[デバイス - SSID - キャプティブポータルタブ](#)」を参照してください。

設定 > アクセスポイント > ウォールドガーデンを選択します。

以下の画面に設定したウォールドガーデンが表示されます。

設定 / アクセスポイント / ウォールドガーデン		
<input type="button" value="ワールドガーデンの追加"/>		<input type="text" value="検索"/>
#	名前	アクション
1	ワールドガーデン	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>

前 1 次 10 ▼

図 9-60 アクセスポイント - ウォールドガーデン

■ ウォールドガーデンの追加

1. 「ウォールドガーデンの追加」をクリックします。

ワールドガーデンの追加

ワールドガーデン名
1-64文字

ワールドガーデンレンジの追加
レンジ#1*
ホストネームまたは10.90.0.0/16

図 9-61 ウォールドガーデンの追加

2. 以下の項目を入力後、「保存」をクリックします。
 - 「ワールドガーデン名」：ワールドガーデンの名前を 1-64 文字で入力します。
 - 「レンジ」：ワールドガーデンの範囲をホスト名または IP アドレスで入力します。
キャプティブポータルで未認証のユーザは、ここで設定した範囲のホスト名または IP アドレスにのみアクセスできます。
欄を追加する場合は「追加」をクリックします。

■ ウォールドガーデンの編集

1. 「アクション」欄の「編集」をクリックします。



図 9-62 ウォールドガーデンの更新

2. 削除する場合は右側のごみ箱アイコンをクリックします。
3. 設定後、「保存」をクリックします。

■ ウォールドガーデンの削除

1. 設定 > アクセスポイント > ウォールドガーデン画面で「アクション」欄の「削除」をクリックします。
2. 確認画面で「はい」をクリックします。

第 10 章 レポート

- 変更ログ
- アクセスポイント
- アラート
- ライセンス (レポート)

変更ログ

設定変更のログを表示します。

レポート > 変更ログを選択してください。

#	時刻 (UTC:協定世界時)	アカウント	サイト	プロファイル	SSID	ページ	デバイス名	ラベル	古い値	新しい値
1	01/20/2020 13:46:20	shinjuku@link.com						Login successful		["city":"Shinjuku","country":"Japan","pu
2	01/20/2020 12:10:51	shinjuku@link.com						User api key created		["name":"123456","scopes":["all"],"sta
3	01/20/2020 12:10:45	shinjuku@link.com						User api key deleted	[{"name":"0123456","scopes":["all"],"status":"NORMAL"}, {"name":"1111111","scopes":["all"],"status":"INVALID"}]	
4	01/20/2020 12:10:16	shinjuku@link.com						User api key revoked	[{"name":"1111111","scopes":["all"],"status":"NORMAL"}]	[{"name":"1111111","scopes":["all"],"sta
5	01/20/2020 12:09:52	shinjuku@link.com						User api key created		["name":"1111111","scopes":["all"],"sta
6	01/20/2020 12:05:57	shinjuku@link.com						User api key created		["name":"0123456","scopes":["all"],"sta
7	01/20/2020 09:07:22	shinjuku@link.com						Login successful		["city":"Shinjuku","country":"Japan","pu
8	01/20/2020 09:07:12	shinjuku@link.com						Login Failed		["city":"Shinjuku","country":"Japan","pu
9	01/20/2020 09:05:49	shinjuku@link.com						Login successful		["city":"Shinjuku","country":"Japan","pu

図 10-1 変更ログ

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表示する期間を設定します。

■ ログのダウンロード



をクリックし、ログを CSV 形式でダウンロードします。

■ ログの検索

特定の文字列の入ったログを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。

検索ウィンドウ右側の をクリックして詳細な検索ウィンドウを表示させ、より精度の高い検索を行うこともできます。

本画面には以下の項目が表示されます。

項目	説明
時刻 (UTC:協定世界時)	設定変更を実施した時間を表示します。
アカウント	使用されたアカウント (メールアドレス表示) を表示します。
サイト	サイトに関係する設定変更の場合、そのサイトを表示します。
プロファイル	プロファイルに関係する設定変更の場合、そのプロファイルを表示します。
SSID	SSID に関係する設定変更の場合、その SSID を表示します。
ページ	設定項目を表示します。
デバイス名	デバイスに関係する設定変更の場合、そのデバイスを表示します。
ラベル	変更内容を表示します。
古い値	更新箇所における、更新前の設定値を表示します。
新しい値	更新箇所における、更新後の設定値を表示します。

アクセスポイント

アクセスポイントの使用状況を表示します。
レポート > アクセスポイントを選択してください。

図 10-2 アクセスポイント

本ページ上で閲覧できる情報は最大で直近2か月間以内のものです。
 2か月前以前の情報は、アーカイブデータをダウンロードして確認できます。

項目	説明
タイムフレーム	直近のどのくらいの期間の情報を表示、閲覧するかを指定します。
アーカイブ	2か月より前の使用状況を、月別のエクセル (xlsx) ファイルにてダウンロードします。
デバイスレポート	レポートを閲覧するプロファイルやデバイスを選択します。
ランキングレポート	ランキングを閲覧するプロファイルや、上位何位まで表示させるか、どの項目を表示するかを選択します。
プレビュー	設定した対象のレポートを表示します。
メール送信	メールアドレスを入力し、レポートをメール送信します。Html形式で送信されます。
ダウンロード	レポートをエクセル (xlsx) ファイルでダウンロードします。

プレビューをクリックした際の表示や、メール上での表示は下記のようなものとなります。

サイト概要

#	サイト	デバイス	クライアント	使用量(MB)	使用量(%)
1	サイト1	1	2	3.19	100.00%

トップ10デバイス

#	モデル	デバイス名	デバイスUID	MACアドレス	使用量(MB)	使用量(%)
1	DBA-2820P	DBA-2820P	4C9C2084A131	8C40E0F1D8B8	3.19	100.00%

トップ10 SSIDS

#	SSID	使用量(MB)	使用量(%)
1	Nuclias_Office	3.19	100.00%
2	device_SSID	0.00	0.00%
3	SSID_01	0.00	0.00%
4	Nuclias_Guest	0.00	0.00%

トップ10クライアント

#	MACアドレス	製造メーカー	使用量(MB)	使用量(%)
1	0800112770F00000	Apple, Inc.	0.59	80.34%
2	8C40E0F1D8B8		0.14	19.66%

図 10-3 プレビュー / メール表示

アラート

検知したアラートを表示します。

レポート>アラートを選択、またはウィンドウ右上の  「アラート」を選択してください。

注意 本ページでアラートとして表示されるイベントは、事前に**管理>アラート設定**で設定されている必要があります。詳細は「アラート設定」をご確認ください。



#	重大性	時間	デバイスタイプ	デバイス名	MACアドレス	内容
1	情報	01/28/2020 09:56:30	アクセスポイント	DBA-2820P	EC:40:00:FE:7A:04	DBA-2820P ブッシュ設定が失敗しました
2	情報	01/28/2020 09:55:48	アクセスポイント	DBA-2820P	EC:40:00:FE:7A:04	DBA-2820P ブッシュ設定が成功しました
3	情報	01/28/2020 09:02:30	アクセスポイント	DBA-2820P	EC:40:00:FE:7A:04	DBA-2820P Nucliasに接続
4	情報	01/28/2020 08:58:21	アクセスポイント	DBA-2820P	EC:40:00:FE:7A:04	DBA-2820P デバイスをプロファイルに追加

図 10-4 アラート

各情報の詳細は下記の通りです。

項目	説明
重大性	アラートの重大性を「重大」「警告」「情報」で表示します。
時間	アラートが発生した日時を表示します。
デバイスタイプ	デバイスタイプを表示します。
デバイス名	事象の発生したデバイスの名前を表示します。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
内容	発生した事象の詳細を表示します。

■ アラートの処理

アラート画面は「処理されていません」と「処理されました」の2つのタブから構成されています。最初、全てのアラートは「処理されていません」に表示されています。

各項目左側のチェックボックスにチェックを入れ、「確認」をクリックすると「処理されました」タブに移動します。同様にチェックボックスにチェックを入れ、「削除」をクリックすると本ページ上から削除されます。「処理されました」タブでは削除作業のみ行えます。

「処理されていません」タブにアラートがある場合は、アラートマークに「！」が表示されます。



■ アラートの検索

特定の文字列の入ったログを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。

検索ウィンドウ右側の  をクリックして詳細な検索ウィンドウを表示させ、より精度の高い検索を行うこともできます。

ライセンス (レポート)

ライセンスの使用状況を確認することができます。

レポート > ライセンスを選択します。

#	組織名	デバイス名	MACアドレス	デバイスUID	シリアル番号	モデル名	プロファイル	登録ステータス	ライセンス状態	License quantity
1	3333	DBA-2820P	0a:1b:c2:3d:4e:5f	12345678901234	5678901234567890	DBA-2820P	test	登録されました	稼働中	1

図 10-5 ライセンス

本画面には以下の項目が表示されます。

項目	説明
組織名	組織名を表示します。
デバイス名	デバイス名を表示します。
MACアドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
デバイス UID	デバイスの UID を表示します。
シリアル番号	デバイスのシリアル番号を表示します。
モデル名	デバイスのモデル名を表示します。
プロファイル	デバイスが紐づいているプロファイルを表示します。
登録ステータス	Nuclias への登録状況を表示します。
ライセンス状態	ライセンスのステータスを表示します。
License quantity	ライセンスの数を表示します。
ライセンスキー	ライセンスキーを表示します。
登録日	ライセンスの登録日を表示します。
期限日	ライセンスの期限日を表示します。
最終オンライン	ライセンスが最後にオンラインになった日時を表示します。
最終登録	ライセンスからデバイスが取り外された日時を表示します。
ファームウェア	デバイスのファームウェアバージョンを表示します。

■ 表示項目の変更

 をクリックすると表示できる項目の一覧が表示されます。表示する項目にチェックをいれます。

■ ライセンス情報のダウンロード

 をクリックすると、ライセンスの情報を CSV 形式でダウンロードできます。

第11章 管理

- アカウント管理
- 組織管理
- ライセンス管理
- インベントリ
- ファームウェア
- アラート設定
- アドバンス設定 > SAML 設定
- アドバンス設定 > SMS 設定
- デバイスの追加

アカウント管理

ユーザ情報の管理ができます。

管理 > アカウント管理を選択してください。



図 11-1 アカウント管理

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
名前	ユーザ名を表示します。ユーザ名をクリックすると、「ユーザ名」「アクセス権限」「管理サイト」を変更できます。ログインしているユーザ自身の権限は変更できません。
Eメール	使用しているメールアドレスを表示します。
アクセスレベル	アクセスレベルと、閲覧できる組織、サイトを表示します。
役割	アカウントの権限を表示します。
管理サイト	アクセス可能な組織やサイトの数を表示します。
状態	ユーザアカウントのステータスを表示しています。 招待メール送信後、有効化前の場合は「未確認」と表示され、メールアドレスの変更やメールの再送できます。
最終接続日時	最後にログインした日時を表示します。

■ アカウントの検索

右上の検索ウィンドウに文字を入力して検索することができます。

検索対象をアカウントやサイト等に絞り込み、より細かな条件での検索をすることもできます。

第11章 管理

■ ユーザの招待

「ユーザを招待する」をクリックし、管理下の組織に新たなユーザを作成、招待します。特定のサイトタグやサイトのみ閲覧権限を持たせたユーザを作成することも可能です。

名前、Eメールアドレス、アクセス可能なサイトタグやサイト、並びに役割を設定します。ユーザ名は、アクティベーション後にユーザ自身で変更できます。

注意 既に Nuclias アカウントで使用中のメールアドレスを招待することはできません。

ユーザを招待する

名前*

1-64文字

Eメールアドレス*

1-128文字

このメールアドレスはNucliasへのログインや、各種情報を受け取るために使用されます。

アクセス権限

役割*

管理者

アクセスレベル*

組織 Nuclias_Manual

管理サイト

全てのサイト 全て

閉じる 変更の保存

図 11-2 ユーザを招待する

アクセス権限の説明は以下のとおりです。

項目	説明
管理者	全ての設定の閲覧、追加、編集、削除が可能です。
編集者	ほぼ全ての設定の閲覧、編集が可能です。 ただしユーザやデバイス、設定情報などの追加または削除の作業を行うことはできません。
閲覧者	Wi-Fi ポリシーなどの設定を確認することはできません。 また、ユーザやライセンスなどの管理設定は、閲覧のみが可能です。変更することはできません。
モニタ閲覧者	デバイスやサイトの使用状況やステータスのみ閲覧することができます。

「変更の保存」をクリックすると保存され、記載したメールアドレスへ招待メールが送付されます。

■ ユーザの削除

削除するユーザアカウントのチェックボックスにチェックを入れ、「削除」をクリックします。パスワード入力画面が表示されるので、作業者自身のパスワードを入力し、「はい」をクリックします。

ユーザが正常に削除されると、画面はログイン画面に移行し、削除アカウントのメールアドレスに削除された旨の通知が送付されます。

注意 ユーザを削除した場合、そのユーザに関連する情報もあわせて削除されます。

組織管理

組織並びにサイト、サイトタグの管理、並びにユーザの招待ができます。

管理 > 組織管理を選択し、以下の画面を表示します。



図 11-3 組織管理

項目	説明
組織	組織名を表示します。 クリックすると、サイトやサイトタグがツリー表示されます。 ツリー表示の画面からサイトやサイトタグを作成、編集できます。
タイプ	組織の属性を表示します。
サイト	登録されているサイトの数を示します。 マウスカーソルを合わせると、登録されているサイトが表示されます。
サイトタグ	登録されているサイトタグの数が表示されます。
デバイス	登録されているデバイスの状況と数を表示します。
アクセスポイント	登録されているアクセスポイントの状況と数を表示します。
スイッチ	登録されているスイッチの状況とそのデバイス数を表示します。
アクション	以下の項目をクリックし、設定を行います。 <ul style="list-style-type: none"> 「編集」：組織の編集を行います。 「サイトの作成」：サイトの作成を行います。 「サイトタグの作成」：サイトタグの作成を行います。 「ユーザを招待する」：ユーザを招待します。 「削除」：組織を削除します。 <p>注意 削除が可能な組織は、デバイス、サイト、サイトタグ、ライセンス、自身以外のアカウント等が全て無い状態のものに限ります。</p>

■ ツリー表示画面

管理 > 組織管理画面で「組織」欄の組織名をクリックすると、サイトやサイトタグがツリー表示された画面が表示されます。

ページ右上から「サイトの作成」「サイトタグの作成」を選択できます。

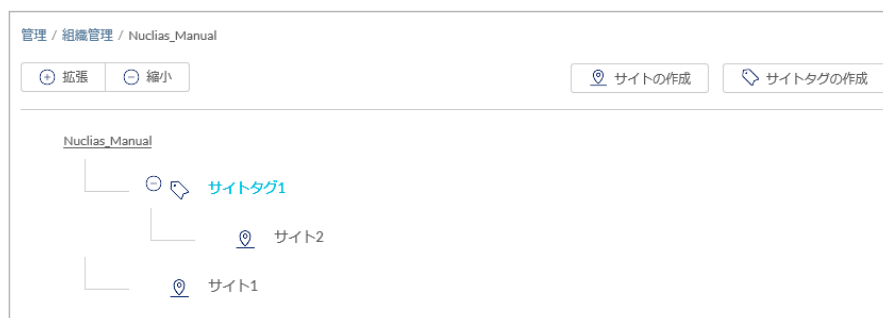


図 11-4 組織管理 - サイト

■ サイトの作成

1. 「サイトの作成」をクリックし、以下の画面を表示します。

サイトの作成

サイト名* 1-64文字

サイトタグ None

国・地域のタイムゾーン* Japan Asia/Tokyo(UTC+09:00, DST)

住所

デバイス資格情報

デバイス資格情報のユーザ名とパスワードは、ローカルのWebページからログインする際に使用されます。パスワードの長さは8~64文字に設定する必要があります。

ユーザ名 管理者 パスワード* 管理者

NTP情報

NTPサーバ1* ntp.nuclias.com NTPサーバ2

連絡先情報

名前 1-64文字 電話 1-32文字

Eメールアドレス 1-128文字

閉じる 適用

図 11-5 サイトの作成

2. 以下を入力、選択します。
 - 「サイト名」を入力
 - 「国・地域のタイムゾーン」から「Japan」を選択NTP サーバ、連絡先情報は初期状態で問題ありません（必要に応じて変更、入力してください）。

注意 NTP サーバの設定が正しくない場合、イベントログが正常に取得できません。

3. 「保存」をクリックします。

■ サイトタグの作成

「サイトタグ」を使うと、複数のサイトをまとめて管理することができます。またタグ同士で親子関係の設定を行うことができます。

1. 「サイトタグの作成」をクリックし、以下の画面を表示します。

サイトタグの作成

タグ名* 1-64 characters

親タグ None

作成するタグは、選択した親タグのサブタグとなります。どのサイトとも関連していないタグが表示されます。

閉じる 保存

図 11-6 サイトタグの作成

2. タグの名前、並びに親タグを紐づける場合は親タグをプルダウンから選択します。ただし直接サイトが紐づけられているタグを親タグにすることはできません。
3. 「保存」をクリックします。

■ サイトの編集

1. 既存のサイトにカーソルをあて、鉛筆マークをクリックします。



図 11-7 サイトの選択

2. 以下の画面で既存のサイトの編集を行います。

サイトの編集

サイト名* サイトタグ

国・地域のタイムゾーン*

設定のタイムゾーンは、ファームウェアアップデートスケジュールと各ログに反映されます。

住所

デバイス資格情報
デバイス資格情報のユーザ名とパスワードは、ローカルのWebページからログインする際に使用されます。パスワードの長さは8~64文字に設定する必要があります。

ユーザ名 パスワード*

NTP情報

NTPサーバ1* NTPサーバ2

連絡先情報

名前 電話

Eメールアドレス

図 11-8 サイトの編集

設定項目は「サイトの作成」と同じです。

「ユーザ名」と「パスワード」は、デバイスに Web GUI でローカル接続する際のユーザ名/パスワード情報です。ユーザ名は「管理者」(admin) で固定されており、変更できません。

パスワードは初期状態ではサイトごとにランダムな 8 文字が設定されています。このパスワードは変更可能ですが、AP の「モニタ/アクセスポイント/デバイス」の IP 接続情報が「DHCP」または「Static」に設定されている必要があります。

パスワードを変更する場合は、パスワード欄に文字を入力します。目のアイコンをクリックするとパスワードの表示/非表示を切り替えられます。

3. 設定後、「適用」をクリックします。
 変更した設定が Nuclias サーバに保存され、同時にデバイスへブッシュ配信されます。

■ サイトタグの編集

1. 既存のサイトタグにカーソルをあて、鉛筆マークをクリックします。



図 11-9 サイトタグの選択

2. 以下の画面で既存のサイトタグの編集を行います。



図 11-10 サイトタグの編集

3. 「変更の保存」をクリックします。

■ ユーザの招待

管理 > 組織管理 画面の「ユーザを招待する」をクリックすると、ユーザを招待することができます。詳細は「[ユーザの招待](#)」をご確認ください。

■ 組織の削除

アクション欄の「削除」をクリックし、組織を削除します。削除する場合は、予めデバイスを組織から削除しておく必要があります。Nuclias アカウントのアクセスレベルによっては、この項目は表示されません。

ライセンス管理

ライセンスの情報を確認できます。また、本画面からライセンスの追加が可能です。

注意 ライセンス切れとなった機器の動作については、動作保証外になります。

管理 > ライセンス管理を選択します。

#	状態	ライセンスキー	期間	ライセンスデバイスタイプ	登録日	組織	デバイスUID	モデル名	MACアドレス	開始日	期限日	残り時間
1	使用中	4C9434804470044582	1年 (Free)	アクセスポイント	01/28/2020 08:38:20	Nucias_Manual	82000000000000000000	DBA-2820P	EC:AD:00:0E:7A:65	01/28/2020	01/27/2021	364日

図 11-11 ライセンス管理

以下の項目が表示されます。

項目	説明
状態	ライセンスの状況を表示します。
ライセンスキー	ライセンスキーを表示します。
期間	ライセンスの期間を表示します。
ライセンスデバイスタイプ	ライセンスを使用するデバイスの種類を表示します。
登録日	デバイスが登録日時を表示します。
組織	ライセンスが使用可能な組織を表示します。
デバイス UID	ライセンスが紐づけられているデバイスの UID を表示します。
モデル名	ライセンスが紐づけられているデバイスのモデルを表示します。
MAC アドレス	ライセンスが紐づけられているデバイスの MAC アドレスを表示します。
開始日	ライセンスの使用期間の開始日を表示します。
期限日	ライセンスの期限日を表示します。
残り時間	ライセンス期限日までの残り時間を表示します。

■ ライセンスの追加

1. 「ライセンスの追加」をクリックします。
2. 購入済みのライセンスを入力し、「追加」をクリックします。

ライセンスキーの追加

ライセンスキーの追加
ライセンスキー #1*

一括インポート

図 11-12 ライセンスキーの追加

注意 登録したライセンスキーは、他の組織で使用することはできません。

■ ライセンスの一括インポート

CSV ファイルからまとめてライセンスを登録する場合は、「一括インポート」をクリックします。

下記ウィンドウが表示されますのでファイルを選択してアップロードします。

CSV ファイルのサンプルが必要な場合は、指定のメッセージをクリックします。

一括インポート

この組織に追加するライセンスを記載したcsvファイルをアップロードしてください。

テンプレートファイルのサンプルをダウンロードすることができます。 [こちら](#)

図 11-13 ライセンスの一括インポート

第11章 管理


■ ライセンス履歴の表示

「ライセンス履歴」をクリックすると、既に期限切れとなったライセンスの情報が表示されます。

■ ライセンスの検索

特定の文字列の入ったログを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。検索ウィンドウ右側の  をクリックして詳細な検索ウィンドウを表示させ、より精度の高い検索を行うこともできます。

■ ライセンス一覧表のダウンロード

 をクリックすると、ライセンス一覧表を csv ファイルでダウンロードします。

インベントリ

デバイスの登録や削除、管理ができます。

管理 > インベントリを選択します。



管理 / インベントリ

使用中 未使用 両方

デバイスの追加 一括インポート 追加

検索

#	状態	デバイス名	モデル	デバイスUID	シリアル番号	組織	サイト	プロファイル	ライセンス状態	登録日	期限日
1		DBA-2820P	DBA-2820P	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXX	Nuclias_Manual	サイト1	DBA-2820P	使用中	01/26/2020	01/27/2021

前 1 次 10

図 11-14 インベントリ

インベントリには以下の3つのタブが表示されています。

- 「使用中」タブ：ライセンスに紐づき使用しているデバイスです。
- 「未使用」タブ：デバイスのUIDは登録されているが、ライセンスやプロファイルは紐づいていないデバイスです。
- 「両方」タブ：上記「使用中」タブと「未使用」タブの両方の情報が表示されています。

以下の項目が表示されます。

項目	説明
チェックボックス	チェックボックスにチェックを入れ、「削除」をクリックすると、Nuclias からそのデバイスの登録が削除されます。 注意 デバイスを削除しても、そのデバイスに紐づけられているフリーライセンスは元の組織に残ります。そのため該当デバイスを別の組織に登録する場合、別途ライセンスを用意いただく必要があります。 注意 デバイスを Nuclias から削除すると、そのデバイスに関するイベントログは全て削除されます。そのためイベントログを残しておく必要がある場合は、事前にイベントログをダウンロードしてください。 詳細は、第8章 モニタ「アクセスポイント - イベントログ」を確認してください。
状態	デバイスのステータスを以下の色で表示します。 <ul style="list-style-type: none">緑色：オンライン赤色：オフライン灰色：Nuclias と未接続
デバイス名	デバイス名を表示します。「使用中」タブのデバイス名をクリックすると、デバイス情報画面へ移行します。
モデル	デバイスモデルが表示されます。
デバイス UID	デバイスの UID が表示されます。
シリアル番号	デバイスのシリアル番号が表示されます。
組織	紐づけられている組織が表示されます。
サイト	紐づけられているサイトが表示されます。
プロファイル	紐づけられているプロファイルが表示されます。
ライセンス状態	紐づけられているライセンスの状態が表示されます。
登録日	デバイスが Nuclias に登録された日時が表示されます。
期限日	紐づけられているライセンスの期限日が表示されます。

■ インベントリの検索

特定の文字列の入ったログを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。

■ インベントリ情報のダウンロード

 をクリックすると、インベントリの情報を CSV 形式でダウンロードできます。

■ デバイスの追加

1. 「デバイスの追加」をクリックし、以下の画面で設定を行います。

図 11-15 デバイスの追加

下記の項目を入力します。

項目	説明
デバイス UID	デバイス UID を入力します。
デバイス名	Nuclias 上で管理するためのデバイス名を入力します。
デバイスの登録	デバイス登録時に、サイト、プロファイル、ライセンスキーを紐づけ使用する場合は「有効」を選択してください。
サイト	デバイスに適用するサイトをプルダウンで選択します。
プロファイル	デバイスに適用するプロファイルをプルダウンで選択します。
ライセンスキー	<p>「更にライセンスを追加する」をクリックし、ライセンスキーを紐づけます。</p> <p>枠をクリックすると、そのデバイスで使用可能なライセンスキーがプルダウンで表示されますので、選択することができます。使用可能なライセンスキーとは、デバイスに初期状態で紐づけられているライセンスキー、または既に組織に登録されているライセンスキーです。これらとは異なるライセンスキーを使用する場合は、枠に直接入力してください。</p> <p>選択可能なライセンスキーが複数ある場合の詳細については、巻末の「付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細」をご確認ください。</p> <div data-bbox="459 1153 869 1429" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ライセンスキー #1*</p> <p>ライセンスキーを選択してください ×</p> <p>1123.1000.1111.1123.1000.1111.1123 (363 日)</p> <p>1123.1000.1111.1123.1000.1111.1123 (361 日)</p> <p>1123.1000.1111.1123.1000.1111.1123 (195 日)</p> </div> <p>注意 デバイスに紐づけられているフリーライセンスは最初にデバイスを登録した組織に保存され、他の組織で使用することはできません。該当デバイスを本組織から削除し、他の組織へ登録し直す場合、別途ライセンスを用意頂く必要があります。</p>

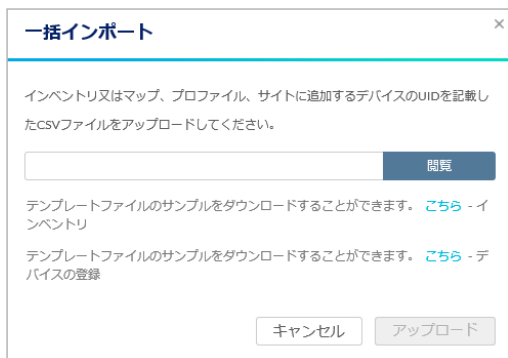
2. 設定後、「保存」をクリックします。

■ デバイスの一括インポート

CSV ファイルを用いてまとめてデバイスを登録する場合は、「一括インポート」をクリックします。

下記ウィンドウが表示されますのでファイルを選択してアップロードします。

CSV ファイルのサンプルが必要な場合は、指定のメッセージをクリックします。



一括インポート

インベントリ又はマップ、プロフィール、サイトに追加するデバイスのUIDを記載したCSVファイルをアップロードしてください。

_____ 閲覧

テンプレートファイルのサンプルをダウンロードすることができます。 [こちら](#) - インベントリ

テンプレートファイルのサンプルをダウンロードすることができます。 [こちら](#) - デバイスの登録

キャンセル アップロード

図 11-16 一括インポート（デバイスの追加）

■ デバイスの削除

削除するデバイスのチェックボックスにチェックを入れ、「削除」をクリックします。

「使用中」のデバイスは「未使用」タブに移動します。「未使用」タブのデバイスを削除すると使用中の組織から登録が削除されます。

注意

デバイスを所属組織から削除する場合は、「使用中」タブから削除した後、さらに「未使用」タブからも削除してください。未使用タブに残っている状態のデバイスは、他の組織への再登録ができません。



管理 / インベントリ

使用中 未使用 **両方**

デバイスの追加 一括インポート **削除**

<input checked="" type="checkbox"/>	#	状態	デバイス名	モデル	デバイスUID	シリアル番号	組織	サイト	プロフィール	ライセンス状態	登録日	期限日
<input checked="" type="checkbox"/>	1	●	DBA-2820P	DBA-2820P	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXX	Nuclias_Manual	サイト1	DBA-2820P	稼働中	01/28/2020	01/27/2021

前 1 次 10

図 11-17 デバイスの削除

ファームウェア

デバイスのファームウェア管理を実施します。

管理 > **ファームウェア** を選択します。

ファームウェアアップデートはサイト単位で管理します。

サイトタブで「全て」が選択されている場合はサイトを指定するようメッセージが表示されますので、サイトを指定してください。

管理 / ファームウェア

アップグレード時間 日曜日 1:00 AM

スイッチアップグレード

DBS-2000

モデル番号 DBS-2000

現在のバージョン 1.10.002

更新バージョン 1.10.002 (最新バージョン)

アップグレード時間に従う
 アップグレードスケジュールの変更:
 今すぐアップグレード 今すぐ更新する

#	モデル番号	デバイス	現在のファームウェアバージョン	ファームウェア状態	更新スケジュール	最終更新日時
1	DBS-2000	1	1.10.002	最新		06/02/2020

アクセスポイントアップグレード

DBA-1210P DBA-1510P DBA-1520P DBA-2520P DBA-2620P
 DBA-2720P **DBA-2820P** DBA-3620P DBA-3621P DBA-X1230P
 DBA-X2830P

モデル番号 DBA-2820P

現在のバージョン 2.00.000

更新バージョン 2.00.000

アップグレード時間に従う
 アップグレードスケジュールの変更:
 今すぐアップグレード

#	モデル番号	デバイス	現在のファームウェアバージョン	ファームウェア状態	更新スケジュール	最終更新日時
1	DBA-2820P	0	2.00.000	最新	アップグレード時間に従う (日曜日; 1:00 AM)	06/21/2020

キャンセル 保存

図 11-18 ファームウェア

ページ上部にある「アップグレード時間」の設定は下記の通りです。

項目	説明
アップグレード時間	組織内の全てのサイトに関わるファームウェアアップグレードの曜日と時刻を指定します。

「アクセスポイントアップグレード」内の説明は下記の通りです。

項目	説明
モデル名タブ	ファームウェアアップグレードの設定をするモデルのタブを選択します。
モデル番号	モデル名です。
現在のバージョン	現在 Nuclias 上で設定されているファームウェアバージョンです。
更新バージョン	<p>アップグレード時に適用するファームウェアをプルダウンで選択します。</p> <p>アップグレードを実施する日時を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「アップグレード時間に従う」: ページ上部の「組織スケジュール」の曜日、時刻に実施します。 「アップグレードスケジュールの変更」: 当該サイトの当該デバイスだけに適用する日付と日時を設定します。 「今すぐアップグレード」: 「今すぐ更新する」ボタンをクリックし、ファームウェアアップグレードを開始します。
デバイス情報	<p>対象のデバイスについて、以下の情報を表示します。</p> <p>「モデル番号」「デバイス」「現在のファームウェアバージョン」「ファームウェア状態」「更新スケジュール」「最終更新日時」</p>

設定後、「保存」をクリックします。

アラート設定

管理 > アラート設定を選択し、アラート設定するイベントを指定します。
 指定したイベントは、図 10-4 「アラート」画面に表示、並びに管理用メールアドレスにメール送信されます。

アラートを発報する項目が表示されます。
 「Eメール」にチェックをいれた場合、アラートが管理用メールアドレスに送信されます。アプリへのアラート送信は未サポートです。



図 11-19 アラート設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
デバイスのファームウェアは正常にアップグレードしました	ファームウェアアップグレード実施時にアラートを発報します。
ファームウェアアップグレードは失敗しました	ファームウェアアップグレードに失敗したときにアラートを発報します。
サイト並びにプロファイルは正常に更新されました	サイトおよびプロファイルが正常に更新されたときにアラートを発報します。
デバイスは Nuclias に正常に接続されました	オフライン状態のデバイスが正常に Nuclias に接続（オンライン）状態になったときにアラートを発報します。
プロファイル設定の適用に成功しました	デバイスへプッシュ設定を実施した際にアラートを発報します。
プロファイル設定の更新に失敗しました	デバイスへのプッシュ設定が失敗した際にアラートを発報します。

項目	説明
AP オフラインを何分間継続して検知したらアラートを送るか	Nuclias でオフライン状態と判断したタイミングを起点とし、引き続き指定した時間オフラインが継続した場合にアラートを発報します。プルダウンで「5」「10」「15」「30」「60」（単位：分）から指定できます。 AP が実際に Nuclias から切断された後、オフライン状態と判断されるためには、5 分間オフラインを継続している必要があります。上記は 5 分後の状態を起点とします。 そのため、例えば本項目で「10 分」と設定した場合、実際に AP が Nuclias から切断されてからアラートメールが送付されるためにはおよそ 15 分以上かかります。

注意 上記以外にも、デバイスに紐づけられたライセンスの期限日が近くなった場合にアラートメールが送信されます。
 30 日前、7 日前、3 日前、1 日前に通知されますので、継続してデバイスを使用する場合は新しいライセンスを適用してください。

設定後、「保存」をクリックします。

アドバンスト設定 > SAML 設定

管理 > アドバンスト設定 > SAML 設定を選択し、以下の画面で SAML の設定を行います。

図 11-20 SAML 設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
SAML SSO	SAML SSO を有効または無効に設定します。
エンティティ ID	エンティティ ID が表示されます。設定作業には使用しません。
URL	URL が表示されます。IdP サーバに設定する Assertion Consumer URL です。
TRUSTED IDENTITY PROVIDER (IDP)	TRUSTED IDENTITY PROVIDER (IDP) が表示されます。「追加」をクリックし、SAML IDP を追加することも可能です。
SAML ロール	SAML ロールが表示されます。「追加」をクリックし、SAML IDP を追加することも可能です。

■ TRUSTED IDENTITY PROVIDER (IDP) の追加

1. TRUSTED IDENTITY PROVIDER (IDP) の「追加」をクリックし、以下の画面を表示します。

図 11-21 SAML Idp の追加

- 以下の項目を設定します。
 - 「名前」：SAML IDP の名前を入力します。
 - 「IdP の追加」：「URL」「Issuer」「証明書」「ログアウト URL」「X.509 cert SHA1 fingerprint」を入力します。
 - 「IdP メタデータのインポート」：詳細な情報を含んだ metadata XML ファイルをインポートします。
- 設定後、「保存」をクリックします。

■ SAML ロールの追加

1. SAML ロールの「追加」をクリックし、以下の画面を表示します。

図 11-22 SAML Idp の追加

2. 以下の項目を設定します。

- ・「名前」：SAML IDP の名前を入力します。
- ・「役割」：「管理者」「編集者」「閲覧者」「モニタ閲覧者」から選択します。
- ・「アクセスレベル」：アクセスレベルが表示されます。
- ・「管理サイト」：サイトおよびサイトタグを選択します。

3. 設定後、「保存」をクリックします。

■ LDAP サーバからのログイン

IdP サーバから Nuclias にログインを実施する場合は、IdP サーバ側に以下の情報を入力する必要があります。

IdP サーバの設定方法等につきましては、各サーバの説明書等をご確認ください。

項目	説明
Assertion Consumer URL	Nuclias の 管理 > アドバンスド設定 > SAML 設定 画面の「URL」に記載されている URL を入力します。
SAML Attributes	以下のとおり記載します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ userName：任意のユーザ名 ・ roleName：Nuclias の管理 > アドバンスド設定 > SAML 設定画面の「SAML ロール」に作成されている「名前」を入力します。 ・ email：任意のメールアドレスを入力します。

アドバンスト設定 > SMS 設定

注意 SMS 設定は未サポートです。

管理 > アドバンスト設定 > SMS 設定を選択し、以下の画面で SMS の設定を行います。

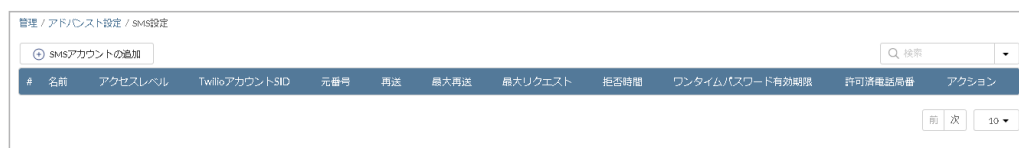


図 11-23 SMS 設定

■ SMS アカウントの追加

1. 「SMS アカウントの追加」をクリックし、以下の画面を表示します。

図 11-24 Twilio SMS 設定の追加

2. 以下の項目を設定します。

項目	説明
名前	SMS 設定の名前を 1-64 文字で入力します。
Twilio アカウント SID	Twilio アカウント SID を 1-64 文字で入力します。
Twilio 認証トークン	Twilio 認証トークンを 1-128 文字で入力します。
Twilio 番号	Twilio 番号を入力します。
再送 (分)	ワンタイムパスワードが記載された SMS を再送できるようになる時間 (単位: 分) を設定します。 「0」に設定した場合はすぐに再送できません。
最大再送 (回)	ワンタイムパスワードを要求できる最大回数を設定します。 「0」に設定した場合は再送できません。
最大リクエスト (回)	ワンタイムパスワードを要求できる最大回数を設定します。 「0」に設定した場合は無制限に要求できます。
拒否時間 (分)	ワンタイムパスワードの再送または要求制限に達した後、再度要求ができるようになるまでにクライアントが待機しなければならない時間 (単位: 分) を設定します。 「0」に設定した場合はすぐに要求できます。
ワンタイムパスワード有効期限 (分)	ワンタイムパスワードが有効な時間 (単位: 分) を設定します。
許可済電話番号	ワンタイムパスワード SMS の要求が許可されている国の通話コードです。コードはカンマで区切る必要があります。 ワイルドカードは、すべてのコードが許可されていることを意味します。
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。

3. 設定後、「保存」をクリックします。

デバイスの追加

デバイスを Nuclias に追加する方法について説明します。

1. **管理 > デバイスの追加**をクリックし、以下の画面でデバイスの追加作業を行います。

図 11-25 デバイスの追加

2. 以下の項目を設定します。

項目	説明
デバイス UID	デバイス UID を入力します。
デバイス	Nuclias 上で管理するためのデバイス名を入力します。
サイト	デバイスに適用するサイトをプルダウンで選択します。
プロファイル	デバイスに適用するプロファイルをプルダウンで選択します。
ライセンスキー	<p>「更にライセンスを追加する」をクリックし、ライセンスキーを紐づけます。</p> <p>枠をクリックすると、そのデバイスで使用可能なライセンスキーがプルダウンで表示されますので、選択することができます。使用可能なライセンスキーとは、デバイスに初期状態で紐づけられているライセンスキー、または既に組織に登録されているライセンスキーです。これらとは異なるライセンスキーを使用する場合は、枠に直接入力してください。</p> <p>選択可能なライセンスキーが複数ある場合の詳細については、巻末の「付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細」をご確認ください。</p> <div data-bbox="491 1146 901 1422" data-label="Image"> </div> <p>注意 デバイスに紐づけられているフリーライセンスは最初にデバイスを登録した組織に保存され、他の組織で使用することはできません。該当デバイスを本組織から削除し、他の組織へ登録し直す場合、別途ライセンスを用意頂く必要があります。</p>

3. 設定後、「保存」をクリックします。

第 12 章 ヘルプ

- 連絡をする

連絡をする

ヘルプ > 連絡をする をクリックし、情報を記入することにより Nuclias に関するお問い合わせができます。

The screenshot shows a web form titled 'ヘルプ / 連絡をする' (Help / Contact Us). The form is titled '連絡をする' (Contact Us) and contains the following fields:

- 名前*** (Name): A text input field with the placeholder 'DLINK'.
- Eメール*** (Email): A text input field with the placeholder 'phn@dlinc.com'.
- 電話** (Phone): A text input field with the placeholder '1-32文字' (1-32 characters).
- 問題種別*** (Issue Type): A dropdown menu with the option '選択してください' (Please select).
- 内容*** (Content): A large text area with the placeholder '1-1024文字' (1-1024 characters).
- 添付** (Attachments): A section for uploading files, with a note: '添付イメージ画像は1ファイルあたり最大2MBです。' (Attached image files are up to 2MB per file). It includes a drag-and-drop area with the text '画像をここにドラッグ&ドロップしてください' (Please drag & drop images here) and a button 'ファイルの閲覧' (View file).

A '送信' (Send) button is located at the bottom center of the form.

図 12-1 連絡をする

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
名前	自身の名前を入力します。
Eメール	連絡先のメールアドレスを入力します。
電話	必要に応じ、電話番号を入力できます。 ただし、Nuclias は電話による問い合わせや回答は実施していません。
問題種別	問い合わせ内容に最も近いカテゴリをプルダウンから選択します。 プルダウンメニューは「設定」「セットアップ」「デバイスの検出」「ライセンスの問題」「App 問題」「プライバシー関連」です。 「設定」「セットアップ」「デバイスの検出」「ライセンスの問題」を選択した場合、新たに「デバイスタイプ」「問題のあるデバイス」項目が表示されますので、該当するデバイスのタイプと UID を選択してください。
内容	発生した事象の詳細を記述してください。
添付	画面キャプチャやシステム構築図など、事象をより詳細に把握できる資料がある場合は添付します。 1つのファイルにつき最大2MBまで対応できます。

入力後、「送信」をクリックします。

付録

- 付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細
- 付録B Eメール認証時の画面
- 付録C 機器故障の際は

付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細

注意 ライセンス切れとなった機器の動作については、動作保証外になります。

■ ライセンスを複数適用する場合

1台のデバイスに複数のライセンスを適用する場合、適用した順に#1、#2、・・・と番号が割り振られ、#1から順に使用されます。#2以降のライセンスは、それより若い番号のライセンスが全て消費されるか手動で解除された後にはじめて使用開始されます。例えば以下のような場合、ライセンスキー「QST・・・」が先に使用されます。

デバイスの追加

デバイスUID* 123123456789

デバイス名 Device_1

登録するデバイスのUIDを入力してください
UID フォーマットはXXXX-XXXX-XXXXまたはXXXXXXXXXXXXです。

サイト* aaaa

プロフィール* 1

ライセンスキー # 1* QST123456789

ライセンスキー # 2* UDM123456789

+ 更にライセンスを追加する

キャンセル 保存

図 13-1 デバイス追加画面

■ ライセンスの開始日と期限日について

ライセンスキーの「開始日」は、そのライセンスキーを適用させたデバイスが最初に Nuclias に接続され、オンラインになった日です。開始日が決まると自動的に期限日も決まり、この期限日は変更することはできません。一度オンラインにすると、その後デバイスがオフラインになった場合やデバイスの登録が解除された場合でも、ライセンスは使用中の状態を継続しますのでご注意ください。

■ 機器交換時のライセンスの適用について

デバイスの故障などにより機器交換が必要になった際、Nuclias サイト上のデバイス削除や新デバイスの追加操作は、お客様自身（管理者権限のユーザ）にて実施頂きます。

新デバイスを登録する際は、故障デバイスが使用していたライセンスキーを適用することができます。

これによりデバイスが元々所有しているライセンスキーは未使用の状態になるため、別途有効に使用することができるようになります。

- ・ 故障したデバイスの削除方法については、「[デバイスの削除](#)」を参照してください。
デバイスを削除すると、そのデバイスに紐づけられていたライセンスはどのデバイスにも紐づけられていない状態となり、他のデバイスに紐づけられるようになります。
- ・ 新しいデバイスとライセンスの追加方法については、「[デバイスの追加](#)」を参照してください。

付録 B Eメール認証時の画面

キャプティブポータルのEメール認証時に、サーバから入力されたメールアドレスに送付されるメールは以下の通りです。

タイトル	Verify your email to use Wi-Fi
送信元	D-Link Nuclias <verify@nuclias.com>
本文	<p>Dear Wi-Fi guest user,</p> <p>Welcome. Please click the link to continue Wi-Fi use.</p> <p>https://mail.redirect.nuclias.com/email_url.ccp?tid=1234567890123456&email=XXXXXXxxxxXXXXXXxxxxxXXXXXXxxxxx==&otp=XXXXXXxxxxxXXXXXXxxxxxXXXXXXxxxxx</p> <p>ようこそ！Wi-Fiの使用を続けるには、上記のリンクをクリックしてください。 환영합니다! Wi-Fi를 계속 사용하시려면 위의 링크를 클릭해 주십시오. 欢迎!请单击上面的链接继续使用Wi-Fi。 Bienvenue! Veuillez cliquer sur le lien ci-dessus pour continuer à utiliser le Wi-Fi. Benvenuto! Fare clic sul collegamento sopra per continuare a utilizzare il Wi-Fi. ¡Bienvenido! Haga clic en el enlace anterior para continuar con el uso de Wi-Fi. Herzlich willkommen! Bitte klicken Sie auf den obigen Link, um die Wi-Fi-Nutzung fortzusetzen.</p> <p>Powered by Nuclias Cloud</p>

※記載される URL は、送付されるメールによって異なります。

付録 C 機器故障の際は

本製品はビジネス向けネットワーク製品の長期無償保証サービス リミテッドライフタイム保証の対象製品です。故障時は当社 WEB サイト「各種お問い合わせ」ページ、故障・修理申請より申請ください。

故障・修理申請

<https://www.dlink-jp.com/support/contact>

D-Link ではリミテッドライフタイム保証の他に有償保守サービスを提供しています。有償保守サービス詳細については、次の URL より保守約款、仕様書をご確認ください。

有償保守サービス詳細

<https://www.dlink-jp.com/support/support-info>

注意 製品保証に基づく修理のご依頼、並びに有償保守サービスやその他理由による機器交換を頂く場合、必ず事前にお客様にて Nuclias からデバイス UID 削除をし、元々紐づいていたライセンスキーを交換後の AP で使用できる状態にしてください。もしデバイス UID の削除を実施しておらず、交換後の AP にて新しいライセンスを適用することになった場合でも、苦情およびライセンス期間の延長等はお請けできません。

D-Link はお客様の設定画面に接続できないため、ご依頼を頂いてもデバイス UID の削除はできません。そのためデバイス UID 削除を忘れたことによる、苦情およびライセンス期間の延長、代替ライセンスの配布等はお請けできません。